

# ひめじ創生戦略

～ふるさと・ひめじにプラスワン～

〔人口ビジョン〕〔総合戦略〕



## ～活力ある「ふるさと・ひめじ」を未来に継承するために～

本市では、本格的な人口減少社会の到来を踏まえ、これまでも現状の人口規模「53万人」の維持を目標に掲げ、子育て支援や地域経済の活性化に取り組むなど、人口減少問題に対する危機感を持って施策を展開してきました。

しかしながら、近年は東京圏や阪神地域への若い世代の流出が増加するとともに、死亡数が出生数を上回る状況が続いており、今後、何の対策も講じなければ、2060年の本市の人口は36万人になると見込まれています。

一方で我が国の総人口は、2008年をピークに減少局面に入っており、減少幅は年々拡大しています。さらに地方から東京圏への人口流出が一層進む中、国においては、地域経済の縮小などのさまざまな課題に対応するため、まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略を策定し、事業を推進しています。

こうした状況の下、本市ならではの地方創生、すなわち本市が播磨の連携中枢都市にふさわしい人口規模と経済力を今後も維持し続け、本市に暮らす人々が幸せを実感し、また、本市に多くの人々が訪れ、交流する活力あふれる「ふるさと・ひめじ」を未来につないでいくための基本的な目標と施策を定める、「ひめじ創生戦略」を策定することとしました。

人口減少社会を克服し、地域の活力を維持するためには、市民生活に密着したさまざまな施策を長期的にかつ総合的に展開していく必要がありますが、この戦略では、特に、ものづくり産業や姫路城等の本市ならではの強みを活かした地域経済の活性化を好循環のスタートと位置づけ、重点的に推進してまいります。これにより得られる財政力等の活力が、生涯を通じ心豊かで安心できる市民生活や働きやすい環境へと循環するひと・しごとの好循環モデルを構築していきたいと考えています。

また、この戦略では、持続可能な都市の姿として、「生きがいと魅力ある 住みよい都市 姫路」を目指してきたこれまでの取組みに加えて、本市の魅力や強みを再発見し、新たな視点や価値観から施策を展開する「ふるさと・ひめじにプラスワン」の取組みを進めていきます。市民一人ひとりの取組みも「プラスワン」につながるようご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、戦略策定に当たり終始熱心にご議論いただきましたひめじ創生戦略会議の委員の皆さま、アンケート調査やパブリック・コメント手続などを通して貴重なご意見やご提案をいただきました市民の皆さまに心から感謝申し上げます。

平成28年（2016年）3月

姫路市長 石見利勝

## 《 目 次 》

### I.ひめじ創生戦略〔人口ビジョン〕

1. 人口ビジョン策定の趣旨	1
2. 社会潮流（全国）	1
(1) 国の基本認識	1
(2) 地方創生の取組み	2
3. 姫路市の概況	3
(1) 地理的・自然的特性	3
(2) 歴史的特性	4
(3) 広域行政の取組み	4
(4) 交流都市としての特性	6
4. 姫路市の基本認識	6
(1) 人口減少の状況	6
(2) 将来の人口推計	19
(3) 人口の減少が地域の将来に与える影響・課題	22
5. 人口減少問題への対応の方向性	27
6. 人口シミュレーション	27
(1) 国立社会保障・人口問題研究所の推計（パターン1）	27
(2) 国の目指す出生率に準拠（パターン2）	28
(3) 播磨圏域連携中枢都市圏ビジョンの将来の人口目標に準拠（パターン3）	28
(4) 兵庫県が目指す人口目標に準拠（パターン4）	28
7. 目指すべき定住人口	29
8. 連携による交流人口の増加	31

### II.ひめじ創生戦略〔総合戦略（2016年度～2020年度）〕

1. 基本的な考え方	32
2. 留意すべき姫路市の特徴	33
(1) 産業	33
(2) 交通	39
(3) 観光	40
(4) 暮らし	43

3. 5つの基本目標	44
(1) 【基本目標1】 地域経済を活性化し、安定した雇用を創生	44
(2) 【基本目標2】 学び、働き、暮らし、交流する新しいひとの流れを創生	44
(3) 【基本目標3】 生涯を通じていきいきと活躍できる社会を創生	44
(4) 【基本目標4】 出産、子育てにやさしい社会を創生	45
(5) 【基本目標5】 播磨の中核都市として魅力ある都市・圏域を創生	45
4. 今後の施策の方向	45
5. 取組みの基本方針	50
(1) 市民との協働による戦略推進	50
(2) 広域、市全体、地域ブロックの視点	50
(3) 交流人口を重視した取組み	50
(4) 4つの連携（広域連携・産官学等連携・国県との連携・市内連携）による推進	50
(5) 成果を重視した進捗管理、バージョンアップ	51

## 【資料】

1. ひめじ創生戦略策定までのスケジュール	55
2. ひめじ創生戦略会議 委員名簿	56
3. ひめじ創生戦略会議開催要領	57
4. 用語解説（50音順）	58

## 【アンケート】

市民アンケート調査報告書	62
--------------	----

### ◎図表について

数値について特段の注記がない場合は、平成18年（2006年）合併前の旧姫路市、旧家島町、旧夢前町、旧香寺町、旧安富町の合算値としています。

### ◎用語解説について

わかりにくい用語については、※をつけたうえで巻末に用語解説（50音順）を掲載しています。





# 本編

人口ビジョン

総合戦略

# I ひめじ創生戦略〔人口ビジョン（2060年）〕

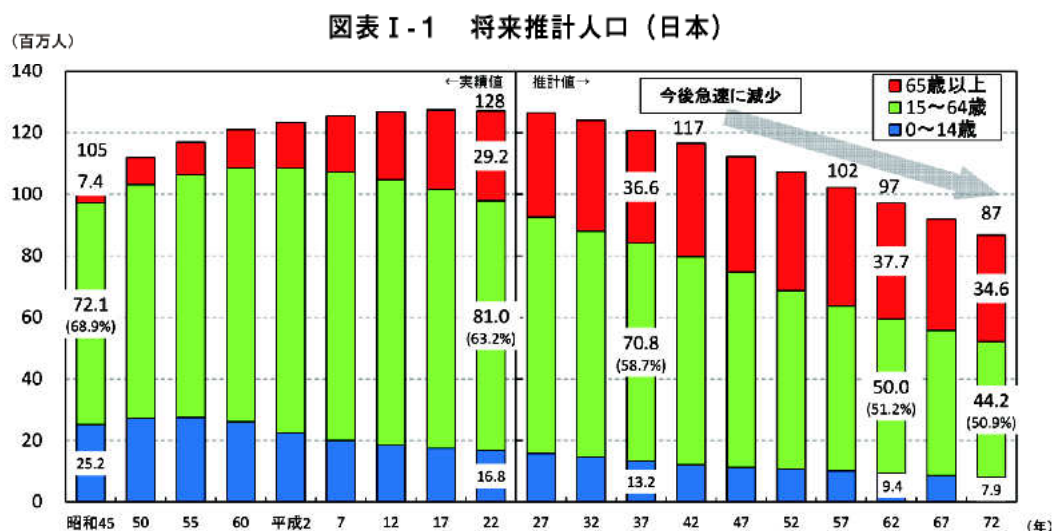
## 1. 人口ビジョン策定の趣旨

人口ビジョンは、人口急減と少子高齢化の進行という人口問題について、現在から平成72年（2060年）までの本市の姿を展望し、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域社会を維持するため、将来に与える影響や課題、今後取り組むべき方向性を市民全体で共有することを目的に策定する。

## 2. 社会潮流（全国）

### （1）国の基本認識

我が国の総人口は、今後急速に減少が進み、平成72年（2060年）に8,700万人を切り、平成112年（2100年）には5,000万人を切ると推計されている。

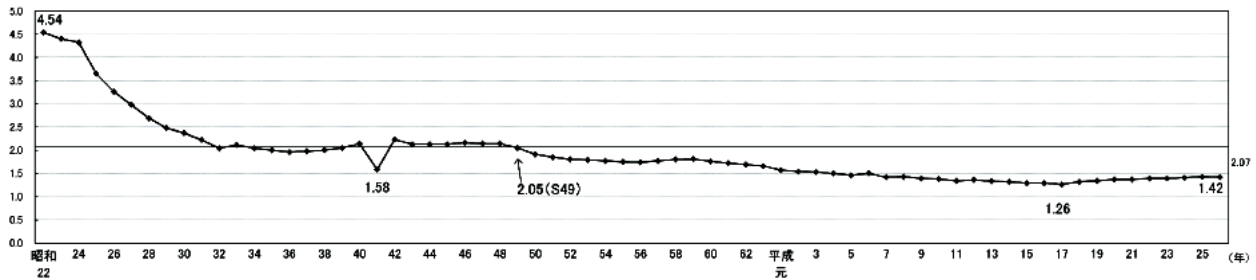


（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」より作成

日本の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）は戦後、低下傾向で推移し、昭和49年には人口置換水準である2.07を下回り、平成17年（2005年）には過去最低の1.26を記録した。その後持ち直し、平成25年（2013年）には1.43まで回復したものの、平成26年（2014年）には1.42と9年ぶりに減少した。（人口を維持するために必要な合計特殊出生率である人口置換水準は2.07（平成24年（2012年）現在））

生産年齢人口※の減少は、経済活力の低下を招くとされており、とりわけ地方都市においては、活力低下がさらなる大都市への人口の流出を招く悪循環により、地域経済がさらに縮小することが懸念される。

図表 I-2 合計特殊出生率の推移（日本）



(資料) 厚生労働省「人口動態統計」より作成

## (2) 地方創生の取組み

我が国が直面する地方創生・人口減少の克服という構造的課題に正面から取り組むため、平成26年(2014年)9月に政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、同年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定した。

まち・ひと・しごと創生長期ビジョンでは、人口減少は経済社会に対して大きな重荷になるという認識のもと、「東京一極集中の是正」「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」「地域の特性に即した地域課題の解決」の3つの視点から目指すべき将来の方向を定め、中長期的には平成72年(2060年)に1億人程度の人口を確保し、2050年代に実質GDP成長率1.5%~2%程度を維持することを目標としている。

平成32年(2020年)までの基本目標として、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の4つを掲げている。

図表 I-3 国の長期ビジョンと総合戦略の全体像



(資料) まち・ひと・しごと創生本部「まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』と『総合戦略2015改訂版』の全体像」

### 3. 姫路市の概況

#### (1) 地理的・自然的特性

本市は、都市部に加え、海、山、川という豊かな自然を有している。また、神戸市まで約50km、岡山市まで約70km、大阪市や鳥取市までは80~90kmの直線距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっている。

さらに、県内第2位の製造品出荷額等を誇る屈指のものづくり都市であり、それを支えるインフラとして道路・鉄道・港湾などが充実し、交通利便性が高い点にも特徴がある。

北部は、豊かな森林丘陵地や田園地が広がるとともに、標高700~900m級の山並みが連なっている。中南部は、JR姫路駅を中心に市街地が広がっており、丘陵部が市街地内に点在している。また、市川、夢前川、揖保川などの河川が南北に流れ、瀬戸内海には大小40余りの島が点在し、群島を形成している。気候は、瀬戸内海気候に属し、年降水量、降水日数ともに少なく、四季を通じて温かな日が多く、自然災害の少ない地域である。

## (2) 歴史的特性

姫路の地は古くから交通の要衝として栄え、播磨の中心として発展してきた。

現在の姫路市は、明治22年（1889年）4月に江戸時代の城下町とその外縁部（面積約3km<sup>2</sup>）を市域とする人口約25,000人の都市として、全国30市とともに我が国初の市制を施行したところからはじまる。

大正時代には、姫路駅周辺は一大ターミナルとして商業施設が集積するとともに、旧制高校のうちの1校である旧制姫路高等学校が大正13年（1924年）に開校し、文教府としての側面も持つようになった。

工業化の面では、明治後期から昭和にかけて紡績業等の軽工業が発展するとともに、大正から昭和にかけて臨海部に製鉄業等の重工業が進出し、人口の集積に伴い市街地が拡大していった。

太平洋戦争では、2回の空襲により市街地は壊滅的な打撃を受けたが、戦後復興を早期に果たすべく市のシンボルロードである大手前通りの整備や市街地の改造に取り組み、姫路駅周辺の復興が図られた。高度経済成長期には、播磨臨海工業地帯の中心としての役割を担い、商工業都市として今日の姿へと発展を遂げてきた。

平成5年（1993年）に姫路城が法隆寺とともに日本で初めて世界文化遺産に登録され、平成8年（1996年）には、最初に中核市へ移行した全国12市の一つとして、政令指定都市に準じる都市に位置づけられた。また、本市は、明治から昭和40年代にかけて計11回に及ぶ市町村合併により市域を拡大してきた。平成18年（2006年）には、近隣4町（家島町、夢前町、香寺町、安富町）と39年ぶりに合併した。

現在、産業面では、製造業、いわゆる「ものづくり」の厚い集積があるという特性を備え、臨海部には鉄鋼、化学などの大企業やそれらを支える技術力のある中小企業が集積し、全国有数の工業地帯を形成している。

また、市内に姫路工業大学を前身とする兵庫県立大学工学部や全国初の「公私協力方式」で設立された姫路獨協大学などがあり、産官学が連携して、研究協力や学術交流を行っている。

平成27年（2015年）3月には平成の大修理を終えた姫路城がグランドオープンしたことにより、観光客の一層の増加が見込まれている。

## (3) 広域行政の取り組み

本市はこれまでも西播磨市町長会（昭和58年度設立）、播磨地方拠点都市推進協議会（平成4年度設立）、播磨広域連携協議会（平成24年度設立）等による活動など広域的な視点から地域活性化に積極的に取り組んできた。

平成27年度より、本市は「播磨圏域連携中枢都市圏※」における圏域の中心都市となり、この圏域が地方が踏みとどまるための拠点として、人口減少の防波堤となることが期待されている。

播磨圏域（8市8町）の面積は、2,800.41km<sup>2</sup>であり、兵庫県内で占める割合は、33.4%に達し、人口は、132.7万人であり、兵庫県内での割合は23.8%に達する。

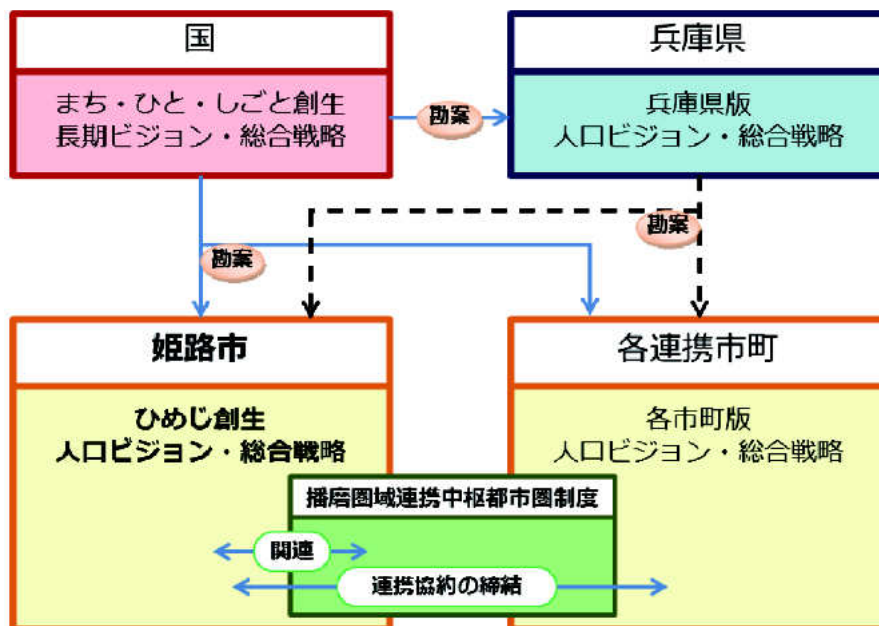


具体的な取組みとしては、地方において中枢機能を担う拠点都市と近隣市町とが連携中枢都市圏を形成し、構成市町が従来進めてきた特色あるまちづくりを発展させながら、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次都市機能※の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」の3つの役割を果たすための取組みを進め、圏域全体の雇用の創出、定住促進、地域の活力向上を図っていくこととしている。

図表 I-4 播磨圏域連携中枢都市圏の8市8町



図表 I-5 地方創生と連携中枢都市圏制度の関係（イメージ図）





#### (4) 交流都市としての特性

本市は、世界文化遺産・姫路城を有していることにより、世界中から多くの観光客を集めている。また、高次都市機能の集積・強化を目指す都心部においては、企業や教育・研究機関など、人、モノ、資本、サービス、情報などが交流している。

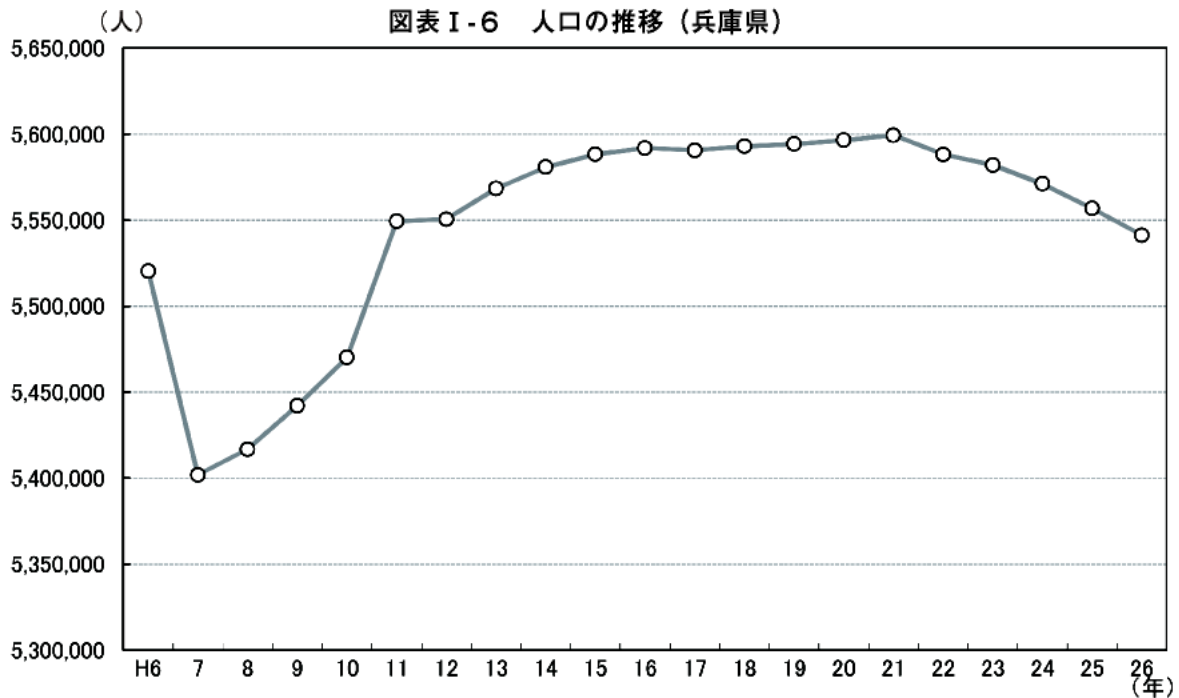
今後、播磨圏域の連携中枢都市として魅力を高め、広域観光を推進するなど圏域内外との交流により、圏域内の市町全体の活性化につなげていく必要がある。

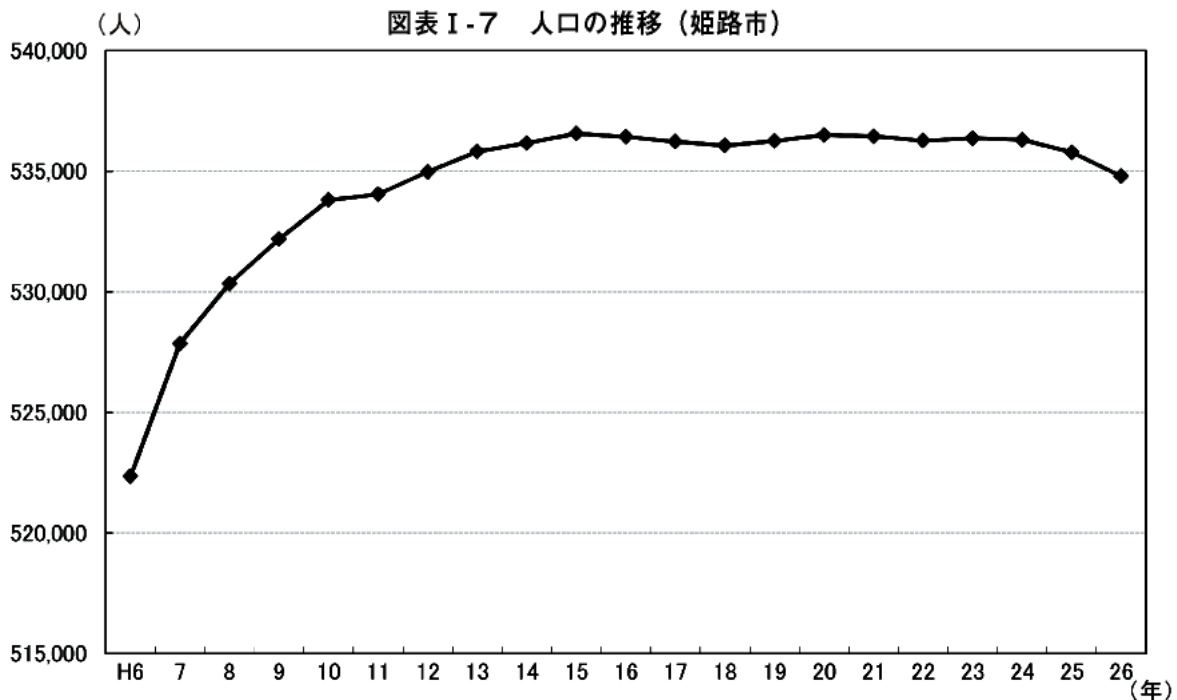
## 4. 姫路市の基本認識

### (1) 人口減少の状況

#### ① 総人口の推移

我が国の人口は平成20年（2008年）をピークとして減少に転じている。また、兵庫県の人口については、阪神・淡路大震災が発生した平成7年（1995年）に大幅に減少した後、増加傾向で推移していたが、平成21年（2009年）をピークに減少が続いている（図表 I-6）。こうした中、本市の人口は微増微減を繰り返し、53万人台の人口を維持してきたが、平成26年（2014年）の人口は53.5万人と平成23年（2011年）の53.6万人から約1千人減少するなど、近年減少傾向で推移している（図表 I-7）。

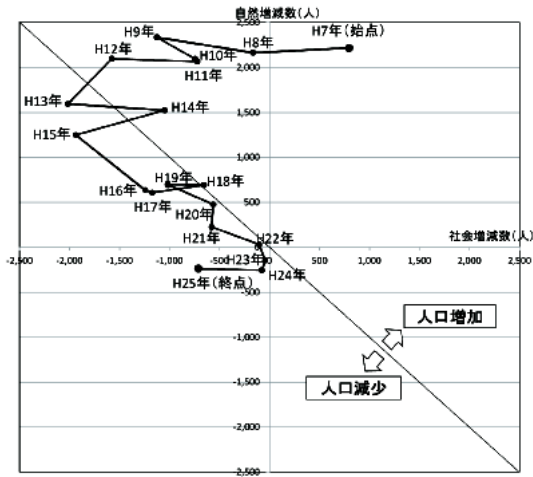




本市における人口増減は、かつては自然増加数が大きく、社会減少数※を上回っていたことで、全体の人口を増加させていたが、徐々に自然増加数が縮小して社会減少数をカバーできなくなり、近年は自然減少に転じて社会減少とあわせて全体としての人口減少幅を大きくしている（図表 I-8）。少子高齢化の進行により、今後、自然減少の幅は拡大していくと考えられ、社会増減が少々増加に転じても、全体の人口は減少していくと見込まれる。

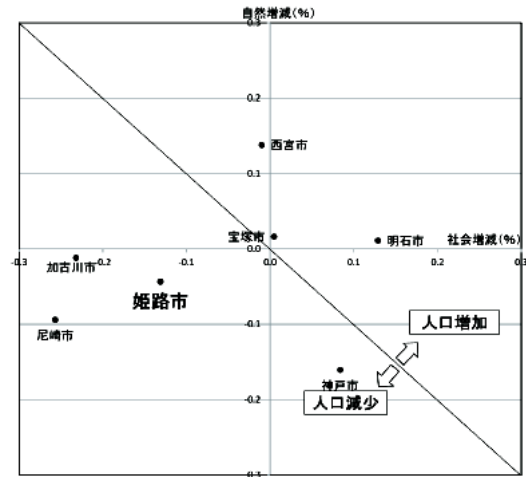
兵庫県内の政令市、中核市、特例市において、人口が社会減かつ自然減となっているのは、本市のほか、尼崎市と加古川市である。自然増となっているのは西宮市、明石市、宝塚市であるが、西宮市以外は自然増の幅はわずかとなっている。神戸市は社会増であるが、自然減をカバーできず、全体として人口が減少している（図表 I-9）。

図表 I - 8 姫路市における人口増減の推移



(資料) 兵庫県「推計人口年次推移等(市区町別)」より作成

図表 I - 9 兵庫県下の政令市・中核市・特例市の比較：平成25年

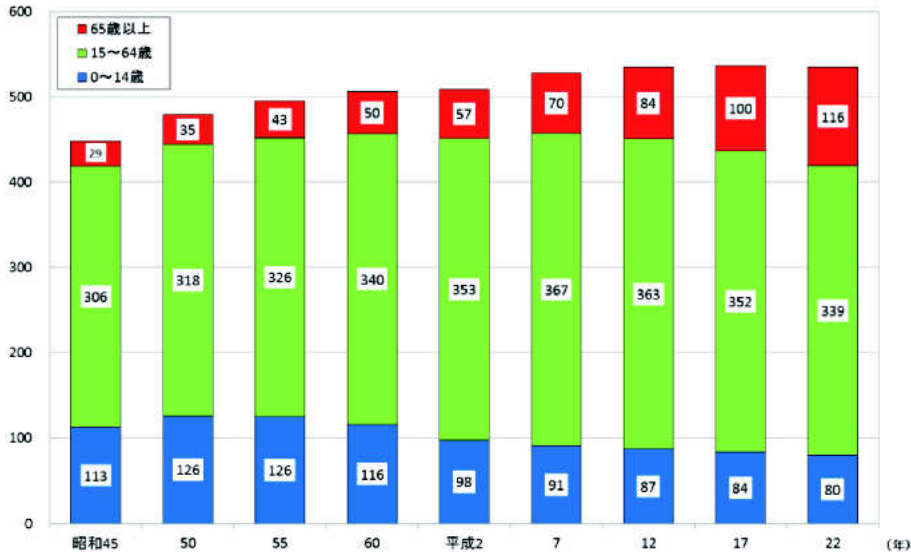


② 年齢3区分別人口の推移

平成2年(1990年)から平成22年(2010年)までの20年間で、本市の65歳以上の高齢者人口は59千人増加する一方、生産年齢人口である15~64歳は14千人減少し、15歳未満の年少人口も18千人減少している。

しかし、全国の数値と比較して、本市は15歳未満の割合が高く、高齢化率が25%未満にとどまっており、人口減少、少子高齢化が進む中で比較的活力を維持している都市といえる。

図表 I - 10 年齢3区分別人口割合の推移(姫路市)

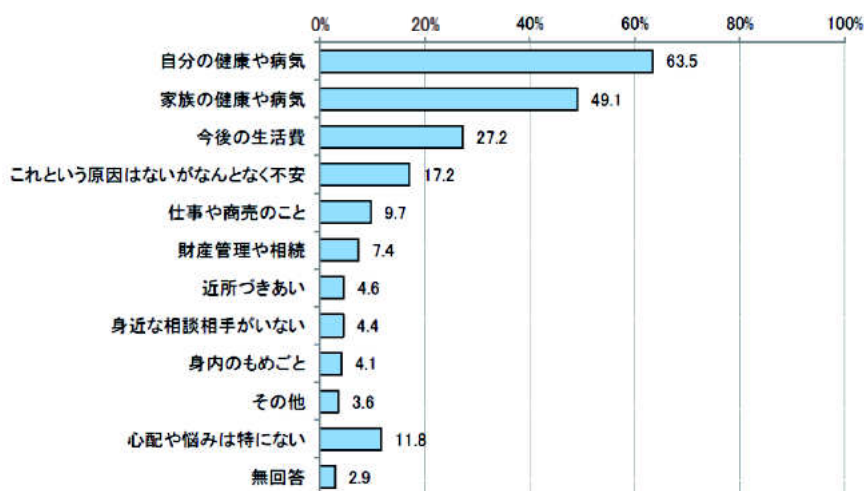


(資料) 総務省「国勢調査報告」より作成

全国よりは、緩やかであるものの、本市においても高齢化に関する課題を分析し対応することは重要である。

50歳以上の市民を対象としたアンケート調査によると、今後、何らかの心配や悩みがある人は9割近くに達し、その内容は「自分の健康や病気」、「家族の健康や病気」といった健康に関する心配や、「今後の生活費」が多くなっている。

図表 I - 11 現在抱えている心配や悩み [n=1259] (複数回答)

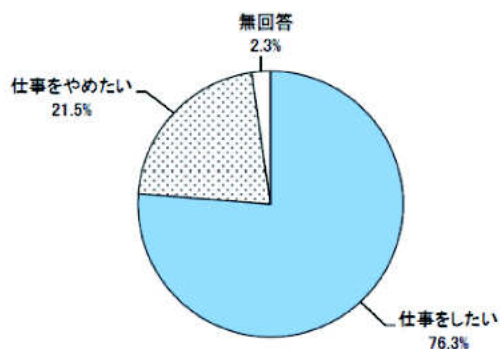


(資料) 姫路市生涯現役推進計画【改訂版】

市民意識及び生活実態調査：50歳以上の3,500人を対象に、平成25年8月に郵送でアンケート調査を実施

また、76.3%の人が定年後も仕事をしたいと希望しており(図表 I - 12)、45.5%の人が臨時・パート、43.1%が常勤の勤め人を希望している(図表 I - 13)。

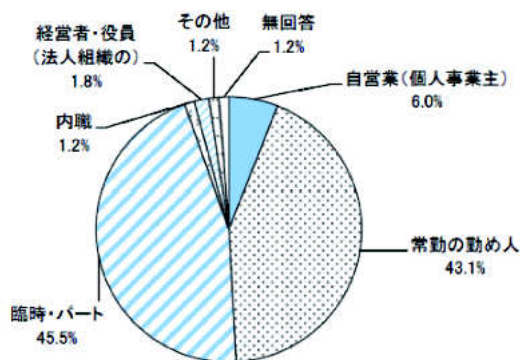
図表 I - 12 定年後の仕事の希望 [n=219]



(資料) 姫路市生涯現役推進計画【改訂版】

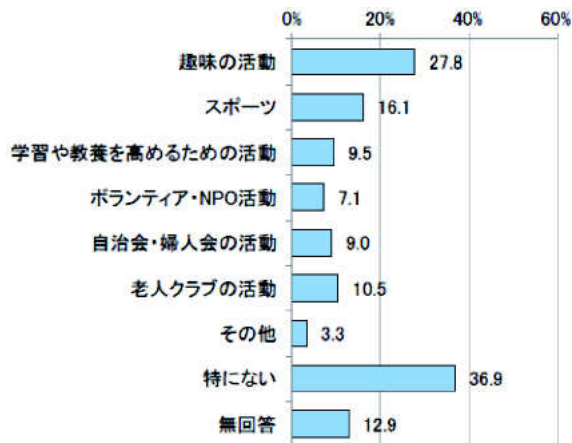
市民意識及び生活実態調査：50歳以上の3,500人を対象に、平成25年8月に郵送でアンケート調査を実施

図表 I - 13 希望する就労形態 [n=167]

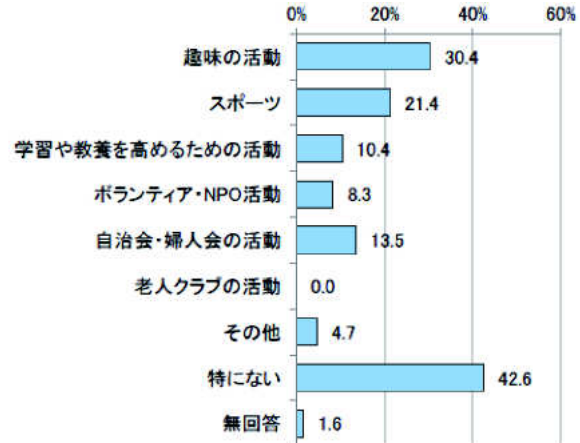


さらに、趣味の活動やスポーツ、ボランティアなど何らかの活動をしている人は、60歳以上、50歳代ともに約半数となっているが、特に活動していない人も約4割と少なくない。

図表 I - 14 現在している活動【60歳以上】  
[n=1,259：複数回答]



図表 I - 15 現在している活動【50歳以上】  
[n=444：複数回答]



(資料) 姫路市生涯現役推進計画【改訂版】

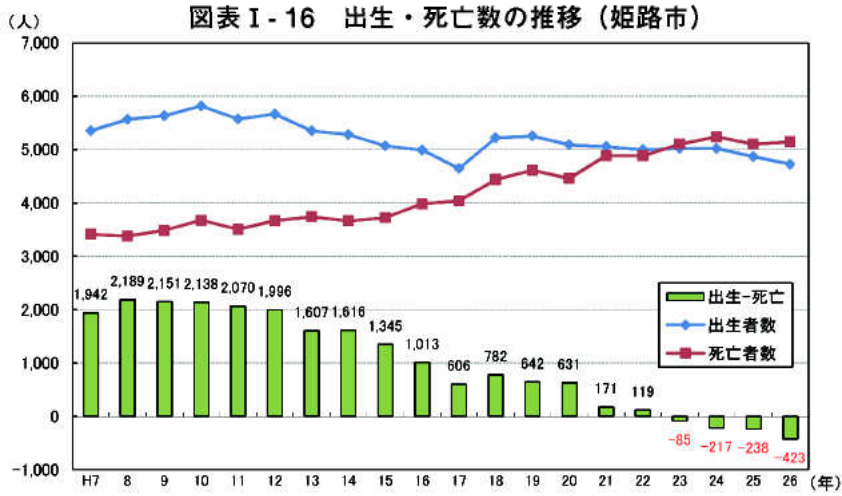
市民意識及び生活実態調査：50歳以上の3,500人を対象に、平成25年8月に郵送でアンケート調査を実施

### ③ 自然増減

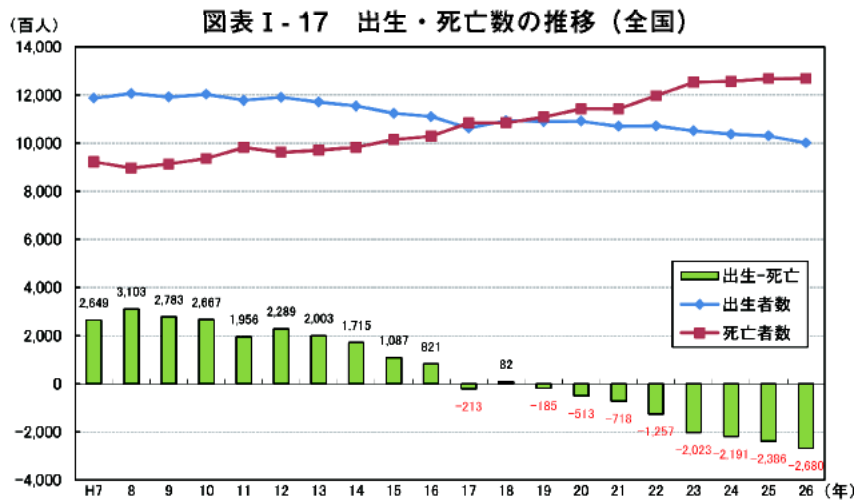
#### 【現状】

自然増減については、平成23年（2011年）以降、死亡が出生を上回る自然減の状態となっている（図表 I - 16）。

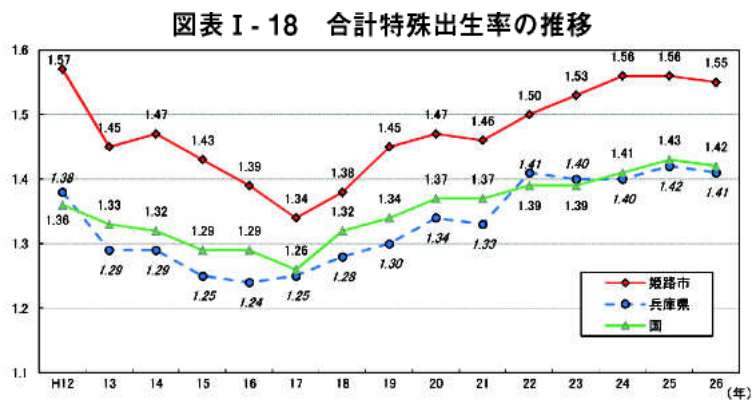
全国の人口が初めて自然減となったのは平成17年（2005年）であり、本市より6年早い（図表 I - 17）。本市は、全国や兵庫県よりも高く推移している合計特殊出生率により、自然減が遅れたものと考えられる（図表 I - 18）。ただし、自然減の幅は年々拡大しており、今後もこの傾向は続くものと考えられる。



(注) 平成18年3月27日に合併した4町（家島町、夢前町、香寺町、安富町）については、平成18年3月の数値より含まれている。  
 (資料) 姫路市「人口の動き」



(資料) 厚生労働省「人口動態統計」（平成26年）より作成



(資料) 姫路市は「保健衛生年報」、兵庫県は「厚生労働省統計」、国は厚生労働省「人口動態統計」より  
 ※姫路市の数値は、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に用いた数値と異なる

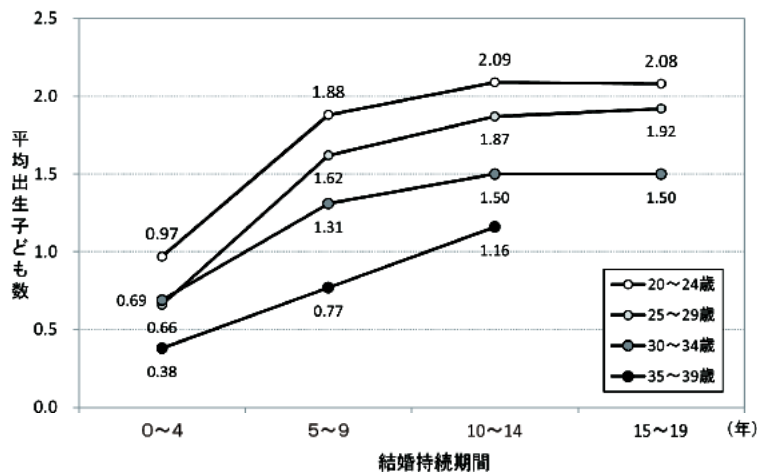
【主な要因】

自然減の要因は死亡数の増加と出生数の減少である。死亡数の増加については、人口の多い世代の高齢化が進み、亡くなる方の数が増えていることが原因である。

出生数の減少については、晩婚化、非婚化の進行が原因ではないかと考えられている（図表 I-19）。平均初婚年齢は平成5年（1993年）から平成22年（2010年）にかけて、夫婦とも2歳以上上がっており、生涯未婚率は男女とも平成2年（1990年）頃から急激に上昇している（図表 I-20）。

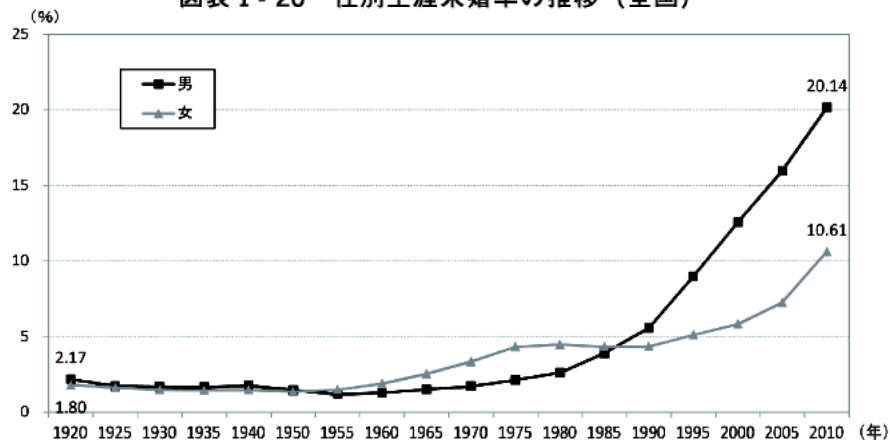
結婚する時期が遅くなると、年齢的な制約から子どもの数も少なくなる。また、経済的な負担感の増加から、理想とする子どもの数を持つことが難しいと考える夫婦が多くいる（図表 I-21）。

図表 I - 19 結婚年齢別結婚持続期間別子どもの数（全国）



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」（2010年6月調査）より作成

図表 I - 20 性別生涯未婚率の推移（全国）



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2012）」より作成



図表 I - 21 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由（全国）

（複数回答）

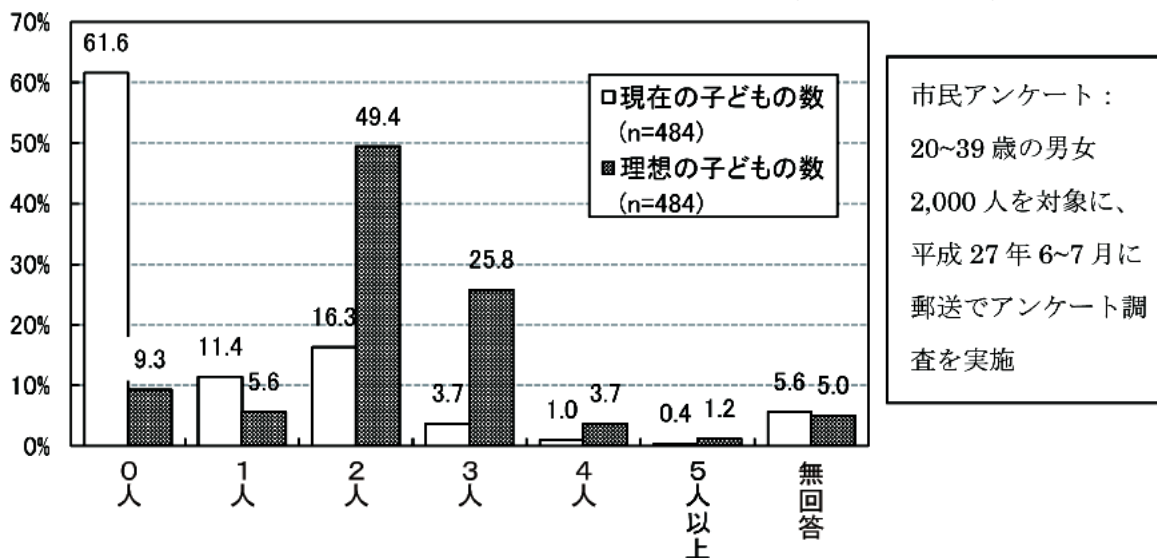
妻の年齢	(集計客対数)	理想の子ども数を持たない理由											
		経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
		子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事（業）に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から	肉体的負担に耐えられないから	夫が得られないから	夫の家事・育児への協力が得られないから	退職までには成人してほしいから	一番末の子が夫の定年退職までには成人してほ	夫が望まないから
30歳未満	( 90)	53.3%	21.1	18.9	3.3	3.3	5.6	10.0	12.2	5.6	4.4	7.8	11.1
30～34歳	( 233)	76.0	17.2	18.9	13.3	12.9	15.5	21.0	13.3	4.3	9.9	9.9	7.3
35～39歳	( 519)	69.0	19.5	16.0	27.2	16.4	15.0	21.0	11.6	6.9	8.9	8.1	7.5
40～49歳	( 993)	50.3	14.9	9.9	47.3	23.8	22.5	15.4	9.9	10.2	6.2	6.1	3.7
総数	( 1,835)	60.4	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回調査(総数)	( 1,825)	66.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	5.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦、予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は32.7%。

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」（2010年6月調査）

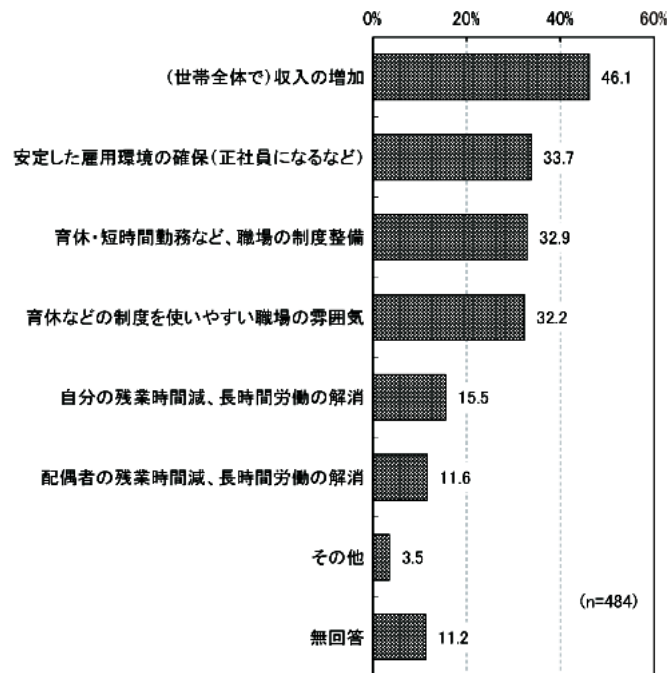
市民アンケートにおいても、現在の子どもの数と理想の子どもの数には大きな乖離があることが見て取れる。

図表 I - 22 現在の子どもの数と理想の子どもの数（市民アンケート）



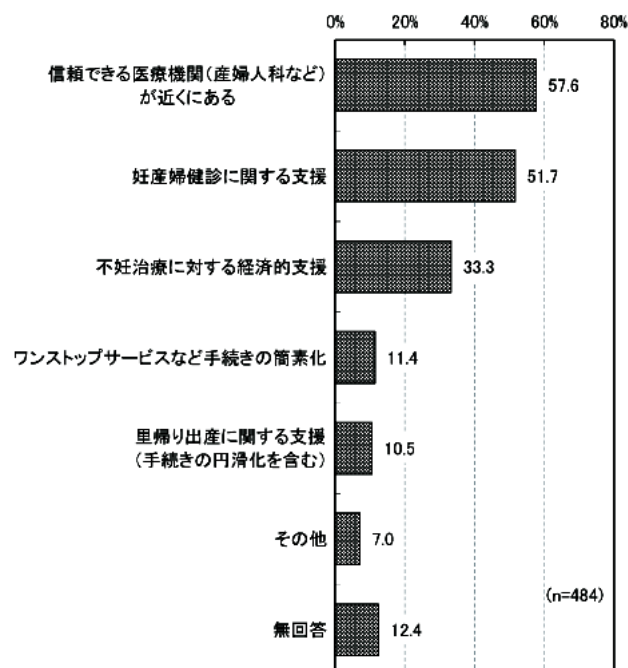
理想の数の子どものを持つために必要なこととして、仕事に関することでは「（世帯全体で）収入の増加」が46.1%と最も多く、次いで「安定した雇用環境の確保（正社員になるなど）」の33.7%、「育児・短時間勤務など、職場の制度整備」の32.9%となっている。

図表 I - 23 理想の数の子どもを持つために必要なこと（仕事に関すること）（市民アンケート）



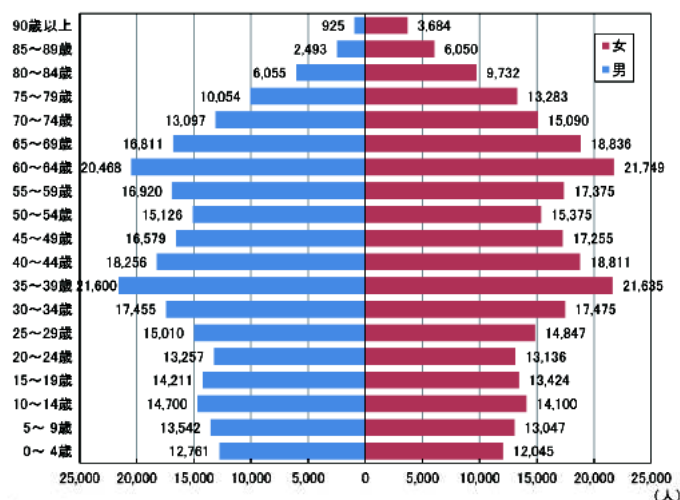
妊娠出産に関することでは、「信頼できる医療機関（産婦人科など）が近くにある」が57.6%と最も多く、次いで「妊産婦健診に関する支援」の51.7%、「不妊治療に対する経済的支援」の33.3%となっている。

図表 I - 24 理想の数の子どもを持つために必要なこと（妊娠出産に関すること）（市民アンケート）



本市の人口ピラミッドを見ると分かるように、今後「団塊の世代」と呼ばれる人口の多い世代の高齢化が進み、死亡数が更に増えていくことが見込まれる一方で、「団塊ジュニア世代」と呼ばれる世代が40歳代を迎えることにより、子どもを持つことができる年齢の人口が大きく減少していくため、出生数は一層減少すると見込まれる。

図表 I - 25 人口ピラミッド（平成22年・姫路市）



(資料) 総務省「国勢調査報告」

#### ④ 社会増減

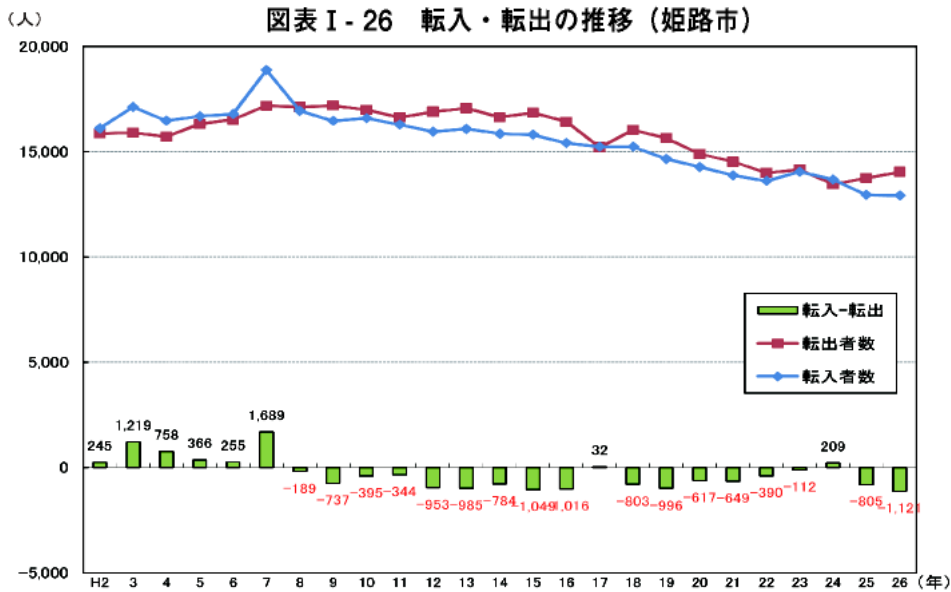
##### 【現状】

社会増減については、ほとんどの年において転出が転入をわずかに上回る状況となっている（図表 I - 26）。転入、転出先を見ると、神戸市、西宮市など、本市より東側に位置する自治体に対して転出超過※となっているのに対し、たつの市や宍粟市など、近隣市町から転入超過※となっている。また、大阪府や東京圏に対しての転出超過数が大きい（図表 I - 27）。

年齢階層別の純移動数は、高校卒業の時期にあたる10代後半から20歳代前半の間は大きくマイナスとなる一方、大卒者の就職時期である20歳代前半から20歳代後半の間はプラスとなっている。しかしながら少子化の進行や、大都市圏への人口集中に伴って、20歳代前半から20歳代後半の間の増加幅が縮小し、30歳代について、男性は転入超過だが、女性は転出超過となっている（図表 I - 28）。このことは、人口減少社会において、女性の活躍が貴重な労働力として期待されているという観点からも大きな課題を抱えているといえる。

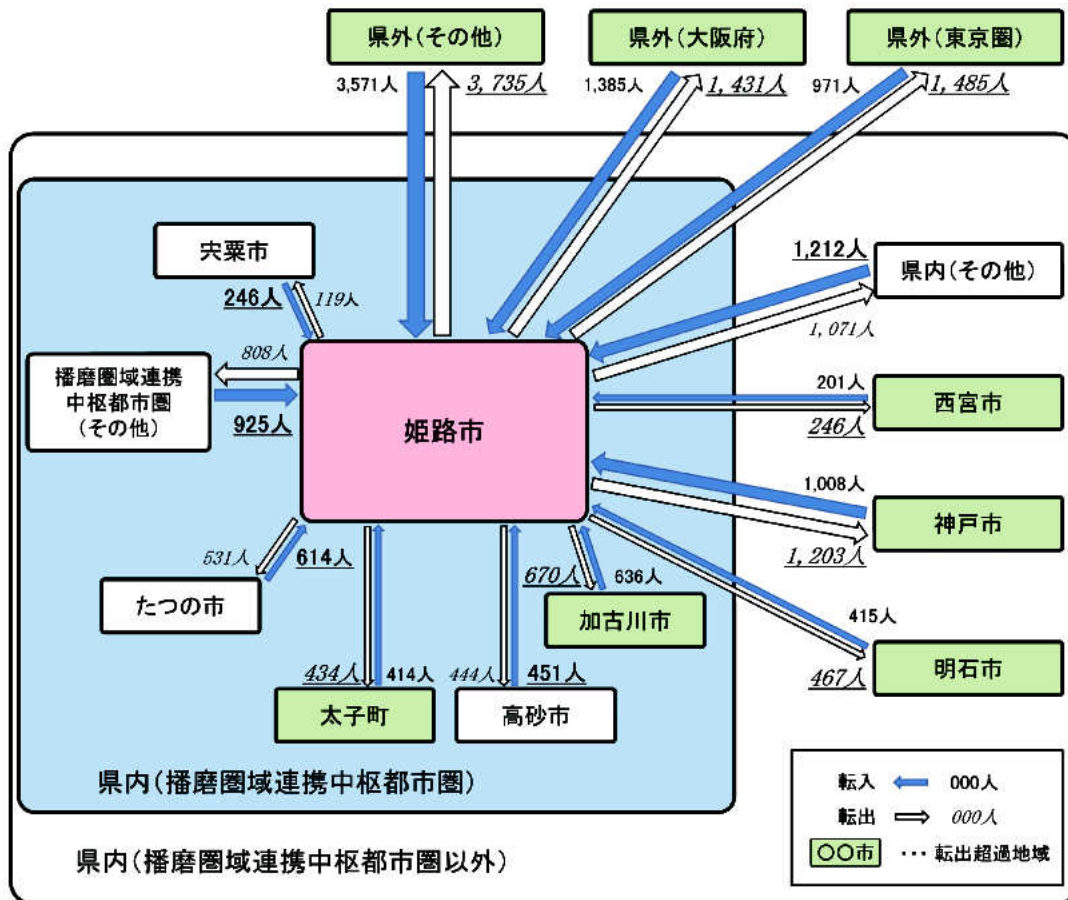
##### 【主な要因】

要因として、大学進学などを機会に東京や阪神地域に転出した後、就職を考えた際に能力、個性の発揮や長期的な視点からのキャリア形成などの面から、希望する就職先が地元がないことが考えられる。また、子育て支援や生活の利便性など暮らしの環境への不安感、移住定住に対する支援が少ない、本市での暮らしの良さに関するPRの不足などの理由もあると考えられる。



(注) 平成18年3月27日に合併した4町（家島町、夢前町、香寺町、安富町）については、平成18年3月の数値より含まれている。  
 (資料) 姫路市「人口の動き」

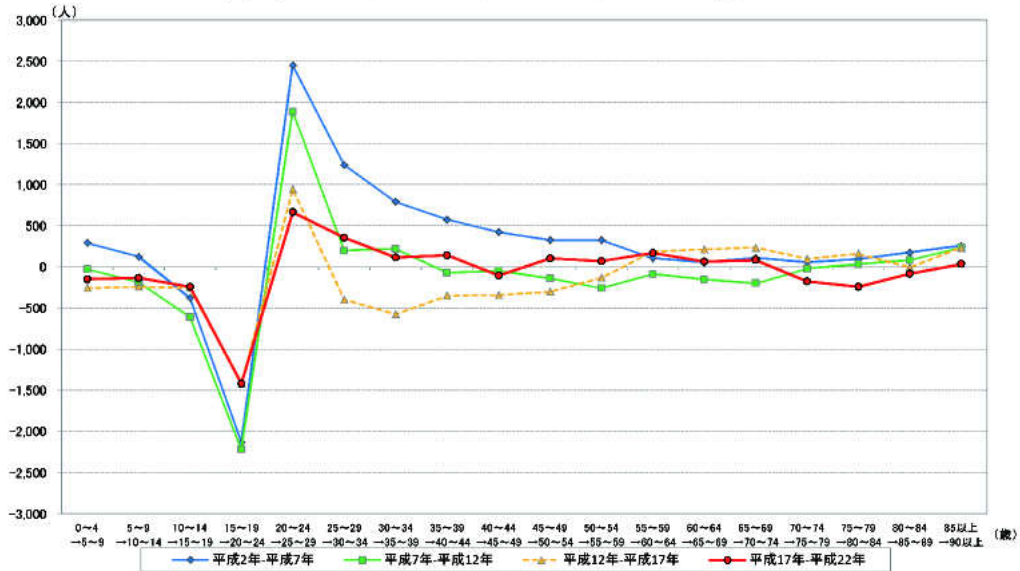
図表 I - 27 転入・転出先（平成26年・姫路市）



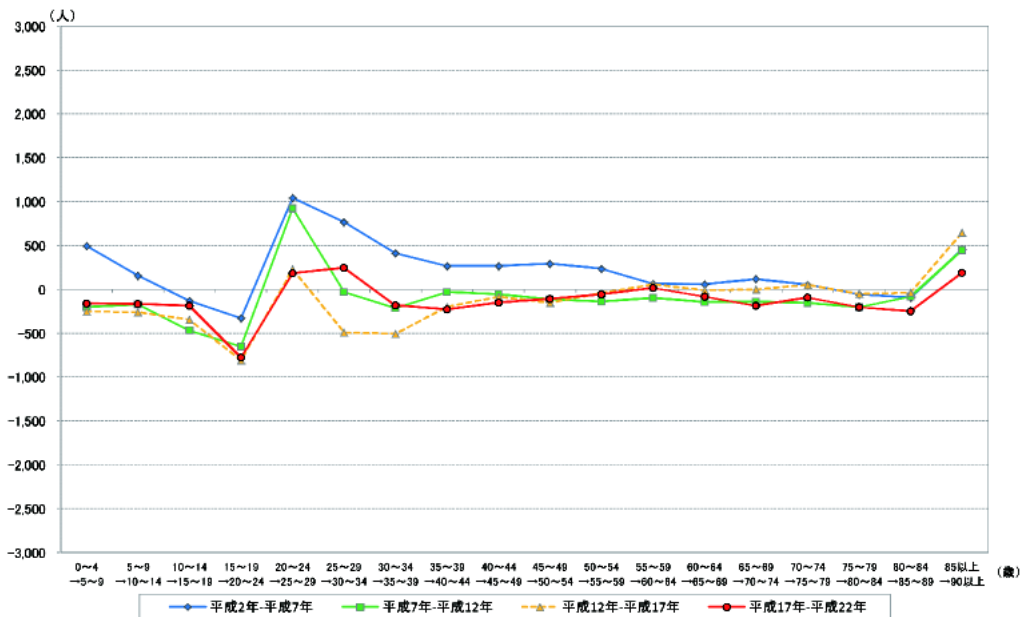
(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

図表 I - 28 男女別年齢5歳階級別純移動率の推移（姫路市）  
（平成2→7、7→12、12→17、17→22年）

【男性】



【女性】



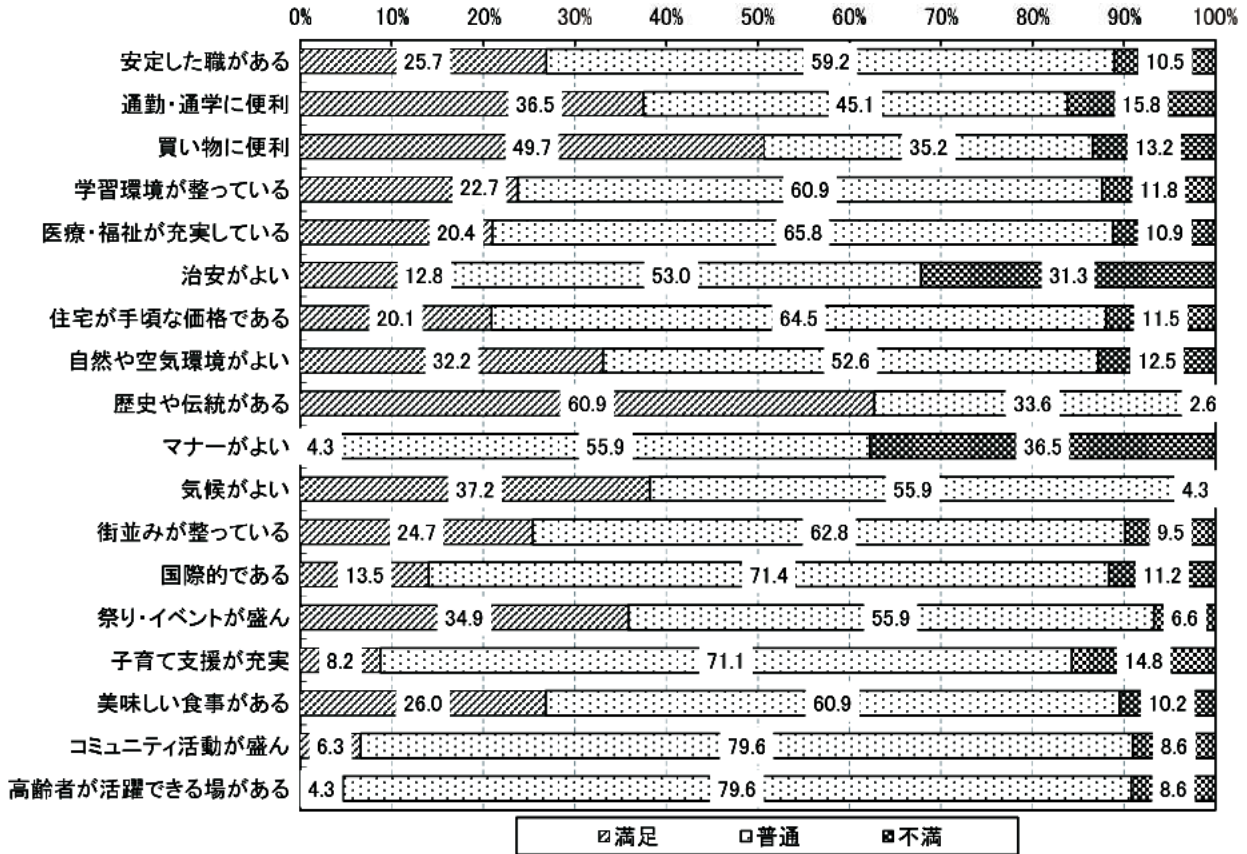
(資料) 総務省「地域経済分析システム」を用いて作成

姫路市から転出した人が姫路市に満足している点は、「歴史や伝統がある」が60.9%と最も多く、ついで「買い物に便利」が49.7%、「気候がよい」が37.2%、「通勤・通学に便利」が36.5%、「祭り・イベントが盛ん」が34.9%となっている。

一方、不満と答えた人が満足と答えた人を上回っている項目については、「マナーがよい」が36.5%と最も多く、次いで「治安がよい」の31.3%となっている。



図表 I - 29 姫路市に住んでいたときの満足度（転出アンケート）



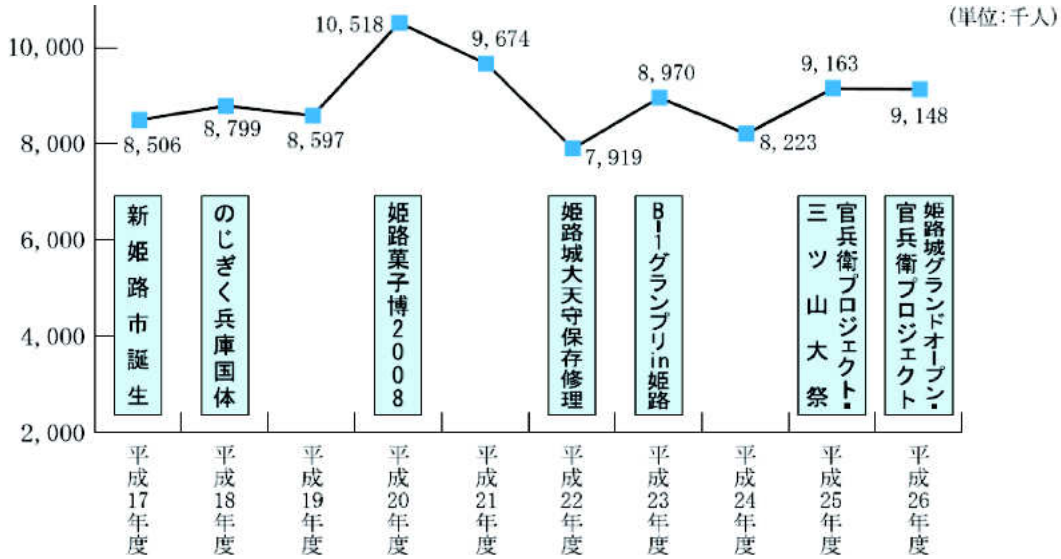
転出アンケート：過去2年以内に転出した20~39歳の男女1,500人を対象に、平成27年6~7月に郵送でアンケート調査を実施

⑤ 交流人口の現状

交流人口とは、定住人口※に対する概念として、本市に何らかの目的で外部から訪れる人口のことである。訪問の理由としては、観光、通勤・通学、ショッピング、レジャー、スポーツ、アミューズメントなど幅広い訪問動機を含み、大きくは観光か通勤・通学で訪れるものに分けることができる。

平成26年度（2014年度）の観光施設、まつり・イベント、スポーツ・自然観賞等の入込客※数の総合計は、9,148千人である（図表 I - 30）。また、平成22年（2010年）の国勢調査によると、他都市から就業している人数は、約55千人で、通学者は約6千人であり、その7割以上が播磨圏域連携中枢都市圏を形成する市町から来ている（図表 I - 31）。

図表 I - 30 総入込客数の推移（姫路市）



(資料) 平成26年度姫路市入込客数調査

図表 I - 31 他市町からの就業・通学者数の推移（平成17・22年・姫路市）

(単位:人)

	17年	22年
就業者	57,393	54,657
通学者	6,469	6,004
総数	63,862	60,661

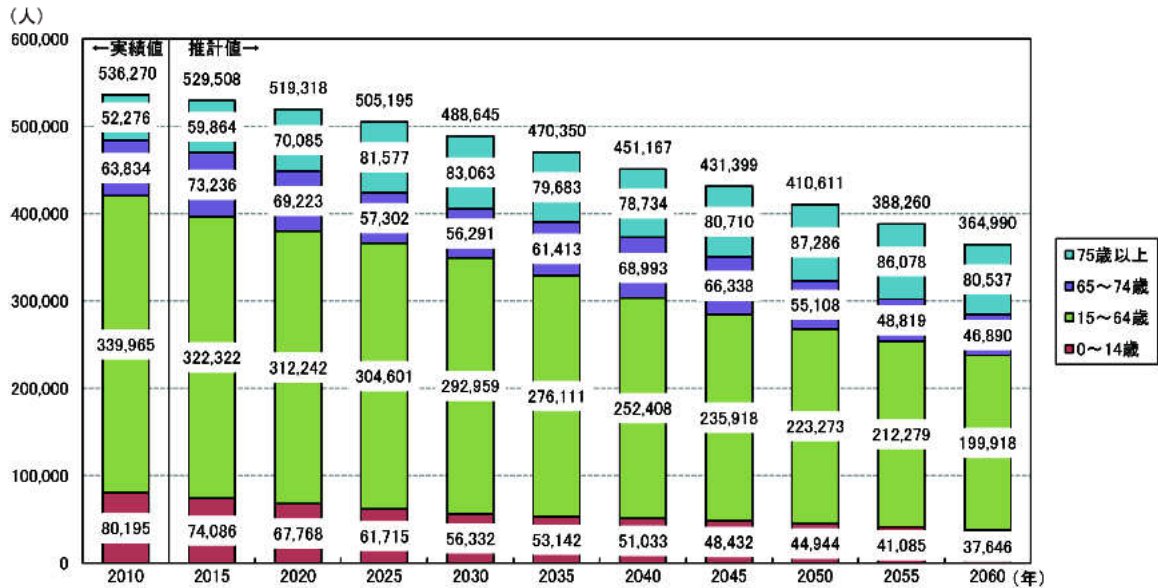
## (2) 将来の人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）は、現在の出生率、純移動率※の傾向を踏まえて、将来の人口推計※を行っている。すなわち、現在の自然減少、社会減少の傾向が改善されずに継続した場合、本市の人口は平成22年（2010年）の53.6万人から平成72年（2060年）には36.4万人まで減少すると見込まれる（図表 I - 32）。36.4万人は、昭和40年（1965年）における旧姫路市域の人口（36.8万人）とほぼ同じ規模であるが、年齢構成は大きく異なることは、人口ピラミッドを見ると一目瞭然である（図表 I - 33）。

15～64歳の生産年齢人口は、平成22年（2010年）から平成72年（2060年）にかけておよそ4割減少するのに対し、65歳以上の高齢者はおよそ1割増え、75歳以上は5割以上増加するなど、現役世代に対する高齢者の比率は大幅に拡大することになる。



図表 I - 32 国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に基づく姫路市の将来人口

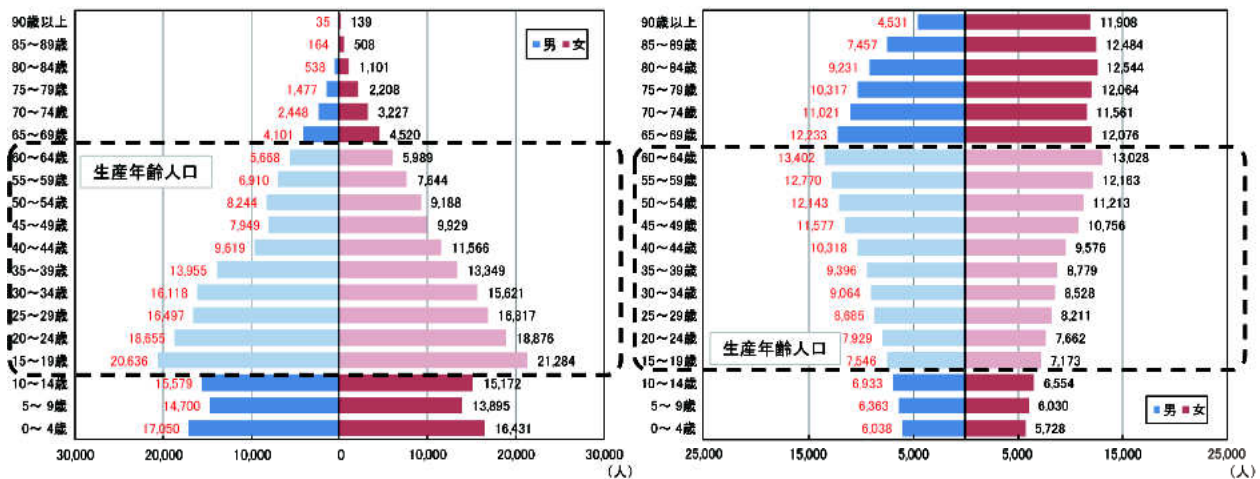


(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月推計」及び国提供資料より作成

図表 I - 33 昭和40年と平成72年の人口ピラミッドの比較

[昭和40年 (1965年)]

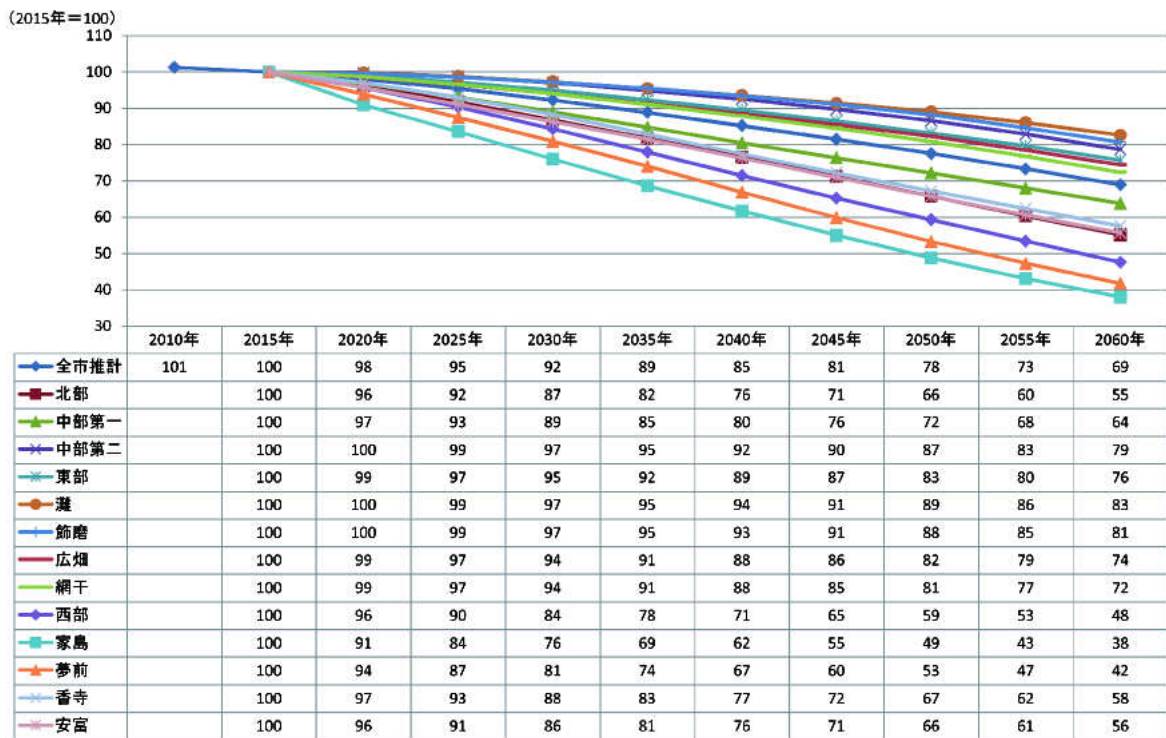
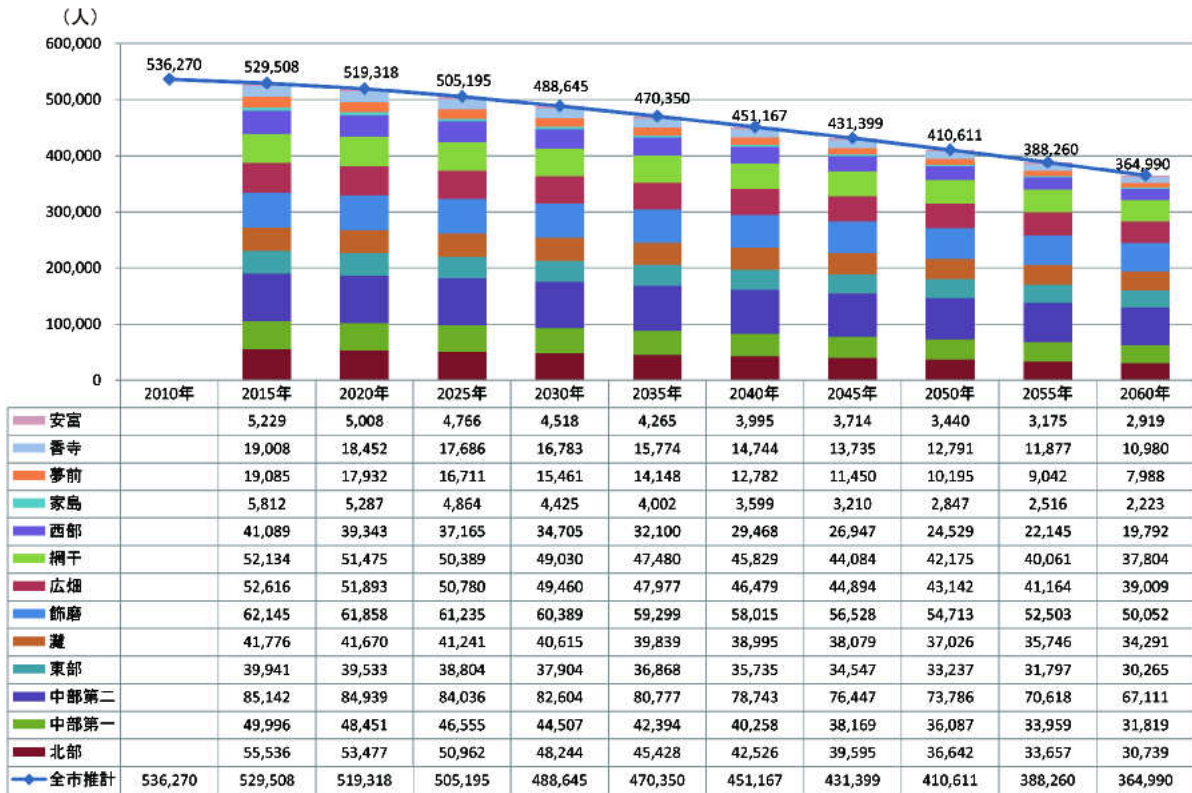
[平成72年 (2060年)]



(資料) 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月推計」及び国提供資料より作成

全市推計の結果と、近年の地区別の人口移動の傾向をもとに、市内13ブロック別の人口推計を行うと、総人口が減少する中ですべてのブロックにおいて人口が減少し、家島や夢前など、平成72年(2060)年には現在の人口の4割程度になると推計される地区もある。

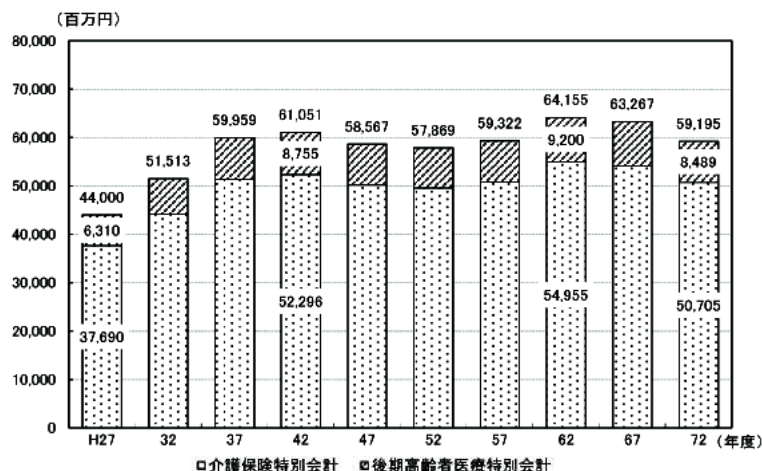
図表 I - 34 国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に基づくブロック別の推計人口



(資料) 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月推計」及び姫路市の人口統計より作成

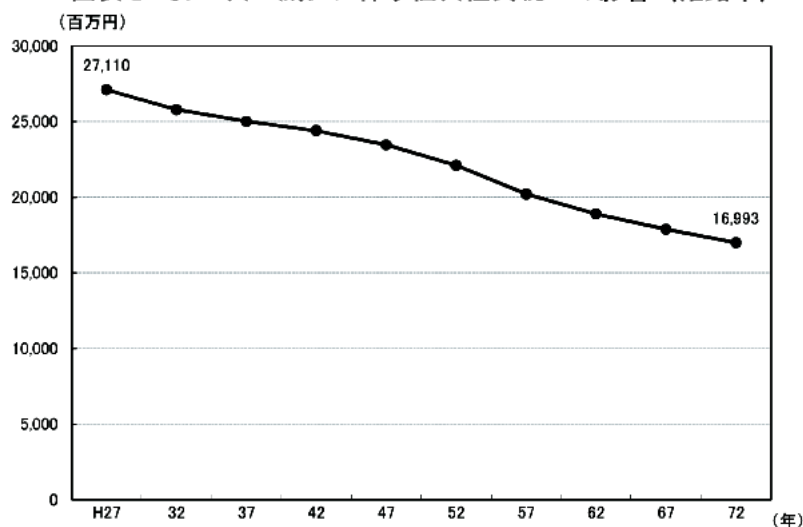


図表 I - 36 人口減少に伴う介護・後期高齢者医療費への影響（姫路市）



(注) 75歳以上の人口一人あたりにかかる介護、後期高齢者医療にかかる費用が一定と仮定し、平成27年度予算額を基に算出  
 (資料) 姫路市予算資料をもとに作成

図表 I - 37 人口減少に伴う個人住民税への影響（姫路市）



(注) 20-69歳の人口一人あたり個人住民税額が一定と仮定し、平成27年度予算額を基に算出  
 (資料) 姫路市予算資料をもとに作成

### ③ 地域コミュニティの弱体化による共助機能の低下と伝統文化の担い手不足

古くから人々の生活基盤である地域コミュニティが弱体化することにより、犯罪や事故、孤独死等の社会問題を未然に防止する共助機能が低下する。また、地域の祭りや行事の担い手が不足し、これまで受け継がれてきた伝統文化が衰退することが危惧される。

### ④ 生活インフラ・公共施設の維持管理コストに関する負担増

人口減少により、税収等が落ち込む中、現在の質と量のままで公共施設を維持することは将来の市民に大きな負担を残すことになる。

### ⑤ 近隣市町の将来の人口減少による本市への影響

本市で働き、学ぶ人の2割は市外からの通勤・通学者であり、その7割以上が播磨圏域連携中枢都市



圏を形成する市町からである（図表 I - 38）。しかしながら、これらの市町においても今後人口の急速な減少が見込まれている（図表 I - 39）。

近隣市町の将来の人口減少は、交流人口において密接な関わりを持つ本市にとっても重大な影響があることから、本市は、広域的な連携を深め、連携中枢都市としてリーダーシップを発揮し、圏域全体の活性化に向けた取組みを推進していく必要がある。

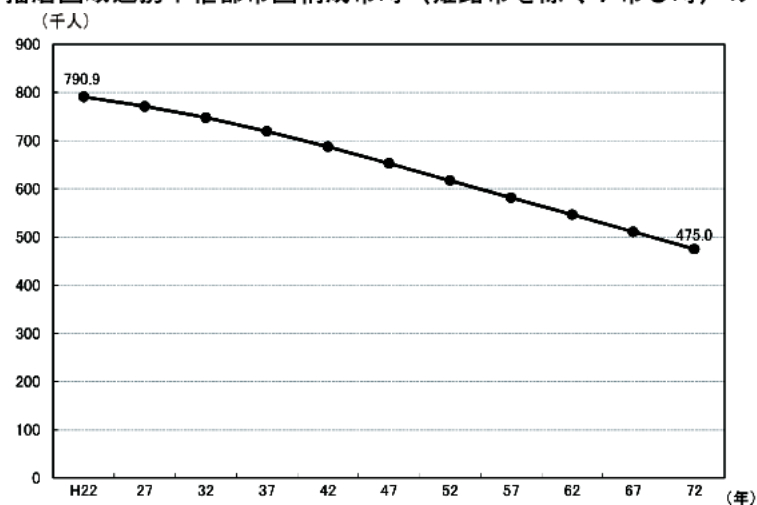
本市は播磨圏域の連携中枢都市として、本市だけでなく、近隣市町を含めた圏域の経済的・文化的拠点としての役割を果たしていく必要がある。

図表 I - 38 従業・通学する人の居住地（平成22年・姫路市）

	実数(人)			割合			
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	
姫路市で従業・通学	276,784	251,224	25,560				
うち他市区町村に常住 (流入元)	60,661	54,657	6,004	21.9%	21.8%	23.5%	
				(下記は他市区町村常住者における比率)			
連携 中枢 都市 圏 構成 市 町	相生市	2,122	1,970	152	3.5%	3.6%	2.5%
	加古川市	8,742	7,847	895	14.4%	14.4%	14.9%
	赤穂市	1,849	1,623	226	3.0%	3.0%	3.8%
	高砂市	6,419	5,963	456	10.6%	10.9%	7.6%
	加西市	1,590	1,378	212	2.6%	2.5%	3.5%
	宍粟市	2,116	1,982	134	3.5%	3.6%	2.2%
	たつの市	9,599	8,962	637	15.8%	16.4%	10.6%
	稲美町	511	444	67	0.8%	0.8%	1.1%
	播磨町	780	673	107	1.3%	1.2%	1.8%
	市川町	1,738	1,495	243	2.9%	2.7%	4.0%
	福崎町	2,777	2,392	385	4.6%	4.4%	6.4%
	神河町	1,198	961	237	2.0%	1.8%	3.9%
	太子町	6,132	5,879	253	10.1%	10.8%	4.2%
	上郡町	952	850	102	1.6%	1.6%	1.7%
佐用町	541	475	66	0.9%	0.9%	1.1%	
連携市町計	47,066	42,894	4,172	77.6%	78.5%	69.5%	
神戸市	4,731	4,167	564	7.8%	7.6%	9.4%	
その他兵庫県	6,541	5,601	940	10.8%	10.2%	15.7%	
大阪府	1,096	910	186	1.8%	1.7%	3.1%	
その他の府県	1,227	1,085	142	2.0%	2.0%	2.4%	

(資料) 総務省「国勢調査報告」より作成

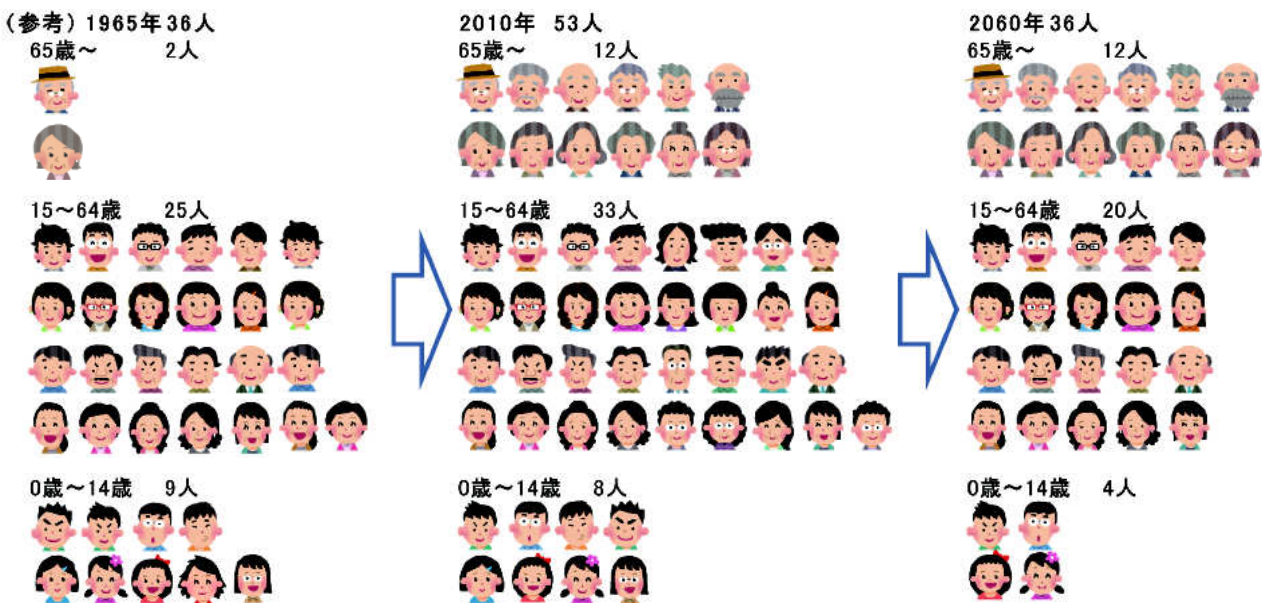
図表 I - 39 播磨圏域連携中枢都市圏構成市町（姫路市を除く7市8町）の将来推計人口



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月推計」及び国提供資料より作成

◆◇◆◇◆◇◆ 「もし現在の姫路市が53人のまちだとしたら」 ◆◇◆◇◆◇◆

人口減少は姫路市民の皆さんの生活にどのような影響があるのでしょうか？姫路市が「人口53人のまち」だったケースを想像してみましょう。下の図が2010年の姫路市の人口を53人としたとき、2060年のまちの人口構成がどうなるかを推計し、図で表したものです。



まちに住んでいる人がずいぶん少なくなっているのがわかります。65歳以上の人たちの数はそれほど大きく変わらない（2010年12人→2060年12人）のに対して、0歳から14歳の子どもの数は半分に減っています（2010年8人→2060年4人）。深刻なのは、15歳から64歳までの人たちの減少で、4割減っています（2010年33人→2060年20人）。社会を支えていく人たちがかなり少なくなっています。加えて、高齢化率（人口に占める65歳以上の高齢者の割合）は、2010年は23%だったのが2060年には33%にまで達しています。

この変化によって、まちの人びとの生活にさまざまな支障が出てくるのが考えられます。タイムマシンに乗って、2060年の姫路市にお住まいの皆さんの声を聞いてみましょう。

**姫路市の北部に住むAさん（75歳・女性・無職）の声 【2015年当時30歳】**

20年くらい前に、近所にあった小さなスーパーが閉店になり、買い物はインターネット注文だけになりました。病院も近くにはないので、遠隔診療だけです。中心部では「全自動運転車」のためのインフラがあるので高齢者も外出しやすいのですが、ここではそうはいきません。

そんな状況のため、若者が地域にほとんどいません。年を取った人がひとり暮らしになるケースも増えました。病気や高齢のため孤独死する方も、最近とても多いです。子どもは東京で働いていますが、今後このまちに戻ってくる予定はないと言っています。それも仕方ないとは思っていますが、今後このまちはどうなっていくのでしょうか。

**姫路市の中部に住むBさん（38歳・男性・会社員）の声**

私は姫路市内にある人工知能ロボットメーカーに勤めています。昔は国内向けの製品も多く作っていましたが、国内の需要が少なくなったため、今では輸出用の介護ロボットが主力になっています。働き手は足りていませんが、世界的な競争は相変わらず激しく、なかなか利益が上がらないため、工場が撤退するかもしれないという噂を聞きました。私の妻も同じ会社で働いているので、そうなったら今後どうやって生活していこうか悩んでいます。

最近話題に上るのは、今住んでいるマンションの建て替えについてです。住人の大半が年金暮らしの高齢者であるため、今後の資金負担について合意ができません。その一方で周辺には誰が管理しているのかもわからない空き家がとても多く、夜に1人で外を出歩くのはとても怖いと妻は言っています。

**姫路市の南部に住むCさん（15歳・女性・中学生）の声**

このまえ同居しているおばあちゃんと話していたとき、「昔はにぎやかな祭りというのがあった」という話になりました。私は学校の歴史の授業で習っただけだったのですが、おばあちゃんはその祭りで撮った写真を見せてもらおうと、若い人たちが沢山写っていて、びっくりしました。今は地域の集まりにも誰も参加しないし、祭りがあっても、屋台を担ぐ人が少ないから、今は神社の境内に飾ってあるだけになっています。とても残念です。

私には小学生の弟がいますが、近所に一緒に遊ぶ子どもたちがあまり住んでいません。

専門学校・大学も限られており、近場には行きたい学校がありません。将来は姫路の外に出て行くことになると思いますが、誰がこの姫路を担っていくことになるのでしょうか。

**これは想像される未来です。**

人口の減少が、今の生活に多大なる変化を及ぼす可能性があるということをお分かり頂けましたでしょうか。ただし、今見てきた2060年の姫路市は、現在のペースで子どもの数が減少し、東京などの大都市への転出が止まらない場合を想定したものです。このような未来とならないために、皆さん一人ひとりの取組みと、行政と地域が一体となった取組みの両方が大切です。家族で、地域で、自分たちと子どもたちの未来のことを話し合ってみてはいかがでしょうか。





## 5. 人口減少問題への対応の方向性

「ふるさと・ひめじ」をさらに力強く元気に、住みよいまちとして未来につなぐため、播磨の中核都市に相応しい人口規模と経済力を維持・確保し、東京圏や阪神地域をはじめとする大都市圏に対抗できる活力ある持続可能な都市を目指す。

このため、若い世代が安心して働き、子育てができる環境を創るなど、将来的に人口減少に歯止めをかける「積極戦略」に取り組むとともに、本市の強みを活かしつつ産業全体の付加価値や生産性を向上させる、地域内外の有能な人材を確保・育成するなど、直面する人口減少の課題に対応し、活力を維持するための「調整戦略」に取り組むことが特に重要である。

これらの戦略に総合的かつ本市の特性に応じた方法で取り組むため、以下の項目を人口減少問題への対応の平成72年（2060年）までの長期的な方向性とする。

- ① ものづくり力や歴史文化等の強みを活かし、市経済の活力を維持するとともに、播磨圏域の経済を牽引する
- ② 若者や女性が将来に希望と誇りを持って暮らせる、魅力あるまちを実現する
- ③ 高齢者がいつまでも生きがいを持ち、地域社会の担い手として活躍できる環境を創出する
- ④ 安心して子育てができる住みよいまちを未来に継承する
- ⑤ 播磨の中核都市として光り輝くまちを形成する

## 6. 人口シミュレーション

将来の人口については、国や県など、関連機関が推計、あるいは目標としている水準を参考にしつつ、本市の特性を踏まえて推計を行うこととする。

### （1）国立社会保障・人口問題研究所の推計（パターン1）

社人研の推計（出生・死亡中位）では、合計特殊出生率は1.4から1.5の間で推移し、純移動率は平成17年（2005年）から平成22年（2010年）の傾向を踏襲しつつ、今後一定程度縮小すると想定しており、その結果、人口は平成22年（2010年）の53.6万人から平成72年（2060年）には36.4万人まで減少すると推計している。

## (2) 国の目指す出生率に準拠（パターン2）

国においては、人口減少に歯止めをかけるため、合計特殊出生率について、平成42年（2030年）までに1.8、平成52年（2040年）までに人口置換水準である2.07まで回復させるという目標を設定している。この目標を本市に当てはめた場合、本市の平成72年（2060年）の人口は41.7万人となる。

## (3) 播磨圏域連携中枢都市圏ビジョンの将来の人口目標に準拠（パターン3）

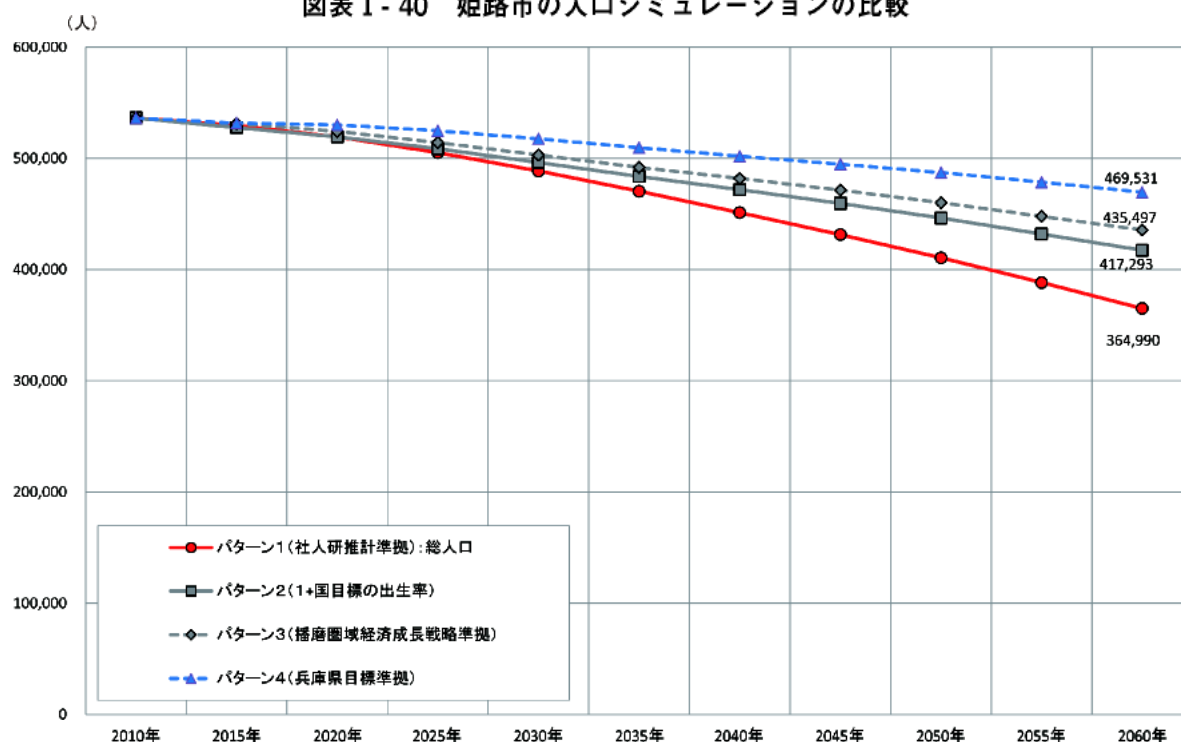
平成27年（2014年）4月策定の播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン（7市8町）の人口目標は、平成22年（2010年）の127.7万人が、平成72年（2060年）には96.2万人になることを目標としている。この人口目標においては、本市の合計特殊出生率と全国の合計特殊出生率の差異を加味しており、この目標に本市を当てはめた場合、本市の平成72年（2060年）の人口は43.5万人となる。

## (4) 兵庫県が目指す人口目標に準拠（パターン4）

兵庫県では、兵庫県全体で、平成32年（2020年）以降、5年間に2.2万人の出生数を長期にわたって維持することを目標に、合計特殊出生率を平成37年（2025年）に1.6、平成57年（2045年）に1.90、平成72年（2060年）に2.00とするとしている。本市の合計特殊出生率は、兵庫県よりもやや高い水準で推移しているため、この水準の差異の比率が、今後も維持されると仮定した場合、本市の合計特殊出生率は平成37年（2025年）に1.76、平成57年（2045年）に2.08、平成72年（2060年）に2.20になる。さらに、東京圏及び大阪府への転出超過を平成32年（2020年）までに解消することを目指している。本市において同様に想定した場合、平成72年（2060年）の人口は47.0万人となる。

このケースと社人研推計のケース（パターン1）を比較した場合、出生数の増加等に伴う自然減少の緩和によって、平成72年（2060年）までの累計で約6万人、東京圏と大阪府への転出超過の解消に伴う社会増加により、平成72年（2060年）までの累計で約4万人の人口減少が緩和されるため、両ケースで平成72年（2060年）において将来人口に10万人程度の差異が生じることになる。

図表 I - 40 姫路市の人口シミュレーションの比較



## 7. 目指すべき定住人口

将来にわたって、安定した市民生活を維持するためには、急激な人口減少を回避するとともに、世代間の偏りが小さい安定した人口構造の実現が必要である。

人口シミュレーションのパターン4は、他のパターンに比べて最も人口の減少が緩やかであるとともに、特定の世代への偏りが小さく、人口ピラミッドの形が安定している。このような人口構造が実現すると、地域経済の規模を維持するとともに、高齢者から働き盛りの世代、そして子どもまでバランスのとれた地域社会を保つことができ、将来的に安定した市民生活を確保できると考えられる。

このため、パターン4で推計する47万人を、市民をはじめ、産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産官学金労言）と一体となり人口減少問題の克服に取り組むことによって目指すべき定住人口とする。

**人口減少問題を克服するために目指すべき定住人口  
約47万人（2060年）**

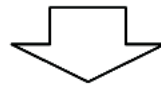
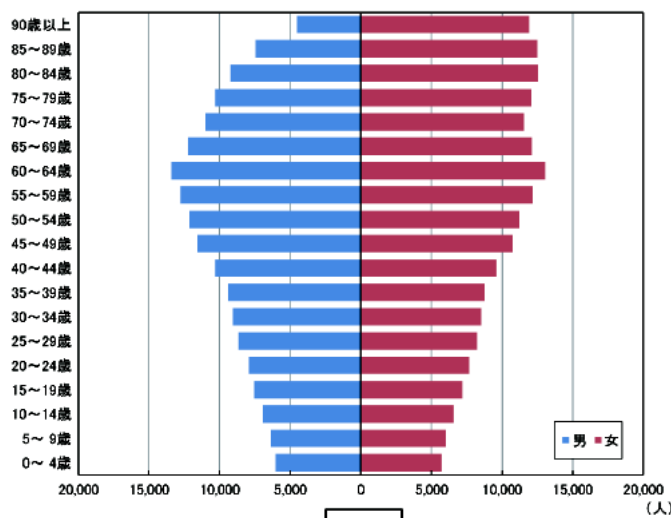
図表 I - 41 パターン1とパターン4における人口増減の要因比較

(単位:人)

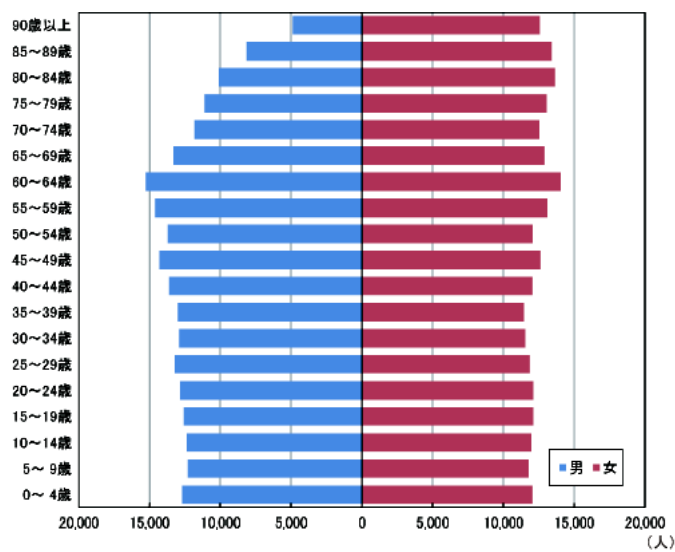
		平成27	32	37	42	47	52	57	62	67	72	累計	改善幅
社会増減	パターン1	-4,130	-2,687	-2,515	-2,708	-2,673	-2,309	-2,313	-2,432	-2,411	-2,235	-26,414	
	パターン4	-4,130	2,195	2,172	1,816	1,657	1,805	1,788	1,645	1,576	1,509	12,033	38,447
自然増減	パターン1	-2,631	-7,503	-11,608	-13,842	-15,622	-16,874	-17,454	-18,356	-19,940	-21,035	-144,865	
	パターン4	-471	-3,837	-7,402	-9,095	-9,582	-9,481	-9,032	-9,131	-10,255	-10,485	-78,772	66,093

図表 I - 42 推計パターン別人口ピラミッドの比較

パターン1



パターン4 (目指すべき人口構造)



## 8. 連携による交流人口の増加

人口47万人という水準は、平成22年（2010年）時点の人口53万人と比較した場合、6万人の減となる。その対策として、近隣市町との連携を図りつつ、観光客誘致施策等を実施することにより、交流人口を増加させ、経済的な効果を創出し定住人口の減少による地域経済への負の影響を緩和する。

図表 I - 43 近隣市町との連携と交流人口増加のイメージ



平成25年（2013年）の観光庁による観光交流人口増大の経済効果の試算によれば、定住人口1人あたりの年間消費額124万円に匹敵する消費額は、

- 外国人旅行者10人分
- 国内旅行者（宿泊）26人分
- 国内旅行者（日帰り）83人分 となる。

これを人口が減少する6万人に換算すると

- 外国人旅行者であれば、60万人増
- 国内旅行者（宿泊）であれば、156万人増
- 国内旅行者（日帰り）498万人増

## Ⅱ ひめじ創生戦略〔総合戦略（2015年度～2019年度）〕

### 1. 基本的な考え方

#### 〔総合戦略策定の目的〕

人口減少とこれに伴う地域経済の縮小を克服し、播磨の中核都市に相応しい人口規模と経済力を確保し、東京圏や阪神地域をはじめとする大都市圏に対抗できる、活力ある「ふるさと・ひめじ」を維持することを目的とする。

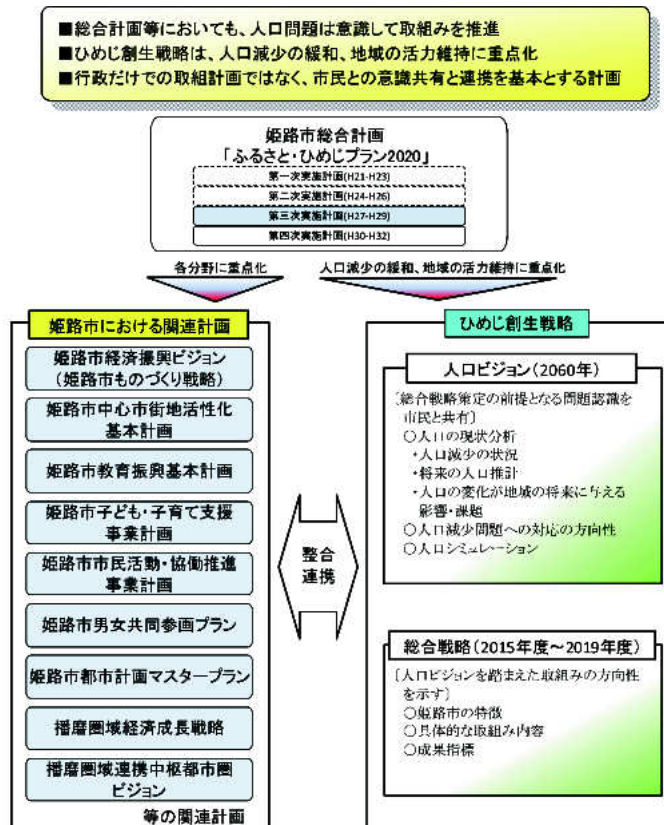
#### 〔総合戦略の位置づけ〕

本市では、総合計画「ふるさと・ひめじプラン2020」を策定し、人口減少社会が到来したとの認識のもと、平成32年（2020年）において人口53万人を維持することを目標に掲げ、子育て支援や地域経済の活性化に取り組んでいる。

また、近隣の7市8町と連携協約を締結し、広域連携により圏域として人口減少に対応すべく播磨圏域連携中核都市圏構想を推進している。

この度策定する総合戦略は、本市の総合計画や播磨圏域連携中核都市圏ビジョン等の目指す将来像を踏まえた上で、人口減少社会に対応するための施策体系を確立し、取組みの基本的な方向を具体的に示すものである。

図表Ⅱ-1 ひめじ創生戦略と総合計画等との関係





〔計画期間〕

本戦略の計画期間は、平成27年度（2015年度）～平成31年度（2019年度）とする。

2. 留意すべき姫路市の特徴

(1) 産業

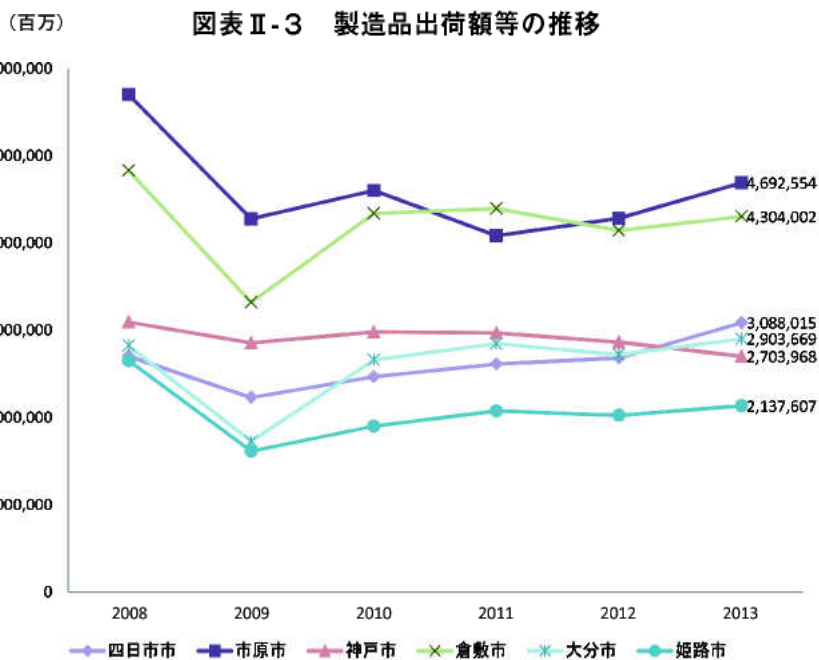
① 製造品出荷額等

平成25年（2013年）における本市の製造品出荷額等は2兆1,376億円であり、これは都市別で見ると、県内では神戸市に次いで2位、全国では14位、政令市を除くと7位に位置しており、全国でも屈指のものづくり都市である。

図表Ⅱ-2 製造品出荷額等の上位20都市（平成25年）

順位	都市名	製造品出荷額等 (億円)	順位	都市名	製造品出荷額等 (億円)
1	豊田市	127,068	11	神戸市(政)	27,040
2	市原市	46,926	12	広島市(政)	23,693
3	川崎市(政)	44,281	13	太田市	23,491
4	倉敷市	43,040	14	姫路市	21,376
5	横浜市(政)	41,047	15	浜松市(政)	21,303
6	堺市(政)	35,265	16	京都市(政)	20,140
7	大阪市(政)	34,853	17	北九州市(政)	19,814
8	名古屋市(政)	34,641	18	田原市	19,025
9	四日市市	30,880	19	福山市	18,284
10	大分市	29,037	20	安城市	18,239

(注) (政)は政令指定都市  
(資料) 経済産業省「工業統計表」

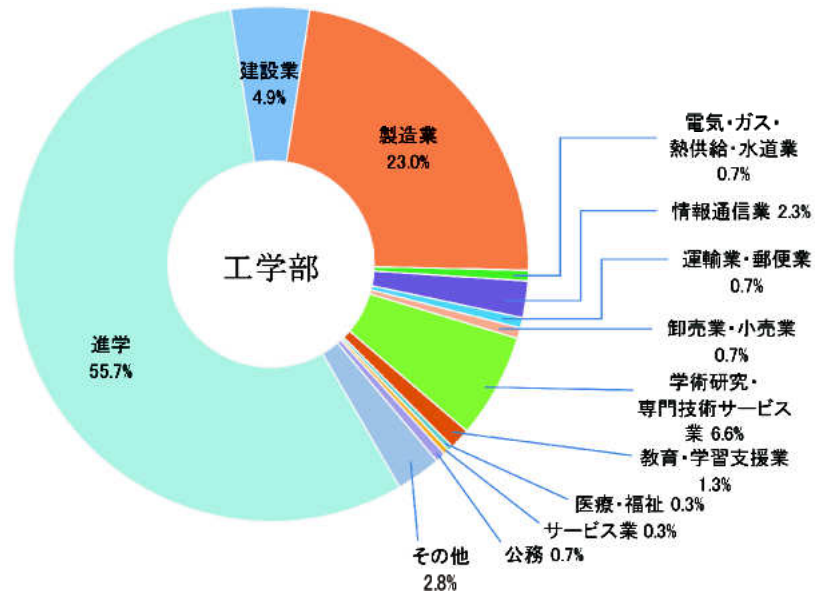


(資料) 経済産業省「工業統計表」

②ものづくり等を支える人材育成機能の存在

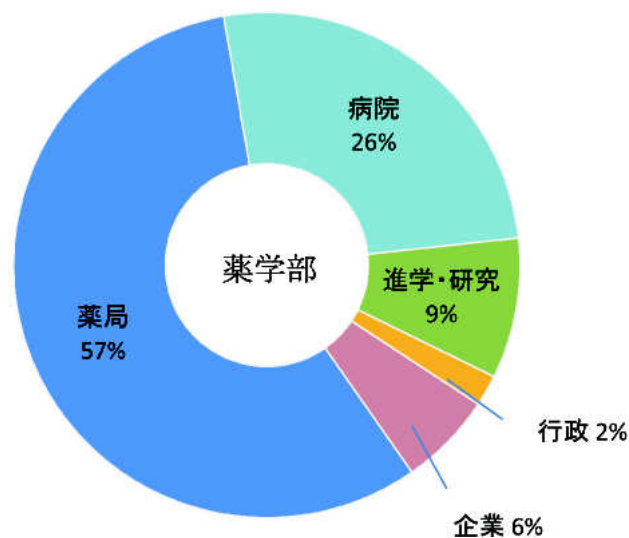
姫路工業大学を前身とする兵庫県立大学工学部や薬学部を有する姫路獨協大学等があり、本市のものづくり等を担う人材が輩出されている。

図表Ⅱ-4 兵庫県立大学における業種別就職率（平成26年度卒業生）



(資料) 兵庫県立大学より提供

図表Ⅱ-5 姫路獨協大学薬学部における業種別就職率

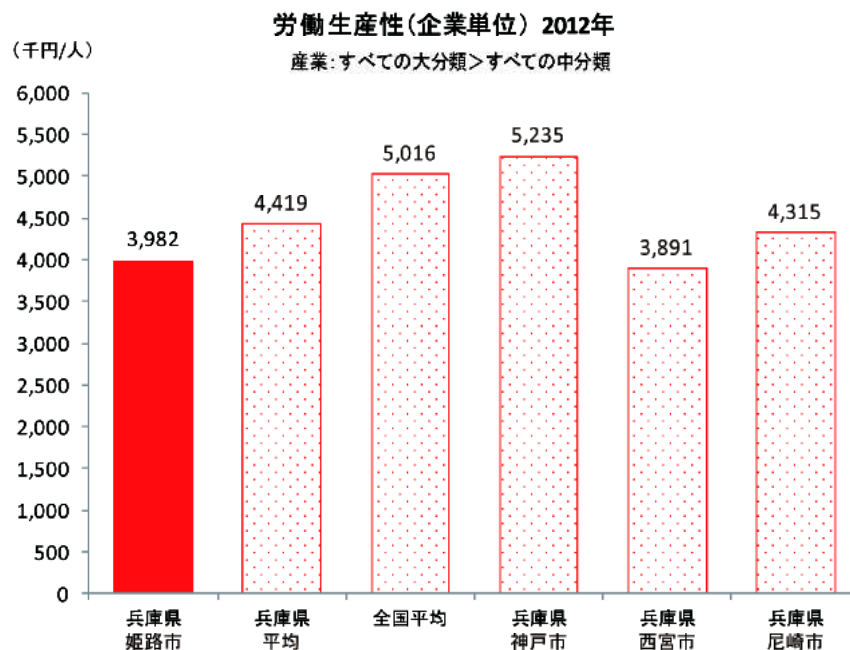


(資料) 姫路獨協大学より提供

### ③ 労働生産性

本市における労働生産性は、全国や兵庫県の平均値と比べると低い値になっている。

図表Ⅱ-6 労働生産性の比較（全国・兵庫県・姫路市・西宮市・尼崎市）



【出典】総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工

【注記】付加価値額÷従業員数で算出。

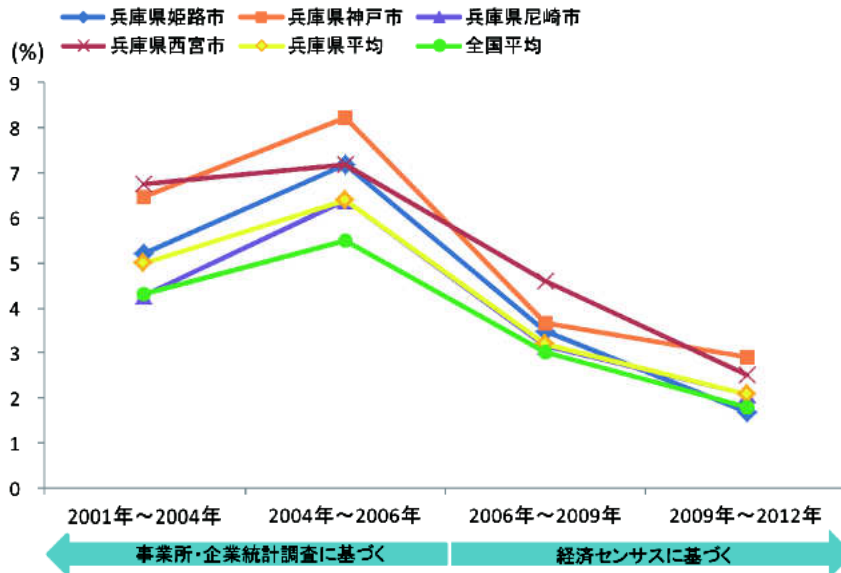
都道府県内		全国	
<b>12位</b>		<b>332位</b>	
全国上位10市区町村	全国下位10市区町村	指定地域の上位下位5市区町村	
1位 山梨県忍野村	1,725位 東京都御蔵島村	327位 岡山県備前市	
2位 岐阜県笠松村	1,726位 和歌山県北山村	328位 埼玉県北本市	
3位 大阪府高石市	1,727位 福島県檜枝岐村	329位 福岡県志免町	
4位 東京都千代田区	1,728位 大分県姫島村	329位 岐阜県大野町	
5位 和歌山県湯浅町	1,729位 長野県平谷村	331位 兵庫県三木市	
6位 千葉県多古町	1,730位 北海道浦臼町	332位 兵庫県姫路市	
7位 東京都港区	1,731位 鹿児島県三島村	333位 栃木県上三川町	
8位 青森県六ヶ所村	1,732位 新潟県粟島浦村	334位 東京都瑞穂町	
9位 高知県中土佐町	1,733位 鹿児島県十島村	335位 千葉県白井市	
10位 福岡県篠栗町	1,734位 沖縄県渡名喜村	336位 広島県福山市	
		336位 埼玉県上尾市	

(資料) RESAS-地域経済分析システム

④ 創業比率

創業比率について2009年～2012年において全国平均よりも低い値となっている。

図表Ⅱ-7 創業比率の比較（全国・兵庫県・姫路市・西宮市・尼崎市）  
創業比率



【出典】

総務省「平成13年事業所・企業統計調査」、総務省「平成16年事業所・企業統計調査」、  
総務省「平成18年事業所・企業統計調査」、総務省「平成21年経済センサス-基礎調査」、  
総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」

【注記】

「平成21年経済センサス-基礎調査」より、新設事業所の定義を変更したため、2006-2009年の創業比率は過去の数字と単純には比較できない。  
創業比率は、個人(法人)会社を足し合わせて算出しており、会社以外の法人及びその他の団体は含んでいない。

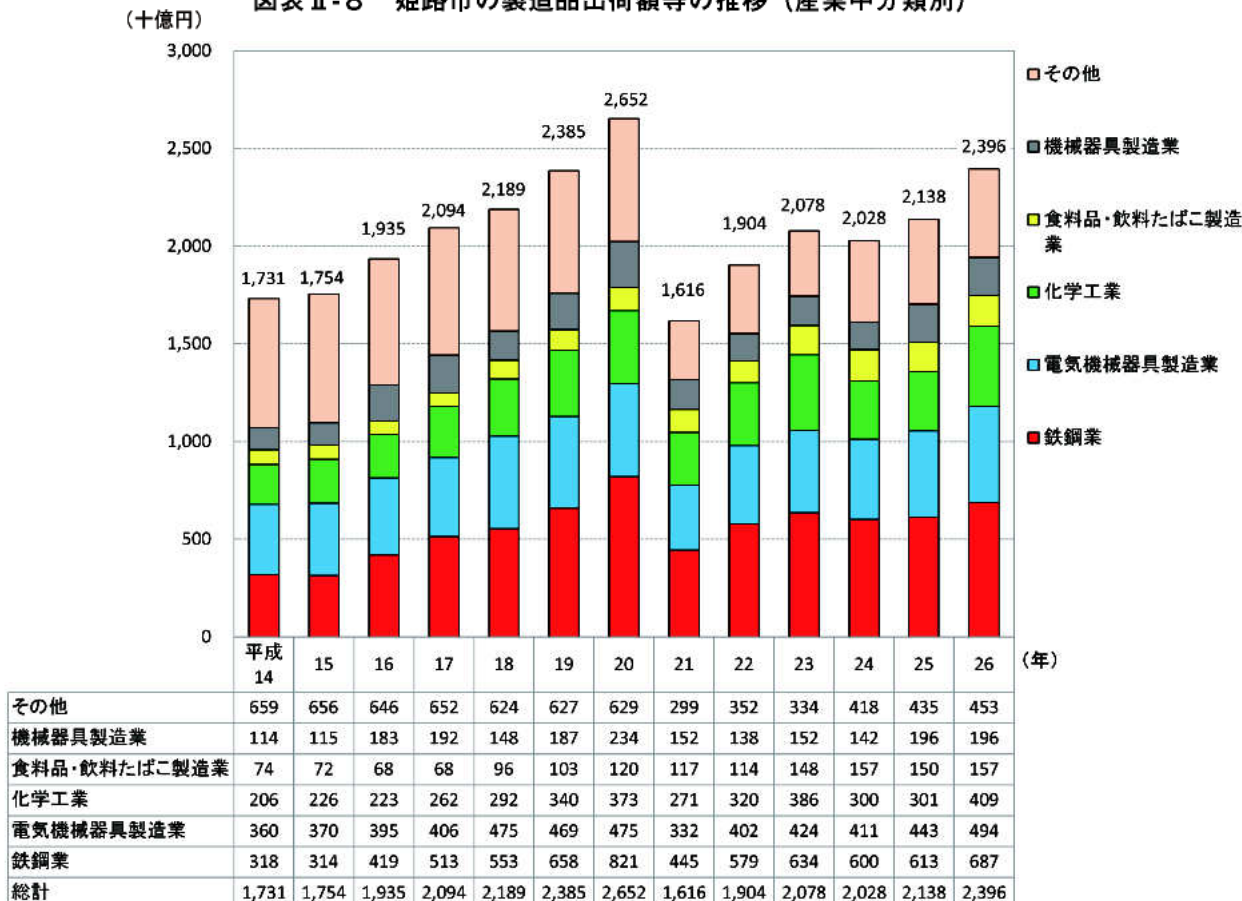
都道府県内		全国		
<b>14位</b>		<b>497位</b>		
全国上位10市区町村		全国下位10市区町村		指定地域の上位下位5市区町村
1位	滋賀県竜王町	1,713位	福島県大熊町	497位 鹿児島県湧水町
2位	徳島県藍住町	1,713位	福島県富岡町	497位 長崎県諫早市
3位	沖縄県豊見城市	1,713位	福島県楢葉町	497位 高知県香南市
4位	東京都利島村	1,713位	福島県三島町	497位 山口県下松市
5位	岩手県陸前高田市	1,713位	山形県鮭川村	497位 山口県宇部市
6位	岩手県釜石市	1,713位	宮城県七ヶ宿町	497位 兵庫県姫路市
7位	沖縄県金武町	1,713位	青森県佐井村	497位 静岡県富士市
8位	北海道北広島市	1,713位	青森県風間浦村	497位 岐阜県富加町
9位	岩手県大船渡市	1,713位	北海道幌加内町	497位 東京都練馬区
10位	沖縄県宜野座村	1,713位	北海道積丹町	497位 千葉県長柄町
				497位 埼玉県富士見市

(資料) RESAS-地域経済分析システム

⑤ 鉄鋼業など特定の業種への依存度

製造品出荷額等の推移を産業中分類別にみると、鉄鋼業、電気機械器具製造業、化学工業で全体の7割ほどを占めており、好不況に影響されやすい。

図表Ⅱ-8 姫路市の製造品出荷額等の推移（産業中分類別）



(注1) 「機械器具製造業」は平成19年までは産業中分類「一般機械器具製造業」と「精密機械器具製造業」の合計。平成20年以降は「はん用機械器具製造業」「生産用機械器具製造業」「業務用機械器具製造業」の合計

(資料) 経済産業省「工業統計表」、姫路市「工業統計調査」より作成（※平成26年は速報値）

⑥ 成長分野への取組み

医療分野、健康分野及び次世代インフラ・宇宙分野に関心のある企業を、成長分野へと導いていくためのさらなる方策が必要である。

図表Ⅱ-9 成長が期待される分野における姫路市内企業の取組み状況・関心

医療分野 (％)		
	既に取り組んでいる	関心がある
医薬品	1.0	1.6
画像診断システム等「診断系」医療機器	1.3	3.2
手術用機器など「治療系」医療機器	1.6	5.2
人工関節、心臓ペースメーカー等の「生体機能補助・代行機器」	1.0	4.5
歯科用機器・材料	1.3	1.9
その他	4.9	5.8
取り組んでいるものはない/興味・関心がない	72.7	60.4
健康分野		
	既に取り組んでいる	関心がある
マッサージチェア等の健康器具	0.6	2.9
補聴器等の自助具	0.3	1.0
介護ロボット	1.3	6.2
大人用紙おむつ・家庭用マスク等の衛生用品	1.3	1.9
高齢者向け住宅・設備	1.3	3.9
その他	4.5	3.9
取り組んでいるものはない	76.0	64.3
環境・エネルギー分野		
	既に取り組んでいる	関心がある
太陽光発電関係	15.9	16.6
風力発電関係	2.9	7.1
燃料電池関係	3.6	10.1
蓄電池関係	3.2	6.8
SIC等のパワーデバイス関係	1.0	0.3
土壌・水質等の環境浄化関係	5.2	6.2
バイオマス関係	1.9	3.6
エネルギーマネジメント、スマートグリッド関係	1.9	4.5
その他	3.6	4.2
取り組んでいるものはない	59.1	44.8
次世代インフラ・宇宙分野		
	既に取り組んでいる	関心がある
非破壊検査技術関係	2.3	3.6
ITS(高度道路交通システム)・自動運転関係	0.6	4.2
宇宙開発関係	1.6	5.5
その他	0.0	2.6
取り組んでいるものはない	78.9	66.2
農水産物・地域資源分野		
	既に取り組んでいる	関心がある
農産品	5.8	3.6
水産品	1.9	1.9
地場産品	2.3	3.9
歴史・文化に関連する製品・サービス	1.0	1.9
姫路・播磨地域への観光に関連する製品・サービス	2.6	2.9
その他	1.6	1.0
取り組んでいるものはない	76.0	70.1

(資料) 姫路市「姫路市経済振興ビジョン策定に向けた市内企業アンケート調査」(平成26年)



## (2) 交通

### ① 交通利便性

道路、鉄道、港湾など、さまざまな分野において本市を中心に交通ネットワークが形成されている。現在も、基幹道路や新駅の整備が着実に進められ、また、臨海部では播磨臨海地域道路網の事業化に向けた調査検討も行われるなど、利便性向上に向けた取組みが進んでいる。

図表Ⅱ-10 姫路市における交通ネットワーク



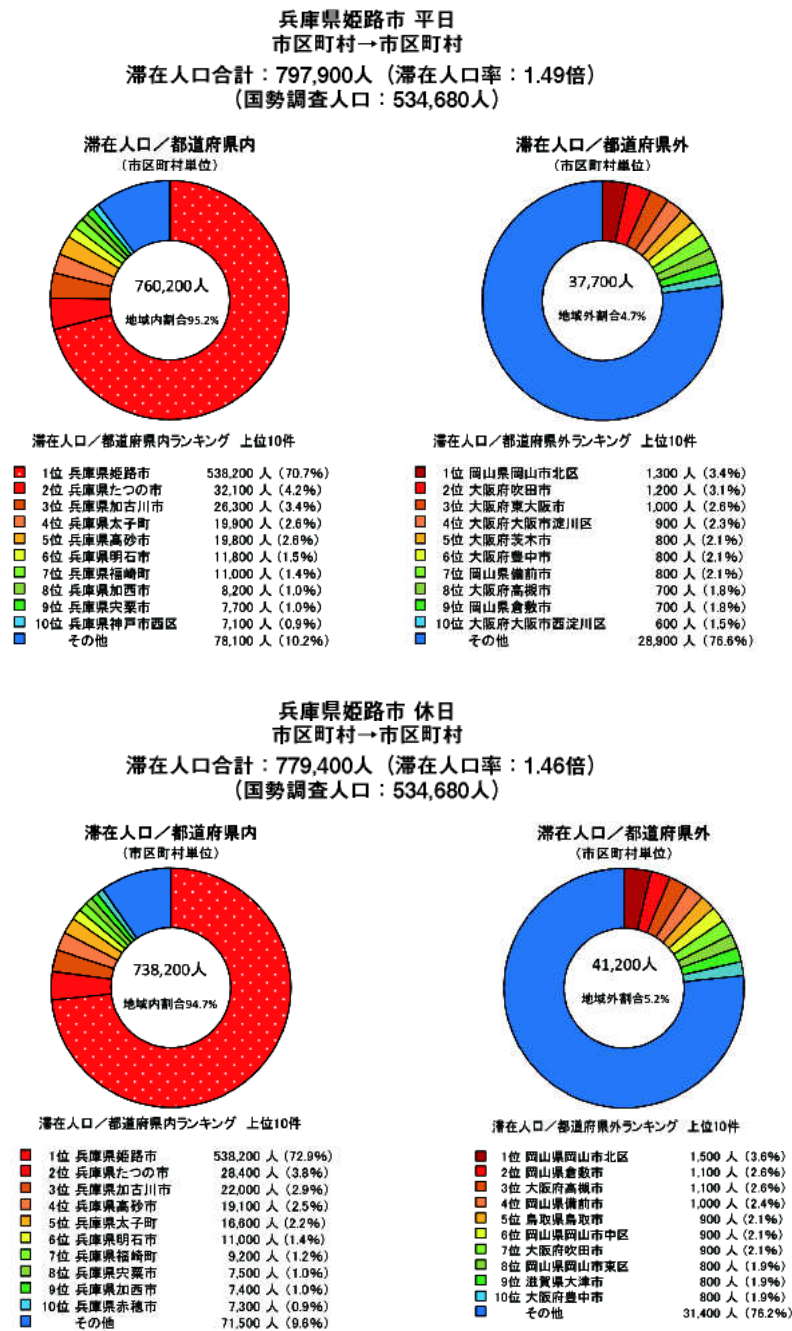
(資料) 姫路市都市計画マスタープラン (一部追加)

(3) 観光

① 滞在人口

平日と休日の滞在人口※を比較すると休日の方が若干少なくなっているが、県外からの滞在人口については、休日の方がやや多くなっている。

図表Ⅱ-11 From-to分析（滞在人口）



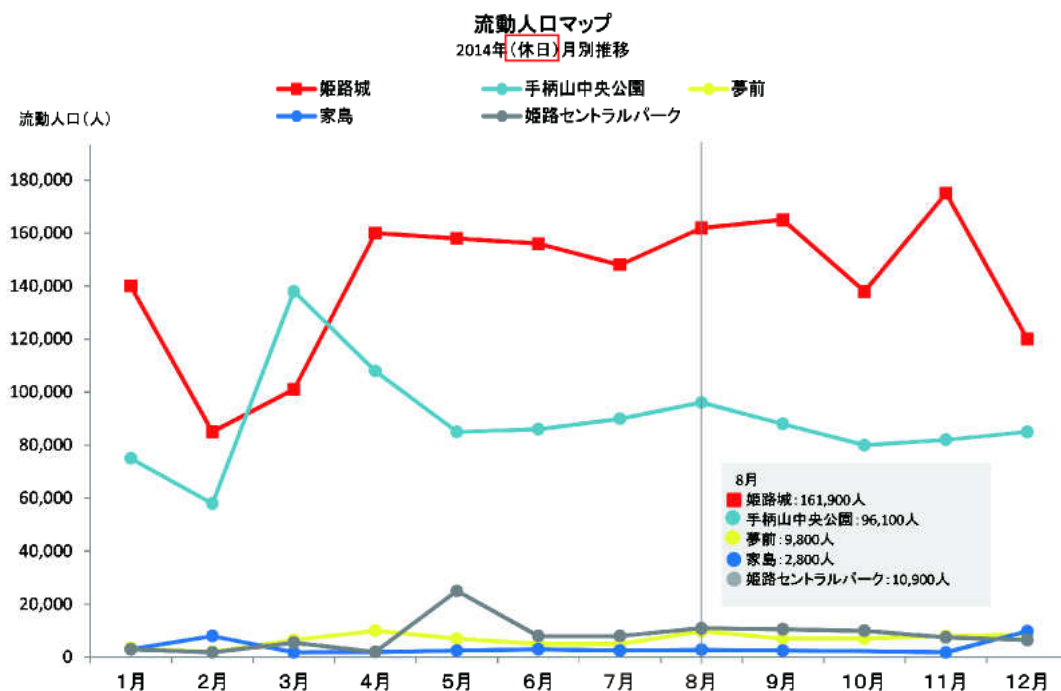
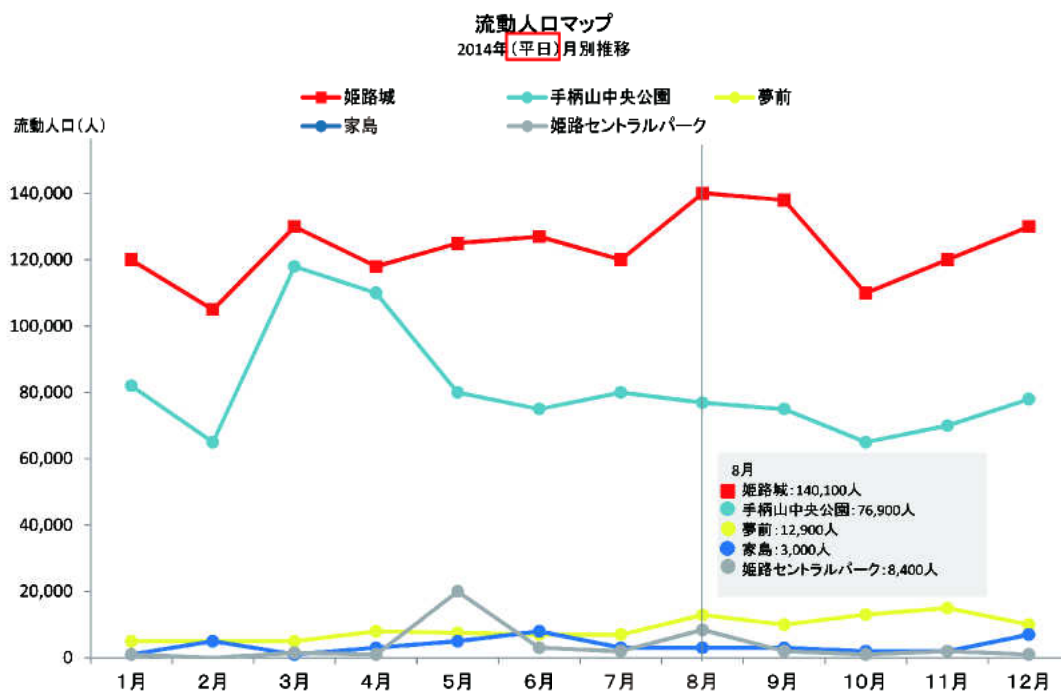
【出典】株式会社Agoop「流動人口データ」

（資料）RESAS-地域経済分析システム兵庫県姫路市 平日

## ② 流動人口

月毎の姫路市中心部（姫路城・手柄山中央公園）の流動人口※の増減と、その他地域の流動人口の増減が連動していない。

図表Ⅱ-12 流動人口（平日・休日・姫路市）



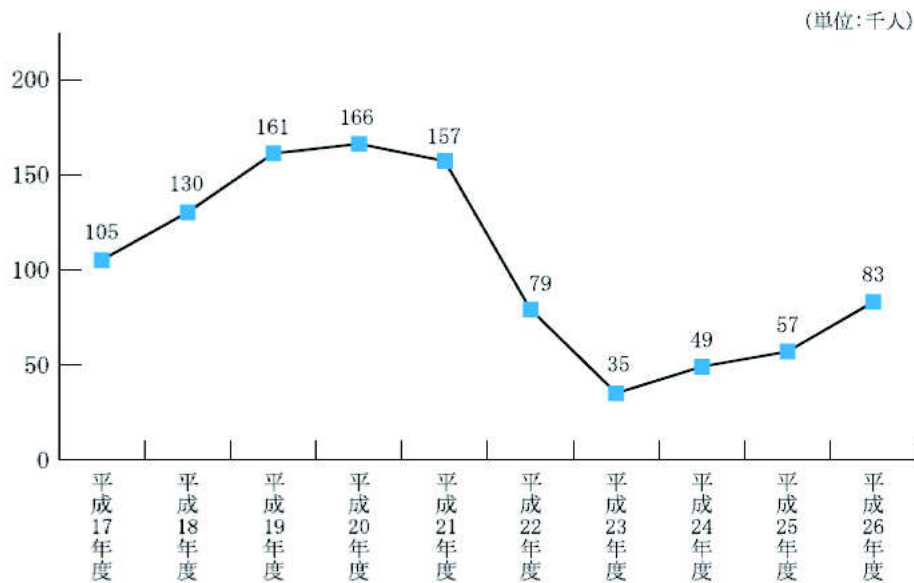
Copyright (C) 2015 Agoop Corp. All Rights Reserved.  
(資料) RESAS-地域経済分析システム

③ 外国人観光客

姫路城に登閣する外国人は、平成21年度（2009年度）までは10万人を超えていたが、それ以降大天守の改修により10万人を割り込んでいた。

平成27年（2015年）3月の姫路城のグランドオープンには、国内だけでなく世界に本市の魅力を発信する絶好の機会であり、今後も多くの外国人観光客の来訪が期待される。

図表Ⅱ-13 姫路城の外国人観光客数の推移



姫路市観光案内所（姫路観光ナビポート）での外国人観光客の対応者数は、国（地域）別では、台湾が最も多く、アジア以外では、フランス、スペインが比較的多い。

図表Ⅱ-14 姫路市観光案内所（姫路観光ナビポート）での外国人客対応者数

年 度	外国人 対応者数(人)	外国人対応者数上位5ヶ国(地域)(人)										【参考】 日本人観光客 問い合わせ 件数(件)
		1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		
平成22年度	12,322	台湾	1,700	韓国	729	スペイン	586	中国	575	フランス	540	37,281
平成23年度	7,360	台湾	1,283	中国	455	韓国	400	アメリカ	272	オーストラリア	269	46,381
平成24年度	9,274	台湾	1,402	韓国	541	中国	365	フランス	355	アメリカ・ オーストラリア	286	49,553
平成25年度	8,657	台湾	1,605	韓国	533	フランス	333	中国	327	オーストラリア	265	53,186
平成26年度	10,872	台湾	2,212	韓国	539	中国	494	スペイン	478	フランス	427	55,602

(資料) 平成26年度姫路市入込客数調査



(4) 暮らし

① 地域の暮らしやすさ指標

暮らしやすさ指標の貨幣価値は、30歳代：利便性志向：夫婦と子ども（小中校生）の世帯の場合、県内で2位、近畿地方内で10位となっている。神戸市と比較した場合、鉄道駅までの距離（生活利便性の指標）や小中学校までの距離（教育・子育ての指標）などが低い一方、地域の保育所の待機児童率※（教育・子育ての指標）や空気のきれいさ（自然環境の指標）などが評価されている。

図表Ⅱ-15 地域の暮らしやすさ指標の貨幣価値総合評価ランキング

参考)上記指標の貨幣価値総合評価ランキング

全国上位ランキング (1741市区町村中)			近畿地方内上位ランキング (227市町村中)			兵庫県内上位ランキング (41市町中)		
順位	市区町村	貨幣価値(万円)/年	順位	市区町村	貨幣価値(万円)/年	順位	市区町村	貨幣価値(万円)/年
1	鳥取県米子市	209万円	1	滋賀県大津市	200万円	1	兵庫県川西市	192万円
2	石川県金沢市	207万円	2	滋賀県栗東市	199万円	2	兵庫県姫路市	191万円
3	福岡県中間市	207万円	3	京都府長岡京市	197万円	3	兵庫県西宮市	189万円
4	石川県野々市市	207万円	4	京都府京都市	194万円	4	兵庫県宝塚市	189万円
5	福井県福井市	206万円	5	大阪府池田市	193万円	5	兵庫県神戸市	186万円
6	大分県別府市	206万円	6	京都府宇治市	192万円	6	兵庫県三木市	186万円
7	山口県宇部市	206万円	7	兵庫県川西市	192万円	7	兵庫県加古川市	185万円
8	福岡県田川市	206万円	8	大阪府交野市	191万円	8	兵庫県芦屋市	185万円
9	山口県下松市	206万円	9	京都府向日市	191万円	9	兵庫県赤穂市	183万円
10	山口県山陽小野田市	205万円	10	兵庫県姫路市	191万円	10	兵庫県小野市	183万円

カテゴリ区分	選択した暮らしやすさ指標	地域				比較対象地域				
		全国平均値	兵庫県姫路市		兵庫県神戸市					
			当該市町村値	貨幣価値(円)/年	全国順位 (1741)	近畿地方内順位 (227)	当該市町村値	貨幣価値(円)/年	全国順位 (1741)	近畿地方内順位 (227)
生活利便性	ショッピングセンターへの距離	12.9km	3.0km	623,304円	1	1	1.6km	623,304円	1	1
生活利便性	飲食店の集積度	7件/可住地km <sup>2</sup>	12.8件/可住地km <sup>2</sup>	227,376円	51	12	66.3件/可住地km <sup>2</sup>	127,598円	364	78
生活利便性	バス停までの距離	0.8km	0.6km	364,224円	1080	154	0.4km	386,772円	1	1
生活利便性	鉄道駅までの距離	6.3km	2.1km	629,436円	574	108	1.2km	727,624円	127	43
働きやすさ	通勤通学時間(※都道府県指標)	33.3分	42.0分	193,512円	1450	148	42.0分	193,512円	1450	148
働きやすさ	地域の求人倍率(※都道府県指標)	1.06倍	0.89倍	32,412円	1247	187	0.9倍	32,412円	1247	187
教育・子育て	小中学校までの距離	2.1km	1.8km	1,126,080円	587	108	0.9km	1,225,656円	1	1
教育・子育て	学校での子供に対する先生の目の届きやすさ	16.2人/先生1人	23.1人/先生1人	109,008円	1506	171	24.4人/先生1人	89,160円	1599	193
教育・子育て	大学(短大除く)までの距離	23.1km	6.2km	122,904円	443	86	2.8km	141,732円	1	1
教育・子育て	地域の保育所の待機児童率	0.6%	0.1%	274,596円	1303	158	2.5%	224,882円	1497	199
医療・福祉	老人福祉施設の有在率	92.4%	84.4%	39,036円	148	34	90.5%	23,868円	292	54
医療・福祉	病院又は診療所までの距離	1.8km	0.9km	320,448円	1	1	0.4km	320,448円	1	1
医療・福祉	高度な救命措置可能な救命救急センターまでの所要時間	46.9分	29.5分	443,328円	1	1	21.5分	443,328円	1	1
災害	今後30年間に、震度6以上の揺れが発生する確率	15.7%	8.1%	440,628円	919	81	14.1%	843,648円	1118	100
災害	津波避難対象地域(市町村単位)の該当	該当140市町村	非該当	245,160円	-	-	非該当	245,160円	1	1
自然環境	周辺での緑(農地や森林)の多さ(市町村総面積に占める、農地・森林・湖沼の面積の割合)	67.4%	66.6%	35,640円	452	72	49.0%	57,708円	33	7
自然環境	空気のきれいさ(大気汚染物質の濃度)	0.0106ppm	0.012ppm	268,020円	89	7	0.017ppm	203,928円	1551	188
自然環境	水のきれいさ(名水・湧水の有無)	名水有183市町村 湧水有104市町村	湧水有	71,652円	-	-	湧水有	71,652円	1	1
自然環境	年平均気温	13.4℃	15.2℃	397,368円	608	113	15.9℃	403,752円	314	49
ライフスタイル	地域で採れた食材の入手のしやすさ(※都道府県指標)	99.97%	38.00%	150,780円	1382	80	38.00%	150,780円	1382	80
ライフスタイル	治安の良さ	68.4件/万人	155.1件/万人	112,656円	418	80	146.6件/万人	115,272円	374	72
ライフスタイル	地域の活動(まちづくり、町内会、PTA活動など)に関わる人の割合(※都道府県指標)	2.5%	3.0%	94,692円	493	40	3.0%	94,692円	493	40
総合評価				1,905,253円	175	10		1,861,046円	268	23

(資料) 経済産業省：生活コストの『見える化』システム

### 3. 5つの基本目標

人口減少の進行を緩和し、「ふるさと・ひめじ」の活力を維持し続けるためには、経済・暮らし・文化などの各分野における、本市が持つ魅力を地域資源として磨き上げ、つなぎ合わせていく必要がある。そうした内発的な活力に加えて、国内外の他地域の活力を本市に取り込み、さらに発展を遂げていくとともに、その成果を播磨圏域全体で分かち合うことにより、本市も近隣市町も持続的に発展していく姿を描いていく必要がある。ひめじ創生戦略においては、上記の観点を踏まえつつ、将来的に人口減少に歯止めをかける「積極戦略」に取り組むとともに、直面する人口減少の課題に対応し、活力を維持するための「調整戦略」に重点的に取り組む。

このため、人口ビジョン（P27）に掲げる「人口減少問題への対応の方向性」に基づき、本市の特徴を分析し、施策を体系化した5つの基本目標を掲げ、その達成に向けた取組みを着実に進めていく。

#### （1）【基本目標1】地域経済を活性化し、安定した雇用を創生

本市は、鉄鋼、化学などの基礎素材型産業と、電気機械、一般機械などの加工組立型産業が集積する全国でも有数の「ものづくり都市」であり、規模の大小を問わず高い技術を有する企業が多く立地している。また、平成18年（2006年）の市町合併により、農林水産業の要素も増すこととなり、多様な産業を有する都市となった。

地域企業の技術力と生産性の向上、次世代農業の育成、地域ブランドの創造を重点的に進め、地域経済を活性化し、安定した雇用を創生する。

**【成果指標】 製造品出荷額等の全国・県内シェア、従業者数（製造業）、工場立地件数**

#### （2）【基本目標2】学び、働き、暮らし、交流する新しいひとの流れを創生

世界文化遺産である姫路城は、国内外から多くの観光客を惹きつける観光資源であり、これを活かしたインバウンド※観光などを推進する。また、地域拠点強化を図る企業の本市への集積や女性が活躍できる企業等を増やすとともに、移住定住支援の充実などにより、新しいひとの流れを創生する。

**【成果指標】 東京圏・大阪府への転出超過数、総入込客数**

#### （3）【基本目標3】生涯を通じていきいきと活躍できる社会を創生

高齢者が、新たな社会の担い手として、自らの能力を生かして活躍できるよう、社会貢献活動の場を充実させるとともに、健康づくり活動の場や介護予防に関する取組みを充実させ、生涯を通じていきいきと活躍できる社会を創生する。

**【成果指標】 高齢者（65～74歳）の有業率※、健康寿命**



#### (4) 【基本目標4】 出産、子育てにやさしい社会を創生

安心して子育てができる住みよいまちづくりが必要であるため、出産から子育てまで、ライフステージに応じた切れ目のない支援、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進等によって、子どもを産み育てやすい環境を創生する。

**【成果指標】** 合計特殊出生率、女性（30～39歳）の有業率、  
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

#### (5) 【基本目標5】 播磨の中核都市として魅力ある都市・圏域を創生

播磨圏域において相当の規模と中核性を備える本市が、各市町の資源や特徴を生かした連携事業を推進するとともに、公共交通を中心とした総合的な交通体系の構築により、圏域全体の活性化を図る。

さらに、市内各地域の現状と将来の展望を見据えつつ、日常生活圏の連携・充実を図るとともに、コアゾーン※やイベントゾーン※における高次都市機能の整備、周辺道路の整備と土地区画整理事業の推進により、一体的で良好な市街地を創生する。

**【成果指標】** 播磨圏域連携中核都市圏ビジョンに定める連携事業の進捗率、  
公共交通機関の乗車人員、中心市街地の居住者数

## 4. 今後の施策の方向

5つの基本目標の下に、本市の特徴や地域特性を踏まえた施策を掲げる。

### 【基本目標1】 地域経済を活性化し、安定した雇用を創生

#### 施策① ものづくり力の強み、起業家支援、産官学等連携を活用した競争力の強化

「ものづくり力」などの本市の強みを活かし、商業・サービスなど他産業への波及効果による経済の好循環を生み出すため、地域企業の技術力と生産性の向上、海外展開に対する支援を実施する。また、優れた技術に支えられた地域企業が、市内に新たなビジネスや雇用を創出し、新分野の開拓や新しい製品・技術の開発に挑戦し続けられる環境を整備する。さらに、創業機会の創出やイノベーションの加速を目指すため、専門家による経営相談や融資制度を充実するとともに、産官学等の関係機関のネットワーク構築を図る。

#### 施策② 企業立地の促進による雇用の安定

地域の活力を維持するため、本社機能の誘致等に向けた取組みの検討や、主力製造拠点を誘導する立地戦略を検討・推進していく。また、人口減少対策における企業の役割が最大限発揮できるよう、新規立地や既存企業の拡張に対する優遇制度と支援制度の充実を図る。

**施策③ 職業教育と就業機会の充実**

本市の産業を支える技術を有する人材の確保・育成に努める。さらに、地域の活性化につなげるため、市と大学の連携による雇用創出、市内大学等の学生の市内企業への就職支援などに取り組む。

**施策④ 地域の特徴を活かした農林水産業等の振興**

地元農林水産物の高付加価値化や、認知度の向上によりブランド力を強化し、農林水産業の競争力を高める。特に、農商工連携等による地域資源活用製品の開発、地元特産品PRなど地域の特徴を活かした取組みを支援する。

**【基本目標2】 学び、働き、暮らし、交流する新しいひとの流れを創生****施策⑤ 都市イメージの向上**

市内外における本市のイメージを向上させるとともに、市民とりわけ子どもの郷土愛の醸成のため、本市の特徴を活かしたシティプロモーション、スポーツイベントの開催などを推進する。

**施策⑥ MICEの推進**

交流人口の増加や新たな雇用の創出のため、国際会議や全国イベントなどMICE※の誘致を積極的に進め、多様な来訪者の獲得を図る。

**施策⑦ インバウンドを踏まえた観光戦略の展開**

観光は幅広い産業に関連するすそ野の広い総合産業であり、地域経済の発展と交流に伴う活力の創出が見込まれる。国内外からの誘客を図るため、観光客の属性や目的等の分析を行い、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインバウンド対策をはじめとした観光客の受入環境の充実、広域観光の推進等に取り組む。

**施策⑧ 移住・定住支援の充実**

本市への移住、定住を促進するため、移住・定住希望者のニーズを把握し、移住定住相談窓口のワンストップ化、空き家の情報発信、暮らしやすさのアピール等に取り組む。

**施策⑨ 優秀な人材の確保・活用と多様な人々の就労や登用の支援**

本市に愛着を持ち、地域を支えていく人材を確保するため、大学等における教育環境の充実、愛着と誇りを持てるふるさと意識の醸成を図る。また、活躍の場を求める若年者、女性の希望を叶えるため、若者の就職や女性のチャレンジ支援などを図るとともに、女性が希望に応じていきいきと活躍できる環境の整備に取り組む。さらに、官民連携を視野に入れた市民が躍動できる仕組みや体制の構築に努める。

### 【基本目標3】 生涯を通じていきいきと活躍できる社会を創生

#### 施策⑩ 社会貢献活動の促進

地域課題の解決や特色ある地域づくりの担い手として期待される高齢者が活躍する場として、ボランティアなどの社会貢献活動の機会を充実する。また、活動への意欲を持つ人が「地域の新しい担い手」となり、実際に活動を始められるよう支援等を行う。さらに、コーディネート等組織により、活動したい市民や団体と、活動を必要としている市民等とのマッチングを図るほか、活動のリーダー養成や活動団体の育成を促進する。

#### 施策⑪ 高齢者の就業・起業への支援

高齢者に就業機会を提供しているシルバー人材センターへの支援を行うほか、高齢者のニーズに合う新しい就労の仕組みを構築するとともに、就業に関する相談等を行う。また、起業を支援する講座を充実させるとともに、融資制度の活用を図る。

#### 施策⑫ 健康づくり活動の推進

健康の維持・促進に関し、健康づくりや介護予防に関する取組みを充実させるとともに、健康づくりに関する情報提供や意識啓発を行い、市民主体で健康づくり活動が行われるよう幅広い取組みを推進する。

### 【基本目標4】 出産、子育てにやさしい社会を創生

#### 施策⑬ ライフステージに応じた切れ目のない支援

若年代が抱く出産や育児等に対する不安を軽減し、子育てが大きな喜びや生きがいとなる環境を実現するため、出産・子育てに関する相談支援機能の充実、産後ケアの拡充、教育・保育の提供体制確保を図る。

#### 施策⑭ 子ども・子育てを見守る地域活動の維持

地域ぐるみで子育てを支え、子どもや子育て世代にやさしい環境を作るため、地域活動を支援する取組みを進める。

#### 施策⑮ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するため、関連する情報の発信に努めるとともに、多様な働き方、多様な能力発揮の場が可能になる環境づくりを支援する。

**【基本目標5】 播磨の中核都市として魅力ある都市・圏域を創生****施策⑯ 連携中枢都市圏構想による圏域の活性化**

人口減少・超高齢社会にあっても、経済を持続可能なものとし、市民が安心して暮らしていけるよう、播磨圏域において相当の規模と中核性を備える本市が、「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」について近隣市町と連携し、各市町の資源や特徴を生かした連携事業を推進するとともに、公共交通を中心とした総合的な交通体系の構築により、圏域全体の活性化を図る。

**施策⑰ 地域課題克服による日常生活圏の充実**

人口減少局面にあっても持続可能な都市を目指すため、市内各地域の現状と将来の展望を見据えつつ、地域資源や地域特性を活用し、防災、医療などさまざまな分野において都市機能を分担し、相互補完するとともに、公共交通サービス水準の維持・拡大や、交通結節機能※を高め連携を図ることにより、日常生活圏を充実させる。

特に、家島や夢前をはじめとする大幅な人口減少が想定される地域においては、交通機能の維持や買物支援など現在の市民生活を支える日常生活の利便性の維持や安全安心の確保に努める。

**施策⑱ 高次都市機能の集積等による中心市街地活性化の強化・推進**

魅力ある都心空間の形成やにぎわいづくりに向けて、姫路城と調和した景観の形成に留意しつつ、コアゾーンやイベントゾーンにおける高次都市機能が集積した都市拠点の整備やリニューアルした姫路駅北駅前広場等の利活用を推進するとともに、周辺道路の整備と土地区画整理事業により、一体的で良好な市街地を創出する。

また、街なかのにぎわいと活力の増大を図るため、街なか居住の推進、新陳代謝の促進による街なか（商店街）の活性化などに取り組み、中心市街地の活性化を進める。

さらに、中心市街地の回遊性の向上を図り、人にやさしい環境を創出するため、安全・安心な歩行者空間を確保するとともに、国の特区制度を活用した自転車の利用環境の整備を推進する。

**施策⑲ 行政マネジメントの強化**

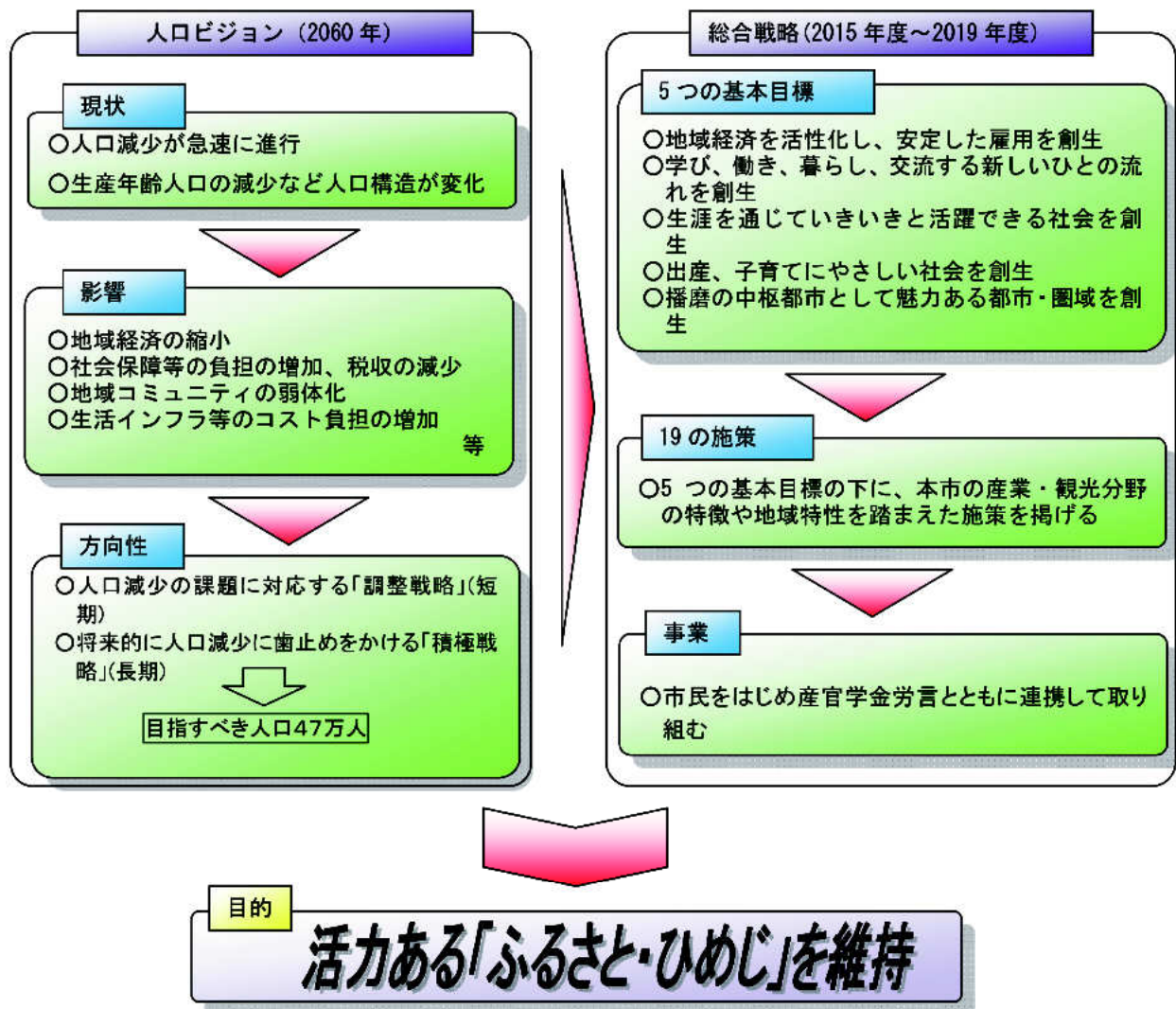
人口減少社会が進展する中、経済の高度成長が見込めないとされる状況下において、現在の質と量のまま公共サービスを提供し続けることは、将来世代にとって大きな負担となるため、人口減少社会に適応した行政マネジメントの強化が必要となっている。

今後、需要に合わせた公共施設の総ストック量の最適化、管理運営の最適化を進めるため、「姫路市公共施設等総合管理計画」による取組みを推進する。



また、持続可能な財政運営を確立するため、歳出の見直しやメリハリのある予算配分等に取り組む。  
 さらに、人口減少社会に対応できる行政運営のあり方について、ビッグデータ※の活用による客観的な情報分析や市民目線からの検証・考察・実施に努めるとともに、市長公室、総務局、財政局が中心となって、庁内連携を図る。

図表Ⅱ-16 ひめじ創生戦略のイメージ図





## 5. 取組みの基本方針

本戦略を効率的、効果的に推進するため、以下の5つの基本方針で取組みを進める。

### (1) 市民との協働による戦略推進

本戦略を進めるにあたって、市民ニーズや地域における諸課題に対し、地理や歴史など地域の個性や特色に配慮し、市民と行政が対等な関係で連携し、施策を展開することが必要である。そのためには、工夫を凝らした分かりやすい周知方法を図り、パブリック・コメント手続の活用等、積極的な行政情報の公開と提供により、市政の透明性を向上させるとともに、各種計画の策定過程や事業実施、進捗管理への市民参画を促進することが重要である。

また、市政に関する広報、広聴の充実による情報の共有化を推進し、市民の市政への関心を高め、まちづくりに対する意識を醸成し、市民とともに身近で質の高い行政運営に努める。

### (2) 広域、市全体、地域ブロックの視点

本市の特徴として、播磨圏域の連携中枢都市としての広域的な役割があるとともに、本市内には、北部には豊かな森林丘陵地や田園地があり、南部には群島があるなど、多様な地域がある。これらの特徴に留意しつつ、広域、市全体、地域ブロックを意識して施策を推進する。

### (3) 交流人口を重視した取組み

早急に移住定住人口対策に取り組んだとしても、当面は人口は減少すると見込まれており、交流人口を増やすことが、本市の活力を維持するために重要である。そのため、国内外から訪れ、集い、交流する人々＝「交流人口」を、「姫路市にとって大切なひとびと」として重視して施策を推進する。特に、本市の特性を活かしたシティプロモーション、MICE、スポーツ、インバウンド観光の推進に取り組む。

### (4) 4つの連携（広域連携・産官学等連携・国県との連携・庁内連携）による推進

#### ① 広域連携

播磨の市町とともに、それぞれが特性を活かしつつ連携することによって、魅力ある圏域を創造する。

播磨圏域において、相当の規模と中核性を備える本市が近隣の市町と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、播磨圏域の成長エンジンの役割を果たす。

## ② 産官学等連携

**戦略の立案・実行・検証まで産官学金労言の連携と参画で推進する。**

本戦略の立案・実行・検証については「ひめじ創生推進本部」や市議会での検討・審議に加え、市民をはじめ産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産官学金労言）と連携して取り組みを進める。

また、公共サービスの水準の維持向上やコスト縮減を図ることができる場合においては、行政として果たすべき責任に留意しつつ、民間の資金やノウハウ等を活用した手法（民間委託、PFI※、指定管理者制度など）を適切に導入する。

## ③ 国・県との連携

**国・県の施策との連携及び制度の活用に努める。**

本市の自立性、主体性を最大限発揮しつつ、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」関連の施策、県の地域創生戦略関連施策等と連携するとともに、支援制度を積極的に活用し、基本目標の達成に向けて効率的、効果的な事業に努める。

## ④ 庁内連携

**縦割りから横つなぎへ庁内の意識を改革する。**

縦割りを超え、さまざまな分野を組み合わせ、庁内の連携・協力により、多様化する市民ニーズに応じて最善の施策を組み立てる。

## （５）成果を重視した進捗管理、バージョンアップ

効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに重要業績評価指標（KPI）を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改定する一連のプロセス（PDCAサイクル）を確立する。

### 重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

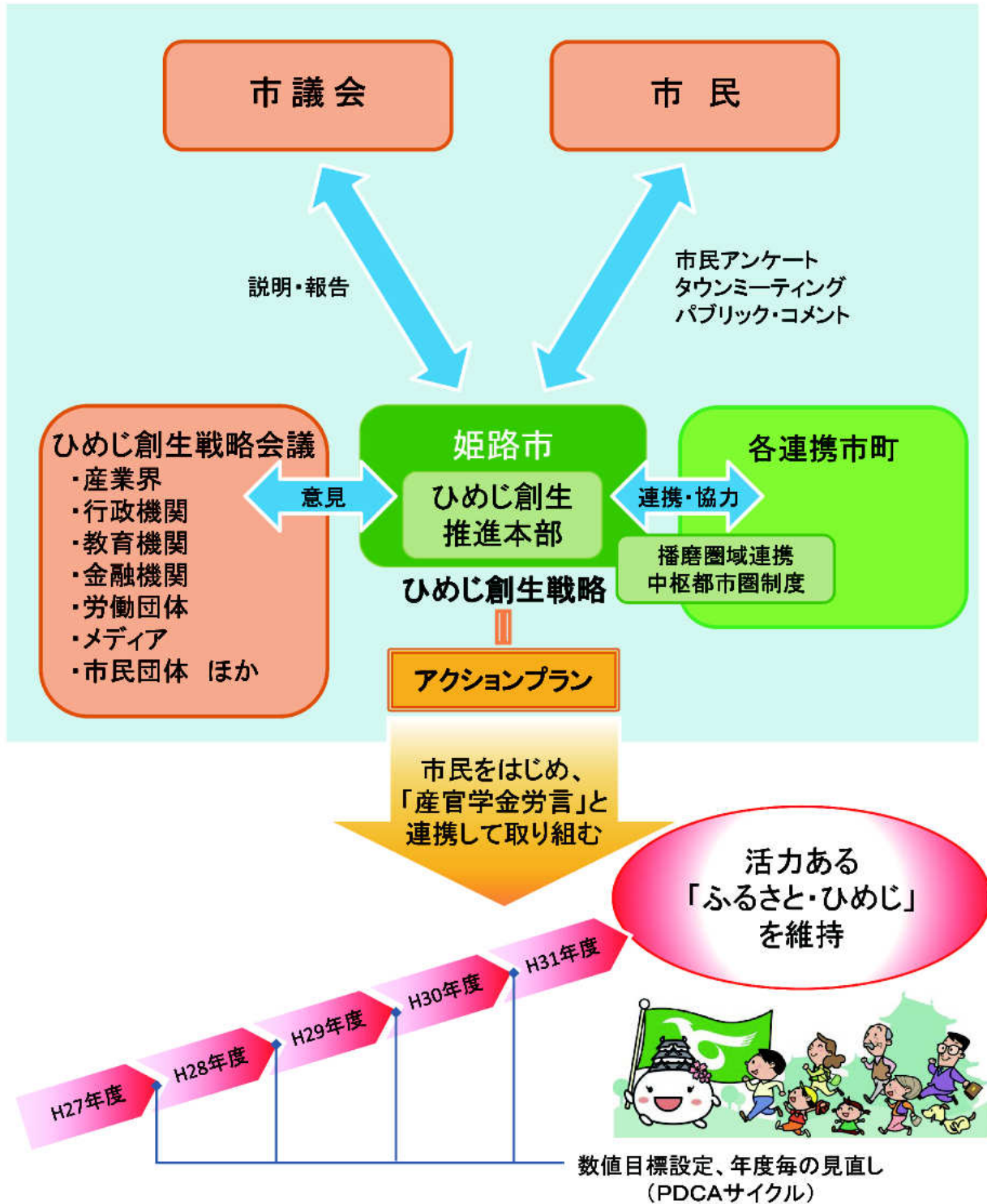
施策ごとの取組みの成果等を表し、進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

### PDCAサイクル

Plan-Do-Check-Actionの略称。

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。Plan-Doとして効果的な総合戦略の策定・実施、Checkとして総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改定を行うことが求められる。

ひめじ創生戦略推進体制





# 資料編



# 1 ひめじ創生戦略策定までのスケジュール

時 期	内 容
平成27年 6月	地方創生・広域連携特別委員会（19日） 人口ビジョン、総合戦略の骨子案について報告 市民アンケート実施 第1回 ひめじ創生戦略会議（26日） 人口ビジョン、総合戦略の骨子案について意見交換
7月	地方創生アイデア募集
8月	第1回タウンミーティング（9日） 第2回タウンミーティング（22日） 第2回 ひめじ創生戦略会議（24日） 人口ビジョン、総合戦略の原案について意見交換
9月	地方創生・広域連携特別委員会（18日） 人口ビジョン、総合戦略の原案について報告
11月	第3回 ひめじ創生戦略会議（2日） 事業・数値目標（案）について意見交換 地方創生コンシェルジュより意見聴取（18日）
12月	地方創生・広域連携特別委員会（14日） 事業・数値目標（案）について報告 パブリック・コメント手続の実施（12/21～1/20）
平成28年 2月	第4回 ひめじ創生戦略会議（22日） 「ひめじ創生戦略」（案）について意見交換
3月	地方創生・広域連携特別委員会（18日） 「ひめじ創生戦略」（案）について報告 「ひめじ創生戦略」の策定

## 2 ひめじ創生戦略会議 委員名簿

NO.	区分	委員名	備考
1	産業界	姫路商工会議所 専務理事 吉田 裕康	
2		姫路経営者協会 事務局長 成瀬 恵子	
3		JA兵庫西 経済部長 木村 勝則	
4	学識経験者	兵庫県立大学 産学連携・研究推進機構長 太田 勲	
5		姫路獨協大学 経済情報学部長 秋本 義久	
6		津田このみ学園 園長 井上 裕子	
7	金融機関	三井住友銀行 公共・金融法人部長 吉見 隆	～H27.11.1
		三井住友銀行 公共・金融法人部長 小川 賢一	H27.11.2～
8		日本政策金融公庫 姫路支店長 菅井 雄一	
9	労働団体	連合兵庫姫路地域協議会 事務局長 網島 雅彦	～H27.11.9
		連合兵庫姫路地域協議会 議長 那須 健	H27.11.10～
10	言論機関	神戸新聞社 論説委員 松岡 健	
11	市民団体	姫路市連合自治会 会長 大野 幸一	
12		姫路市連合婦人会 会長 岩田 稔恵	
13	兵庫県	中播磨県民センター長 岡本 周治	
14	公募委員	久呉 由紀	

### 3 ひめじ創生戦略会議開催要領

#### (目的)

第1条 姫路市における地方創生の推進に当たり、「ひめじ創生人口ビジョン」及び「ひめじ創生総合戦略」に関して、広く有識者からの意見を聴取するため、ひめじ創生戦略会議（以下「戦略会議」という。）を開催する。

#### (構成員)

第2条 戦略会議の構成員は、学識経験のある者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が選任する。

2 構成員の任期は、選任した日の属する年度の次年度末までとし、再任は妨げない。また、構成員が欠けた場合における補欠構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (開催)

第3条 戦略会議の開催は、「ひめじ創生人口ビジョン」及び「ひめじ創生総合戦略」を検討する各段階において市長が必要と認めたときに、必要な構成員を招集する。

2 市長は、必要があると認めたときは、構成員以外の者で議事に関係あるものに出席を求め、意見を聴くことができる。

#### (会長及び副会長)

第4条 市長は、会議の円滑な進行を確保するため会長及び副会長を置くことができる。

#### (庶務)

第5条 戦略会議に関する庶務は、市長公室地方創生推進室で処理する。

#### (補則)

第6条 この要領に定めるもののほか、戦略会議の運営に関し必要な事項は市長が定める。

#### 附則

この要領は、平成27年6月26日から施行する。

この要領は、平成27年7月22日から施行する。

## 4 用語解説（50音順）

### 入込客（→P.18）

姫路市内の観光地及び行祭事・イベントなどを訪れた来訪客、入場者のこと。宿泊・日帰りの区別はなく、総数として動向を調査。

### インバウンド（→P.44）

ここでは訪日外国人旅行もしくは訪日外国人旅行者を指す。

### コアゾーン、イベントゾーン（→P.45）

鉄道高架事業により、JR姫路駅の東側に新たに生み出された街区。コアゾーンは新たな高次都市機能が集積する商業・業務拠点と位置付けられており、イベントゾーンには、「知と文化・産業の交流拠点」をコンセプトに、「文化・交流活動の拠点機能」、「創造・交流活動を支援する機能」、「展示機能」、「会議・コンベンション機能」及び「高等教育・研究機能」の導入が計画されている。

### 高次都市機能（→P.5）

都市機能のうち、日常生活圏を超えた広域の人々を対象に、質の高いサービスを提供する機能。

### 交通結節機能（→P.48）

交通手段を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設の機能。鉄道駅、バスターミナル、港湾などが挙げられる。

### 社会減少数（→P.7）

姫路市以外の地域への転出（引っ越し）による人口の減少数。

社会増減数＝転入数-転出数+その他。

### 純移動率（→P.19）

ある地域の人口に対する他地域間との転入超過数の割合を示したもの。

### 人口推計（→P.19）

国勢調査による人口を基礎とし、その後の人口の動向を他の人口関連資料から得て算出したもの。

### 生産年齢人口（→P.1）

生産活動の中核となる15歳以上65歳未満の人口。

#### 滞在人口（→P.40）

情報提供の事前承諾を得てスマートフォンアプリ利用者の位置情報から集計した、ある地点に2時間以上滞在した人の数。

#### 地域の保育所の待機児童率（→P.43）

市区町村別待機児童率。待機児童数÷定員数（保育所に在籍する児童数）で算出。

#### 定住人口（→P.18）

その地域に住んでいる人。居住者。

#### 転入超過・転出超過（→P.15）

一定期間における転入が転出より多い状態を転入超過、転出が転入より多い状態を転出超過という。

#### ビッグデータ（→P.49）

明確な定義はないが、多様な種類・形式が含まれ、時系列性・リアルタイム性のある大容量のデータを指すことが多い。音声や画像、動画などのマルチメディアデータ、GPSやICカードにおいて検知される位置、乗車履歴といったデータなども含まれる。

#### 有業率（→P.44）

15歳以上の人口に占める有業者（ふだんの状態で収入を得ることを目的として仕事をしており、今後とも続ける予定の者及び仕事は持っているが現在仕事を休んでいる者）の割合。

#### 流動人口（→P.41）

情報提供の事前承諾を得てスマートフォンアプリ利用者の位置情報から集計した、ある地点に滞在している人の合計値。

#### 連携中枢都市圏（→P.4）

地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が「連携中枢都市宣言」を行い、近隣の市町村と連携協約を締結することにより形成される圏域。人口減少・少子高齢社会においても、コンパクト化とネットワーク化により一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点形成を目的とする。



**MICE (→P.46)**

企業等の会議 (Meeting)、報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字をとった造語。地域への大きな経済効果や新しいビジネス、イノベーションへのつながりが見込まれるビジネスイベントの総称。

**PFI (Private Finance Initiative) (→P.51)**

公共事業を実施するための手法の一つ。公共施設等の設計・建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法。



# 市民アンケート調査結果

## 《 目 次 》

### I. 転入に関するアンケート調査

1. 調査の目的	65
2. 調査対象	65
3. 調査方法	65
4. 調査時期	65
5. 回収率	65
6. 姫路市への転居の理由・背景について	66
(1) 転居の理由	66
(2) 転居を検討した際、姫路市以外で住居を探したか	67
(3) 姫路市以外で検討した地域	69
(4) 転居先を検討する際、行政サービス・制度について調べたか	70
(5) 行政サービス・制度を何で調べたか（知ったか）	70
(6) 転居の理由になる行政サービス・制度の有無	71
(7) 転入した理由	72
(8) 姫路市に住んで満足しているか	74
(9) 姫路市で実際に暮らしてみてもの満足度	75
(10) 姫路市での居留意向	76
(11) 将来は姫路市外へ引っ越したい理由	78
(12) 希望する引っ越し先	80
7. 回答者の属性	81
(1) 世帯構成について	81
(2) 前住所地	82
(3) 通勤先・通学先	83
(4) 職業	83
(5) 転入前の姫路市での居住経験	84
(6) 居住時期	84

### II. 転出に関するアンケート調査

1. 調査の目的	85
2. 調査対象	85
3. 調査方法	85
4. 調査時期	85
5. 回収率	85
6. 現居住地への転居の理由・背景について	86
(1) 引っ越しの理由	86
(2) 転居を検討した際、現居住地以外でも探したか	87

(3) 姫路市以外で比較した地域	89
(4) 転居先を検討する際、行政サービス・制度について調べたか	90
(5) 行政サービス・制度を何で調べたか(知ったか)	90
(6) 現居住地域への転居の理由になった行政サービス・制度の有無	91
(7) 転出を決めた理由	92
(8) 姫路市に居住していた時の満足度	94
(9) 姫路市に居住していた時、満足していたか	95
(10) 現居住地域での居住意向	96
(11) 将来、姫路市での居住意向	97
7. 回答者の属性	98
(1) 世帯構成について	98
(2) 現住所地	99
(3) 姫路市での居住年数	100
(4) 通勤先・通学先	102
(5) 職業	103

### Ⅲ. 結婚・出産・子育てに関するアンケート調査

1. 調査の目的	104
2. 調査対象	104
3. 調査方法	104
4. 調査時期	104
5. 回収率	104
6. 結婚の状況や考え方について	105
(1) 結婚(事実婚を含む)しているか	105
(2) 将来の結婚意向・希望結婚年齢	107
(3) 将来結婚する上で、現在不安に感じていること	110
(4) 結婚相手に求めるもの	112
(5) 結婚したいとは思わない理由	114
7. 出産・子育てについて	115
(1) 子どもの人数	115
(2) 理想の数の子どもを持つために、必要なことは何か	116
(3) 安心して子育てをするために、特に重要だと思うこと	122
8. 回答者の属性	124
(1) 年齢・性別について	124
(2) 職業	125
(3) 昨年の年収	125
(4) 配偶者の昨年の年収	126
(5) 両親との同居	127



# 1 転入に関するアンケート調査

## 1. 調査の目的

姫路市に転入した方の考えを把握し、今後転入を促進するための方策を検討する際の資料とするため、アンケート調査を実施した。

## 2. 調査対象

調査対象は、過去2年以内に姫路市に転入してきた20歳～39歳の男女1,500人とした。

## 3. 調査方法

郵送による。

## 4. 調査時期

平成27年6月26日（金）～7月10日（金）

## 5. 回収率

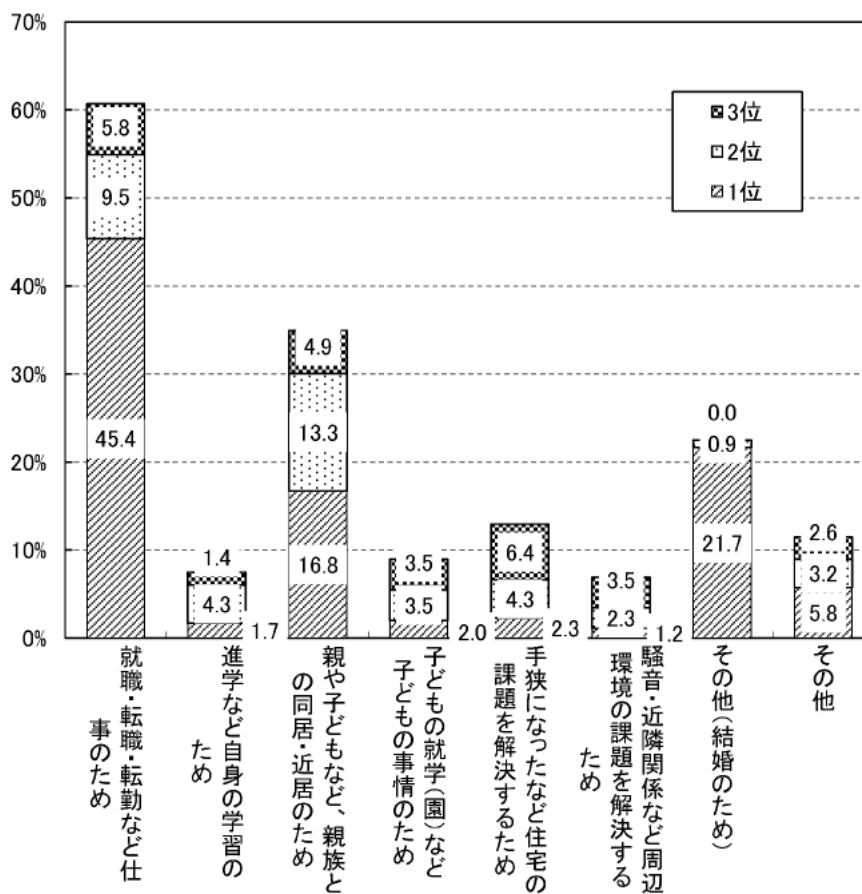
発送数	回収数	回収率
1,500	346	23.1%

## 6. 姫路市への転居の理由・背景について

### (1) 転居の理由

最も優先度の高い転居の理由については、「就職・転職・転勤など仕事のため」が45.4%で最も多く、次いで「その他（結婚のため）」が21.7%、「親や子どもなど、親族との同居・近居のため」が16.8%となっている。

図表 I-1 転居の理由

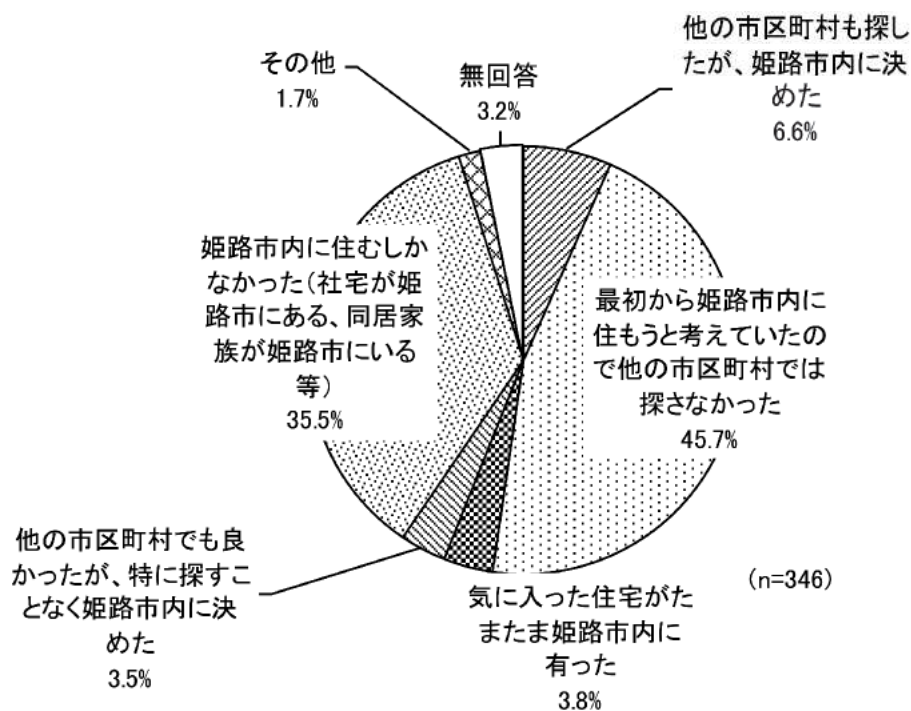


## (2) 転居を検討した際、姫路市以外で住居を探したか

「最初から姫路市内に住もうと考えていたので他の市区町村では探さなかった」が45.7%で最も多く、次いで「姫路市内に住むしかなかった（社宅が姫路市にある、同居家族が姫路市にいる等）」が35.5%、「他の市区町村も探したが、姫路市内に決めた」が6.6%となっている。

男女年齢別にみると、20代の男女で「姫路市内に住むしかなかった」が全体よりも10ポイント以上高くなっている。社宅や、婚姻によるものと推察される。

図表 I-2 姫路市以外の地域の検討



図表 I-3 姫路市以外の地域の検討（クロス集計）

		調査数	姫路市内に決めた	他の市区町村も探したが、	町村では探さなかった	と考えていたの市区	最初から姫路市内に住もう	姫路市内に有った	気に入った住宅がたまたま	市内に決めた	が、特に探すことなく姫路	他の市区町村でも良かった	た	姫路市内に住むしかなかった	その他	無回答
全 体		346 100.0	23 6.6	158 45.7	13 3.8	12 3.5	123 35.5	6 1.7	11 3.2							
男 性	20～29歳	50 100.0	1 2.0	22 44.0	1 2.0	0 0.0	24 48.0	2 4.0	0 0.0							
	30～39歳	89 100.0	15 16.9	41 46.1	4 4.5	4 4.5	22 24.7	0 0.0	3 3.4							
女 性	20～29歳	74 100.0	1 1.4	28 37.8	3 4.1	4 5.4	34 45.9	2 2.7	2 2.7							
	30～39歳	117 100.0	6 5.1	59 50.4	5 4.3	3 2.6	36 30.8	2 1.7	6 5.1							
職 業	正社員	159 100.0	17 10.7	64 40.3	4 2.5	6 3.8	58 36.5	6 3.8	4 2.5							
	非正社員	70 100.0	3 4.3	33 47.1	5 7.1	3 4.3	24 34.3	0 0.0	2 2.9							
	その他	88 100.0	0 0.0	48 54.5	2 2.3	3 3.4	31 35.2	0 0.0	4 4.5							
居 住 経 験	ある	111 100.0	8 7.2	49 44.1	3 2.7	2 1.8	47 42.3	0 0.0	2 1.8							
	ない	232 100.0	15 6.5	109 47.0	10 4.3	9 3.9	74 31.9	6 2.6	9 3.9							
満 足 度	満足+やや満足	146 100.0	15 10.3	85 58.2	4 2.7	4 2.7	34 23.3	4 2.7	0 0.0							
	普通+やや不満+不満	173 100.0	6 3.5	65 37.6	8 4.6	8 4.6	81 46.8	2 1.2	3 1.7							

(注1) 「全体」を10ポイント以上上回るものを白抜き、5ポイント以上上回るものをグレーの網掛けにしている。また、「全体」を5ポイント以上下回るものを斜体太字にしている。(以下同様)

(注2) 満足度については、サンプル数のバランスに配慮して段階を分けた。(以下同様)

(注3) この報告書のクロス集計は、原則として無回答を除いて集計した数値である。

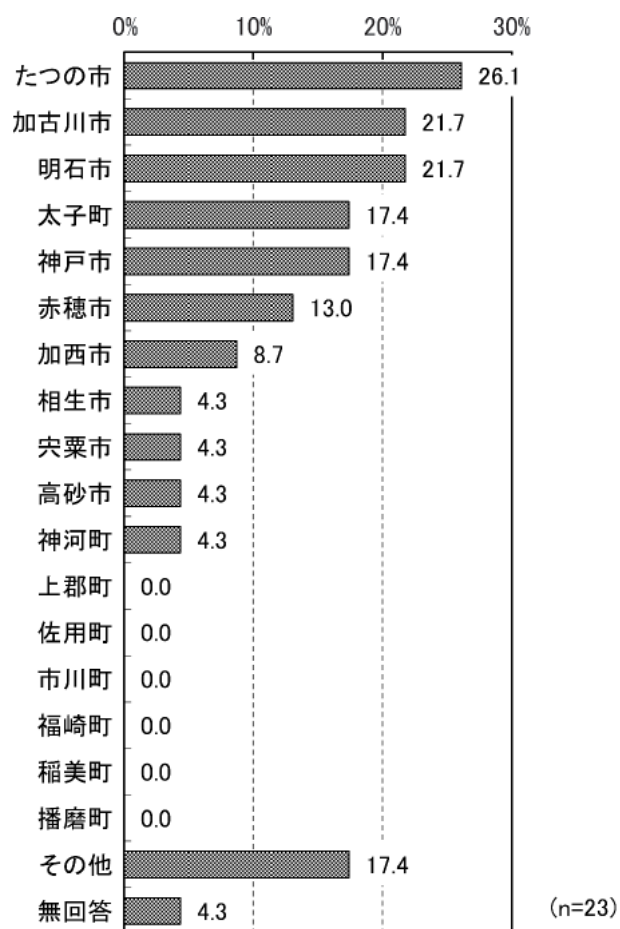
(ただし、「全体」の数値は無回答を含めて集計した単純集計の数値に合わせている。)

### (3) 姫路市以外で検討した地域

(「他の市区町村も探したが、姫路市内に決めた」と回答した方のみ)

姫路市以外で検討した地域については、「たつの市」が26.1%で最も多く、次いで「加古川市」、「明石市」が21.7%となっている。

図表 I-4 姫路市以外で検討した地域（複数回答）

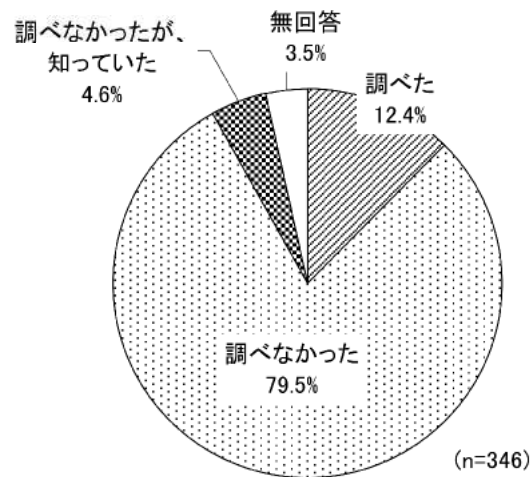




#### (4) 転居先を検討する際、行政サービス・制度について調べたか

転居先を検討する際、姫路市や他市町村の行政サービス・制度については、「調べなかった」が79.5%で最も多く、次いで「調べた」が12.4%、「調べなかったが、知っていた」が4.6%となっている。

図表 I-5 行政サービス・制度について

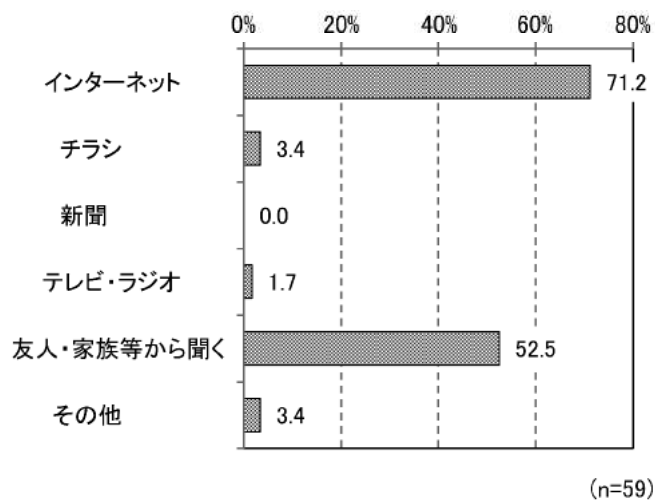


#### (5) 行政サービス・制度を何で調べたか (知ったか)

(「調べた」、「調べなかったが、知っていた」と回答した方のみ)

行政サービス・制度の調べ方については「インターネット」が71.2%で最も多く、次いで「友人・家族等から聞く」が52.5%、「チラシ」、「その他」が3.4%となっている。

図表 I-6 行政サービス・制度の調べ方

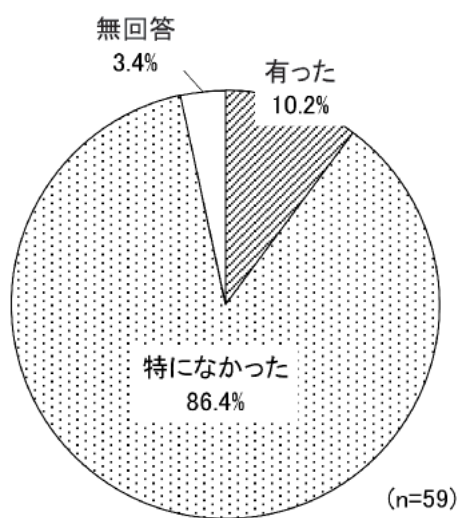


(6) 転居の理由になる行政サービス・制度の有無

(「調べた」「調べなかったが、知っていた」と回答した方のみ)

転居の理由になる行政サービス・制度については、「有った」が10.2%、「特になかった」が86.4%で、特になかった方が多くなっている。

図表 I-7 転居の理由になる行政サービス・制度の有無



### (7) 転入した理由

姫路市に転入した理由については、「通勤・通学に便利」が40.2%で最も多く、次いで「買い物に便利」が23.1%、「住宅が手頃な価格である」が12.1%となっている。

男女年齢別にみると、30代男性の「買い物に便利」、20代女性の「通勤・通学に便利」が全体よりも5ポイント以上高くなっている。

職業別にみると、正社員の「通勤・通学に便利」、非正規社員の「買い物に便利」が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

これらのことから、交通や買い物の利便性が姫路市の強みであり、転入者にとっての魅力になっていると推察される。

図表 I-8 転入した理由（複数回答）



図表 I-9 転入した理由 (クロス集計)

	調査数	安定した職がある	通勤・通学に便利	買い物に便利	学習環境が整っている	医療・福祉が充実している	治安がよい	住宅が手頃な価格である	自然や空気環境がよい	歴史や伝統がある	マナーがよい	気候がよい	街並みが整っている	国際的である	祭り・イベントが盛ん	子育て支援が充実	美味しい食事がある	コミュニティ活動が盛ん	高齢者が活躍できる場がある	無回答
全体	346	36	139	80	10	10	12	42	27	32	1	20	13	2	15	4	10	1	2	32
	100.0	10.4	40.2	23.1	2.9	2.9	3.5	12.1	7.8	9.2	0.3	5.8	3.8	0.6	4.3	1.2	2.9	0.3	0.6	9.2
男性	50	12	18	14	4	4	1	4	5	5	0	0	3	0	3	1	1	0	0	2
	100.0	24.0	36.0	28.0	8.0	8.0	2.0	8.0	10.0	10.0	0.0	0.0	6.0	0.0	6.0	2.0	2.0	0.0	0.0	4.0
20~29歳	89	7	39	28	3	3	4	13	7	10	1	4	3	1	5	2	4	0	0	7
	100.0	7.9	43.8	31.5	3.4	3.4	4.5	14.6	7.9	11.2	1.1	4.5	3.4	1.1	5.6	2.2	4.5	0.0	0.0	7.9
30~39歳	74	3	34	18	0	1	2	10	2	5	0	7	3	0	3	0	2	0	0	5
	100.0	4.1	45.9	24.3	0.0	1.4	2.7	13.5	2.7	6.8	0.0	9.5	4.1	0.0	4.1	0.0	2.7	0.0	0.0	6.8
女性	117	10	41	19	3	1	5	15	13	11	0	8	4	1	6	1	2	1	1	15
	100.0	8.5	35.0	16.2	2.6	0.9	4.3	12.8	11.1	9.4	0.0	6.8	3.4	0.9	5.1	0.9	1.7	0.9	0.9	12.8
正社員	159	21	81	39	5	5	6	16	10	15	1	5	5	1	6	3	6	0	0	10
	100.0	13.2	50.9	24.5	3.1	3.1	3.8	10.1	6.3	9.4	0.6	3.1	3.1	0.6	3.8	1.9	3.8	0.0	0.0	6.3
非正社員	70	8	26	25	2	1	3	8	6	8	0	7	5	1	5	0	0	0	0	6
	100.0	11.4	37.1	35.7	2.9	1.4	4.3	11.4	8.6	11.4	0.0	10.0	7.1	1.4	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6
その他	88	1	26	12	3	3	2	13	9	8	0	5	3	0	4	1	3	1	1	10
	100.0	1.1	29.5	13.6	3.4	3.4	2.3	14.8	10.2	9.1	0.0	5.7	3.4	0.0	4.5	1.1	3.4	1.1	1.1	11.4
居住経験	111	11	37	24	4	5	5	12	11	9	0	10	4	0	8	1	3	1	1	15
	100.0	9.9	33.3	21.6	3.6	4.5	4.5	10.8	9.9	8.1	0.0	9.0	3.6	0.0	7.2	0.9	2.7	0.9	0.9	13.5
満足度	232	24	102	56	6	5	7	30	16	23	1	10	9	2	7	3	7	0	1	17
	100.0	10.3	44.0	24.1	2.6	2.2	3.0	12.9	6.9	9.9	0.4	4.3	3.9	0.9	3.0	1.3	3.0	0.0	0.4	7.3
満足+やや満足	146	25	73	53	5	8	11	25	15	21	1	11	8	2	11	3	8	0	1	2
	100.0	17.1	50.0	36.3	3.4	5.5	7.5	17.1	10.3	14.4	0.7	7.5	5.5	1.4	7.5	2.1	5.5	0.0	0.7	1.4
普通+やや不満+不満	173	11	62	23	4	2	1	15	10	11	0	9	5	0	3	1	2	1	1	19
	100.0	6.4	35.8	13.3	2.3	1.2	0.6	8.7	5.8	6.4	0.0	5.2	2.9	0.0	1.7	0.6	1.2	0.6	0.6	11.0

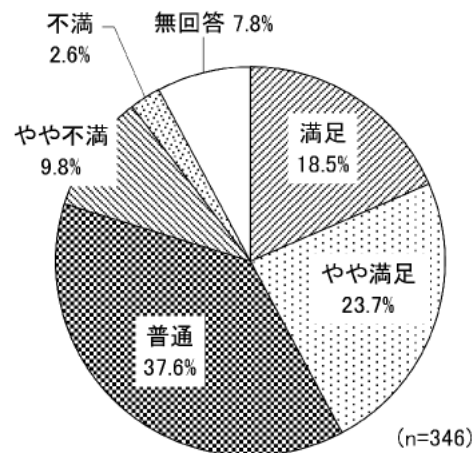
## (8) 姫路市に住んで満足しているか

姫路市に住んで満足しているかについては、「普通」が37.6%で最も多く、次いで「やや満足」が23.7%、「満足」が18.5%となっている。

男女年齢別にみると、男性20代の「満足」、男性30代の「やや満足」の割合が全体よりも5ポイント以上高くなっている。

一方、居住経験の有無と姫路市の満足度の間には強い関係性はみられない。

図表 I - 10 姫路市に住んで満足しているか



図表 I - 11 姫路市に住んで満足しているか (クロス集計)

		調査数	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
全体		346	64	82	130	34	9	27
		100.0	18.5	23.7	37.6	9.8	2.6	7.8
男性	20～29歳	50	13	10	21	3	0	3
		100.0	26.0	20.0	42.0	6.0	0.0	6.0
女性	20～29歳	74	13	12	33	6	1	9
		100.0	17.6	16.2	44.6	8.1	1.4	12.2
職業	正社員	159	26	47	57	14	5	10
		100.0	16.4	29.6	35.8	8.8	3.1	6.3
	非正社員	70	17	10	29	9	0	5
	100.0	24.3	14.3	41.4	12.9	0.0	7.1	
居住経験	ある	111	18	23	45	14	2	9
		100.0	16.2	20.7	40.5	12.6	1.8	8.1
居住経験	ない	232	44	59	84	20	7	18
		100.0	19.0	25.4	36.2	8.6	3.0	7.8

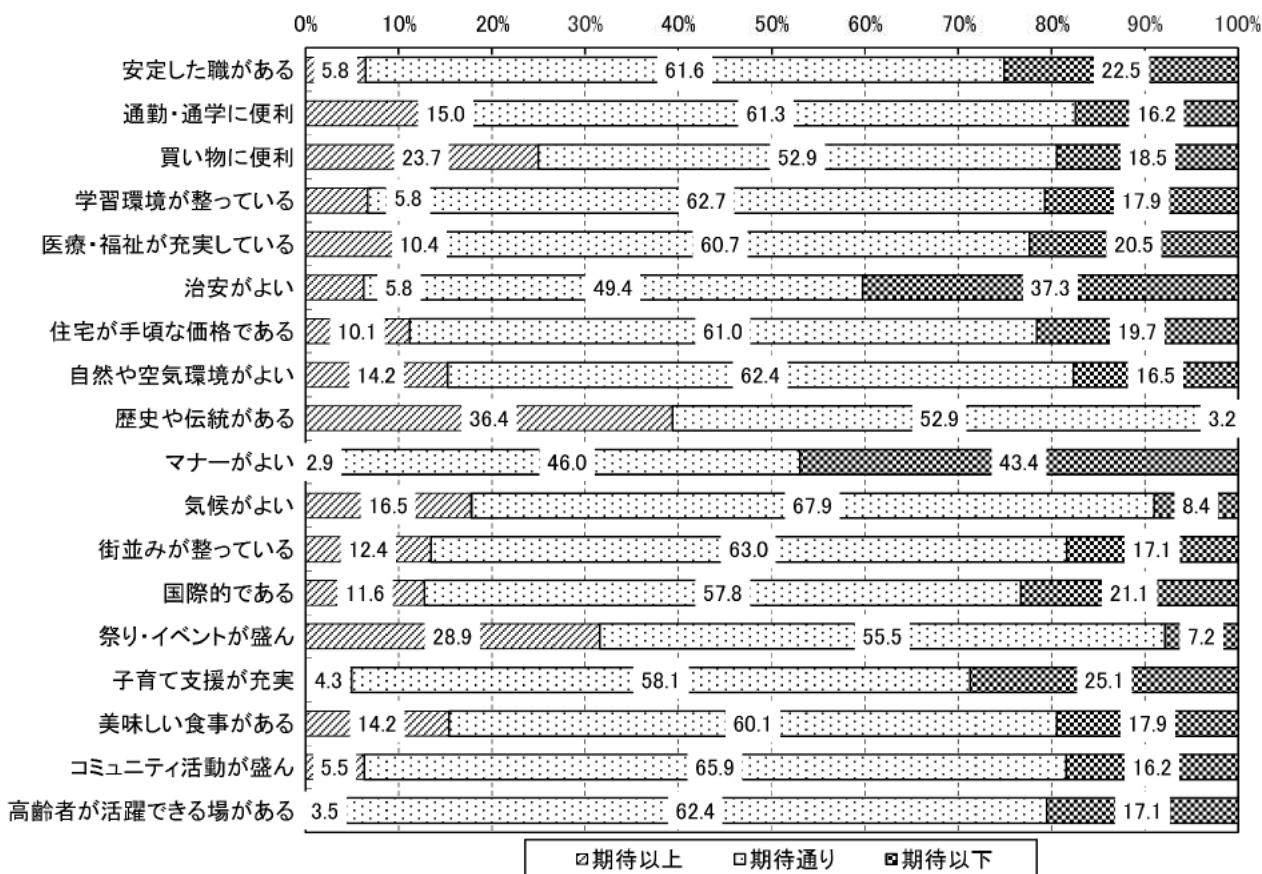


### (9) 姫路市で実際に暮らしてみてもの満足度

姫路市で実際に暮らしてみてもの満足度について期待以上であったのは、「歴史や伝統がある」が36.4%で最も多く、次いで「祭り・イベントが盛ん」が28.9%、「買い物に便利」が23.7%となっている。

一方、期待以下と答えた人が期待以上と答えた人を上回っている項目については、「マナーがよい」が43.4%と最も多く、次いで「治安がよい」の37.3%となっている。

図表 I - 12 姫路市で実際に暮らしてみてもの満足度



**(10) 姫路市での居留意向**

姫路市での居留意向は「今後も住み続けたい」が36.4%で最も多く、次いで「特に考えていない」が34.4%、「将来は引っ越す予定である」が27.7%となっている。

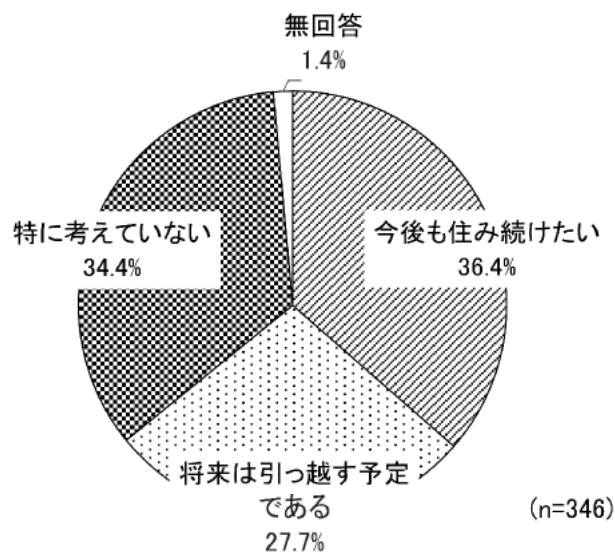
男女年齢別にみると、30代男性は「今後も住み続けたい」「将来は引っ越す予定である」と答える割合が全体より5ポイント以上高い。

職業別にみると、正社員は「将来は引っ越す予定である」と答える割合が全体よりも5ポイント以上高い。

満足度別にみると、姫路市に満足、やや満足と答えた層は「今後も住み続けたい」とする割合が普通、やや不満、不満と答えた層よりも30ポイント以上高い。

このことから、男性や正社員は転勤の可能性も意識しながら、満足度が高い層は住み続けたいと思っていることが伺える。

図表 I - 13 姫路市での居留意向



図表 I - 14 姫路市での居住意向

		調査数	今後も住み続けたい	将来は引っ越す予定である	特に考えていない	無回答
全体		346 100.0	126 36.4	96 27.7	119 34.4	5 1.4
男性	20～29歳	50 100.0	20 40.0	13 26.0	16 32.0	1 2.0
	30～39歳	89 100.0	41.6	36.0	21.3	1 1.1
女性	20～29歳	74 100.0	20 27.0	17 23.0	34 45.9	3 4.1
	30～39歳	117 100.0	45 38.5	27 23.1	45 38.5	0 0.0
職業	正社員	159 100.0	54 34.0	57 35.8	45 28.3	3 1.9
	非正社員	70 100.0	24 34.3	12 17.1	33 47.1	1 1.4
	その他	88 100.0	32 36.4	24 27.3	32 36.4	0 0.0
居住経験	ある	111 100.0	47 42.3	23 20.7	39 35.1	2 1.8
	ない	232 100.0	77 33.2	72 31.0	80 34.5	3 1.3
満足度	満足+やや満足	146 100.0	82 56.2	33 22.6	29 19.9	2 1.4
	普通+やや不満+不満	173 100.0	30 17.3	56 32.4	85 49.1	2 1.2

## (11) 将来は姫路市外へ引っ越したい理由

（「将来は引っ越す予定である」と回答した方のみ）

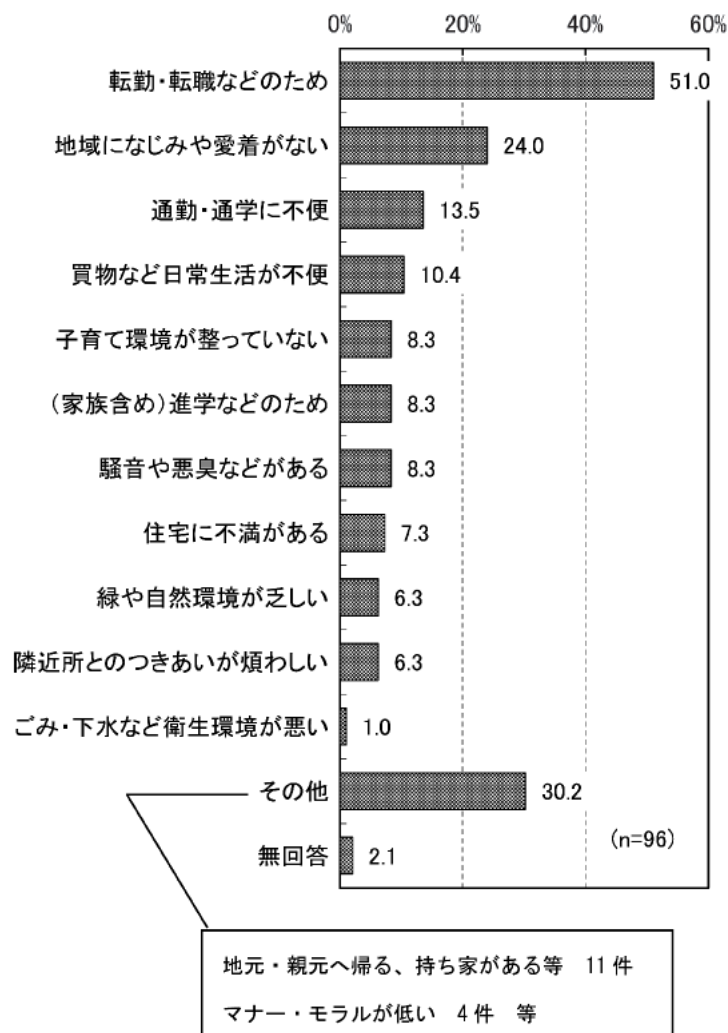
将来は姫路市外へ引っ越したい理由については、「転勤・転職などのため」が51.0%で最も多く、次いで「地域になじみや愛着がない」が24.0%、「通勤・通学に不便」が13.5%、となっている。

男女年齢別にみると、20代女性の「地域になじみや愛着がない」とする割合が全体よりも10ポイント以上高い。

満足度でみると、普通、やや不満、不満と答えた層の「地域になじみや愛着がない」と答えた割合が満足と答えた層より20ポイント以上高い。

これらのことから、地域になじみのない若い転入者層に地域との繋がりを作ることが、外への転出を予防する方策の1つになると考えられる。

図表 I - 15 将来は姫路市外へ引っ越したい理由（複数回答）



図表 I - 16 将来は姫路市外へ引っ越したい理由

	調査数	通勤・通学に不便	買物など日常生活が不便	転勤・転職のため	進学のため	地域になじみや愛着がない	騒音や悪臭などがある	住宅に不満がある	煩わしい	隣近所とのつきあいが	緑や自然環境が乏しい	境が悪い	ごみ・下水など衛生環境が悪い	子育て環境が整っていない	その他	無回答
全体	96 100.0	13 13.5	10 10.4	49 51.0	8 8.3	23 24.0	8 8.3	7 7.3	6 6.3	6 6.3	1 1.0	8 8.3	29 30.2	2 2.1		
男性	20～29歳	13 100.0	2 15.4	1 7.7	9 69.2	2 15.4	2 15.4	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	
	30～39歳	32 100.0	5 15.6	3 9.4	13 40.6	4 12.5	10 31.3	4 12.5	3 9.4	3 9.4	4 12.5	1 3.1	5 15.6	10 31.3	1 3.1	
女性	20～29歳	17 100.0	2 11.8	3 17.6	6 35.3	0 0.0	7 41.2	1 5.9	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	8 47.1	1 5.9	
	30～39歳	27 100.0	3 11.1	3 11.1	16 59.3	2 7.4	4 14.8	1 3.7	2 7.4	2 7.4	2 7.4	0 0.0	1 3.7	7 25.9	0 0.0	
職業	正社員	57 100.0	9 15.8	6 10.5	29 50.9	5 8.8	16 28.1	7 12.3	5 8.8	4 7.0	3 5.3	1 1.8	4 7.0	18 31.6	1 1.8	
	非正社員	12 100.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	0 0.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	3 25.0	0 0.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	
	その他	24 100.0	2 8.3	2 8.3	13 54.2	2 8.3	5 20.8	0 0.0	1 4.2	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 29.2	1 4.2	
居住経験	ある	23 100.0	4 17.4	3 13.0	9 39.1	3 13.0	5 21.7	3 13.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	0 0.0	3 13.0	7 30.4	1 4.3	
	ない	72 100.0	9 12.5	7 9.7	40 55.6	4 5.6	18 25.0	5 6.9	6 8.3	3 4.2	3 4.2	1 1.4	5 6.9	22 30.6	1 1.4	
満足度	満足+やや満足	33 100.0	2 6.1	0 0.0	19 57.6	3 9.1	2 6.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	2 6.1	0 0.0	2 6.1	9 27.3	2 6.1	
	普通+やや不満+不満	56 100.0	9 16.1	9 16.1	26 46.4	5 8.9	20 35.7	6 10.7	7 12.5	6 10.7	4 7.1	1 1.8	6 10.7	17 30.4	0 0.0	

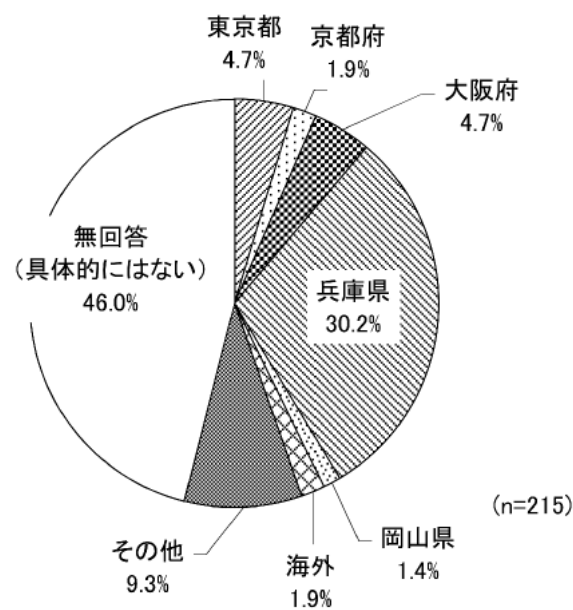


## (12) 希望する引っ越し先

(「将来は引っ越す予定である」、「特に考えていない」と回答した方のみ)

希望する引っ越し先については「無回答(具体的にはない)」が46.0%で最も多く、次いで「兵庫県」が30.2%、「東京都」「大阪府」が4.7%となっている。

図表 I-17 希望する引っ越し先



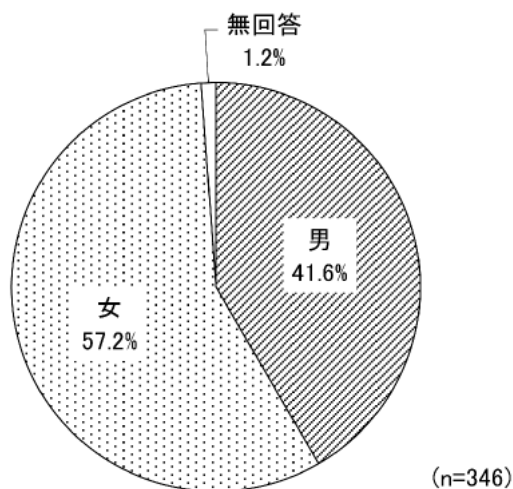
## 7. 回答者の属性

### (1) 世帯構成について

#### ① 性別

性別は「男性」が41.6%、「女性」が57.2%で、女性の方が多くなっている。

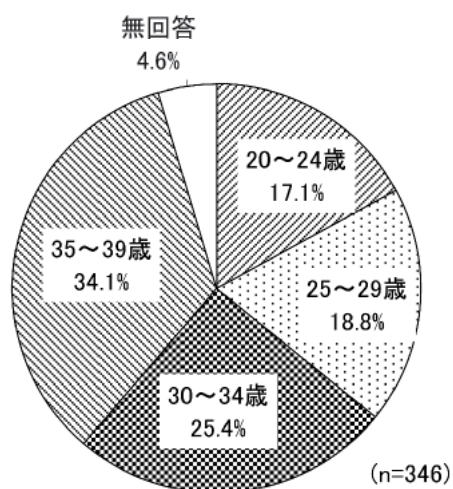
図表 I - 18 性別



#### ② 年齢

年齢構成は「35～39歳」が34.1%で最も多く、次いで「30～34歳」が25.4%、「25～29歳」が18.8%となっている。

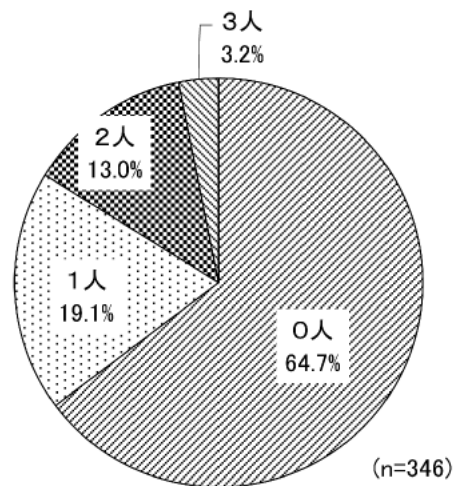
図表 I - 19 年齢



## ③ 子どもの人数

「0人」が64.7%で最も多く、次いで「1人」が19.1%、「2人」が13.0%となっている。

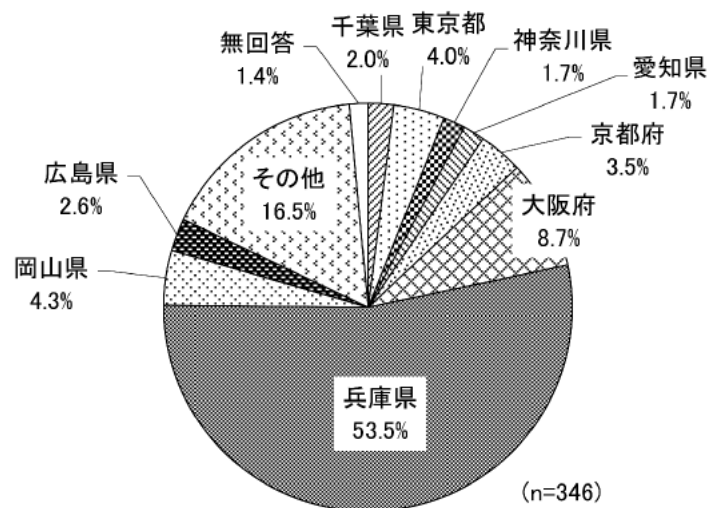
図表 I - 20 子どもの人数



## (2) 前住所地

前住所地は、「兵庫県」が53.5%で最も多く、次いで「大阪府」が8.7%、「岡山県」が4.3%となっている。

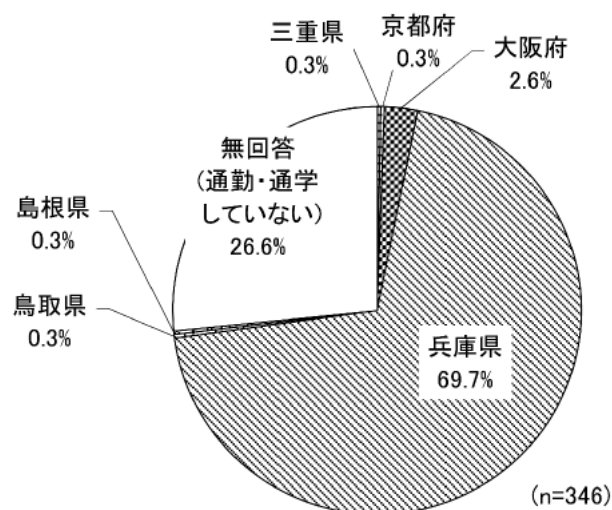
図表 I - 21 前住所地



### (3) 通勤先・通学先

通勤先・通学先は「兵庫県」が69.7%で最も多く、次いで「無回答（通勤・通学していない）」が26.6%、「大阪府」が2.6%となっている。

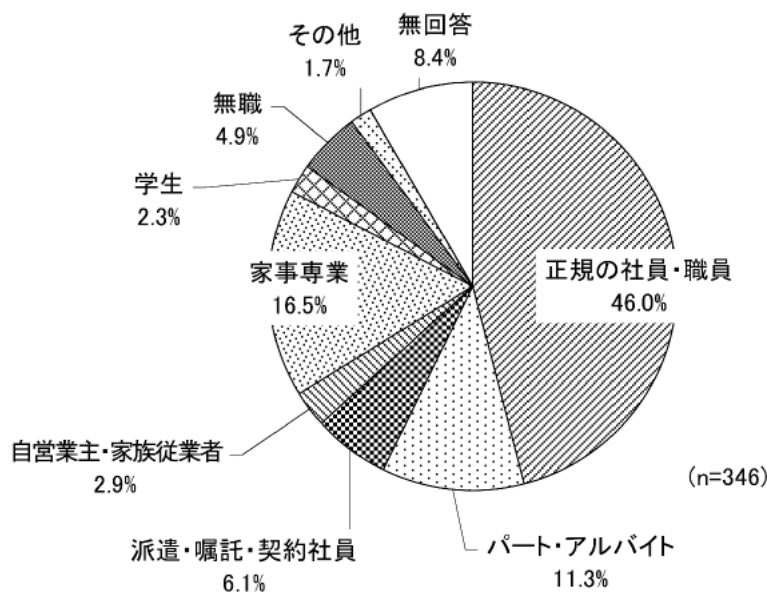
図表 I - 22 通勤先・通学先



### (4) 職業

職業は「正規の社員・職員」が46.0%で最も多く、次いで「家事専業」が16.5%、「パート・アルバイト」が11.3%となっている。

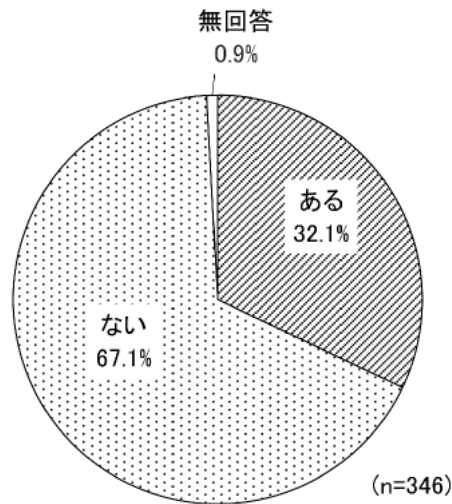
図表 I - 23 職業



### (5) 転入前の姫路市での居住経験

「ある」が32.1%、「ない」が67.1%で、姫路市での居住経験のない方が多くなっている。

図表 I - 24 転入前の姫路市での居住経験

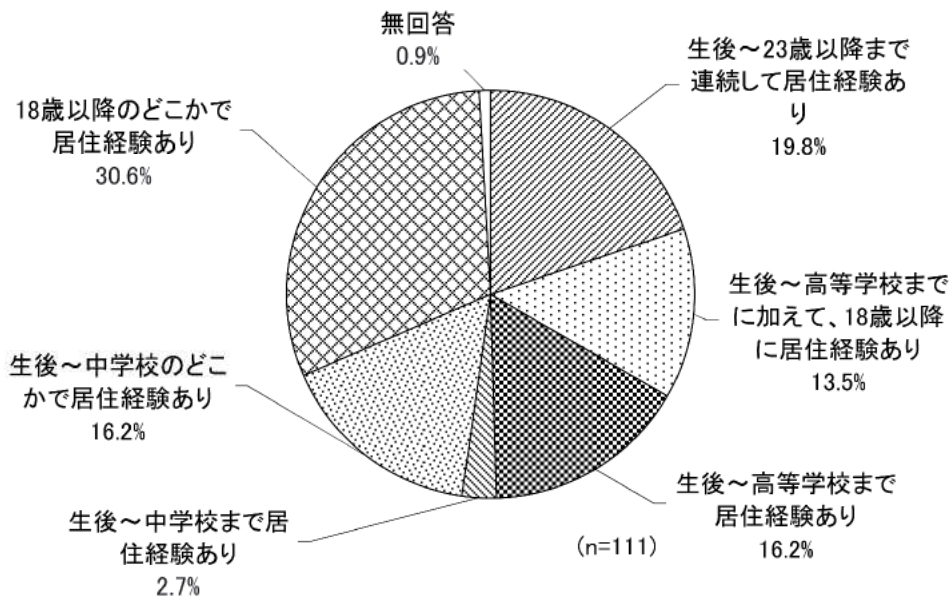


### (6) 居住時期

(「ある」と回答した方のみ)

「18歳以降のどこかで居住経験あり」が30.6%で最も多く、次いで「生後～23歳以降まで連続して居住経験あり」が19.8%、「生後～高等学校まで居住経験あり」「生後～中学校のどこかで居住経験あり」が16.2%となっている。

図表 I - 25 居住時期



## Ⅱ 転出に関するアンケート調査

### 1. 調査の目的)

姫路市から転出した方の考えを把握し、今後の市内からの転出を抑制するための方策を検討する際の資料とするため、アンケート調査を実施した。

### 2. 調査対象

調査対象は、過去2年以内に姫路市から転出した20歳～39歳の男女1,500人とした。

### 3. 調査方法

郵送による。

### 4. 調査時期

平成27年6月26日（金）～7月10日（金）

### 5. 回収率

発送数	回収数	回収率
1,500	304	20.3%

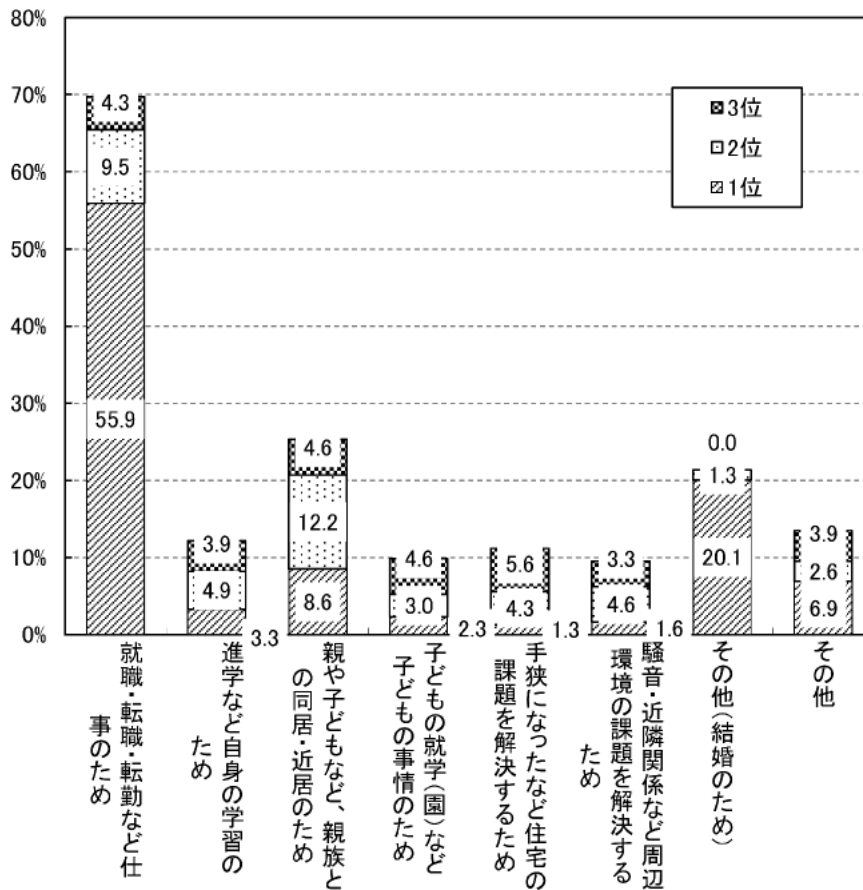


## 6. 現居住地域への転居の理由・背景について

## (1) 引っ越しの理由

引っ越すことになった優先度の高い理由については、「就職・転職・転勤など仕事のため」が55.9%で最も多く、次いで「その他（結婚のため）」が20.1%、「親や子どもなど、親族との同居・近居のため」が8.6%となっている。

図表Ⅱ-1 引っ越しの理由



## (2) 転居を検討した際、現居住地以外でも探したか

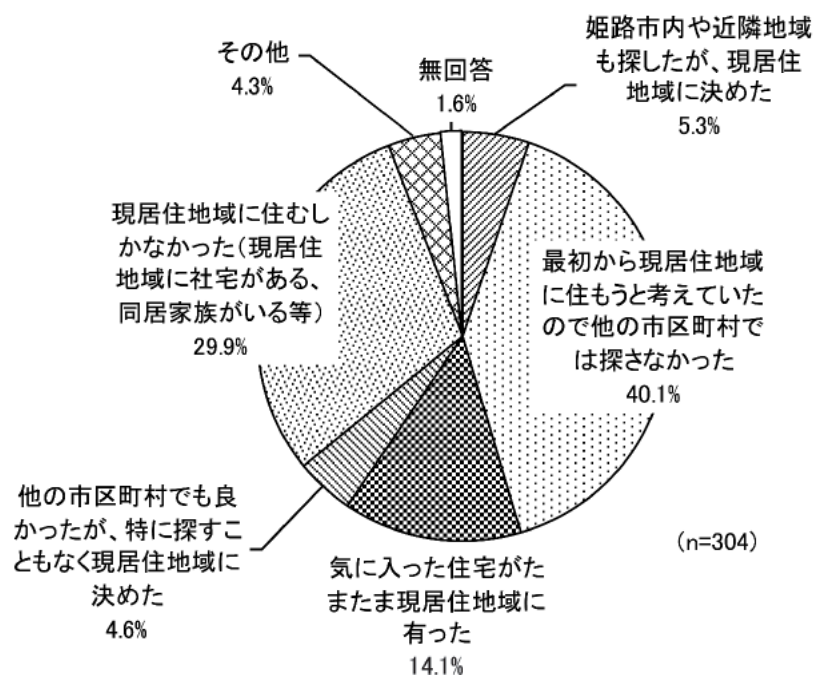
「最初から現居住地に住もうと考えていたので他の市区町村では探さなかった」が40.1%で最も多く、次いで「現居住地に住むしかなかった（現居住地に社宅ある、同居家族がいる等）」が29.9%、「気に入った住宅がたまたま現居住地に有った」が14.1%となっている。

職業別にみるとその他（家事専業、学生等）の「現居住地に住むしかなかった」の割合が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

姫路への満足度でみると、満足、やや満足と答えた人の「現居住地に住むしかなかった」の割合が全体より5ポイント以上高くなっている。

このことから、配偶者の転居などにより、姫路市に満足しているにもかかわらず転居せざるを得ない人が一定数いることが推察される。

図表Ⅱ-2 現居住地以外の地域の検討



図表Ⅱ-3 現居住地域以外の地域の検討（クロス集計）

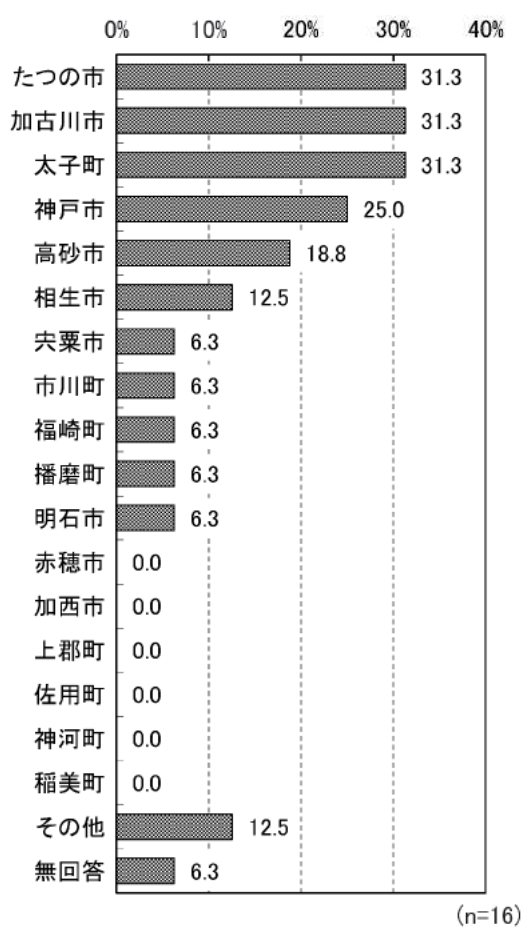
	調査数	たが、 姫路市 内や近 隣地域 も探し たが、 現居住 地域に 決めた	区町 村では 探さな かった	最初 から現 居住地 域に住 むのも	現居 住地域 に有つ た	気に入 つた住 宅がた またま	居住 地域に 決めた	他の市 区町村 でも良 かつた	かつた 現居住 地域に 住むし かな	その他	無 回 答
全 体	304 100.0	16 5.3	122 40.1	43 14.1	14 4.6	91 29.9	13 4.3	5 1.6			
男 性	20～29歳	41 100.0	2 4.9	17 41.5	4 9.8	2 4.9	12 29.3	2 4.9	2 4.9		
	30～39歳	57 100.0	5 8.8	21 36.8	8 14.0	4 7.0	15 26.3	4 7.0	0 0.0		
女 性	20～29歳	73 100.0	3 4.1	27 37.0	12 16.4	3 4.1	23 31.5	3 4.1	2 2.7		
	30～39歳	114 100.0	4 3.5	49 43.0	18 15.8	3 2.6	37 32.5	3 2.6	0 0.0		
職 業	正社員	151 100.0	10 6.6	58 38.4	22 14.6	10 6.6	40 26.5	10 6.6	1 0.7		
	非正社員	56 100.0	4 7.1	25 44.6	8 14.3	3 5.4	14 25.0	1 1.8	1 1.8		
	その他	80 100.0	1 1.3	32 40.0	11 13.8	1 1.3	33 41.3	0 0.0	2 2.5		
満 足 度	満足+やや満足	195 100.0	4 2.1	69 35.4	28 14.4	9 4.6	74 37.9	9 4.6	2 1.0		
	普通+やや不満+不満	108 100.0	12 11.1	53 49.1	15 13.9	5 4.6	16 14.8	4 3.7	3 2.8		

### (3) 姫路市以外で比較した地域

(「姫路市内や近隣地域も探したが、現居住地に決めた」と回答した方のみ)

姫路市以外に比較した地域については「たつの市」、「加古川市」、「太子町」が31.3%で最も多く、次いで「神戸市」が25.0%となっている。

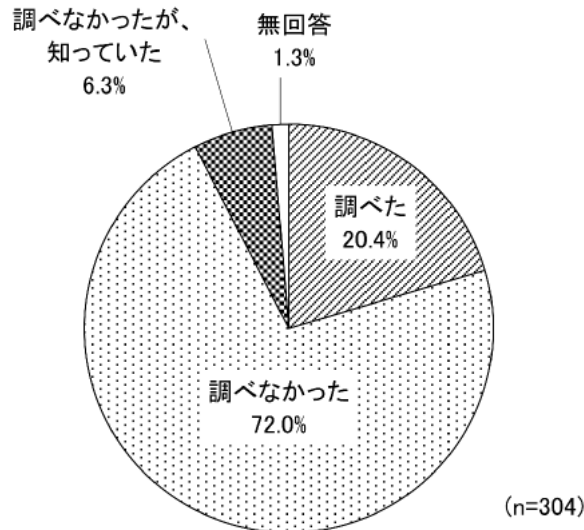
図表Ⅱ-4 姫路市以外に比較した地域（複数回答）



#### (4) 転居先を検討する際、行政サービス・制度について調べたか

転居先を検討する際、現居住地や他市区町村の行政サービス・制度については、「調べなかった」が72.0%で最も多く、次いで「調べた」が20.4%、「調べなかったが、知っていた」が6.3%となっている。

図表Ⅱ-5 行政サービス・制度について

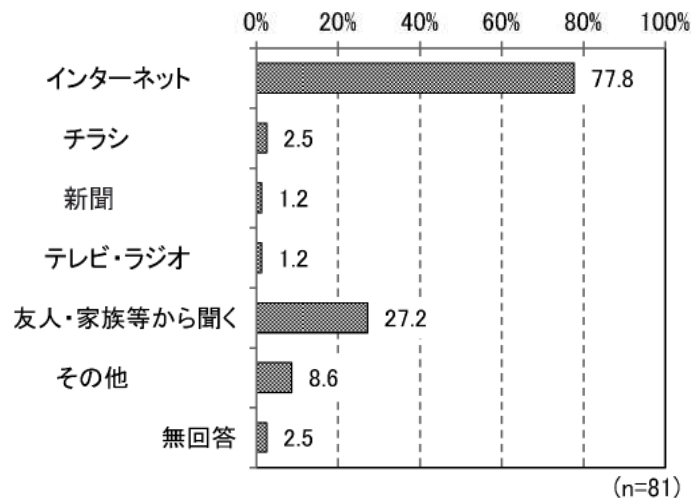


#### (5) 行政サービス・制度を何で調べたか (知ったか)

(「調べた」、「調べなかったが、知っていた」と回答した方のみ)

行政サービス・制度の調べ方については、「インターネット」が77.8%で最も多く、次いで「友人・家族等から聞く」が27.2%、「その他」が8.6%となっている。

図表Ⅱ-6 行政サービス・制度の調べ方

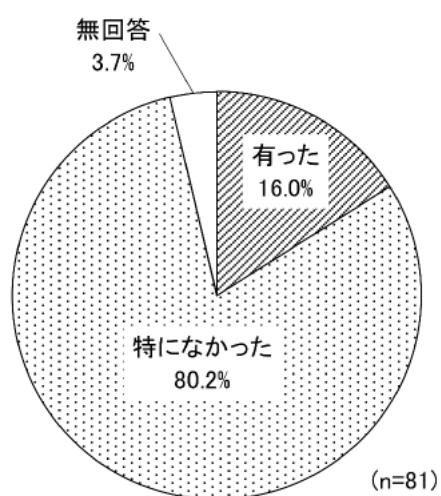


(6) 現居住地への転居の理由になった行政サービス・制度の有無

(「調べた」、「調べなかったが、知っていた」と回答した方のみ)

転居の理由になったサービス・制度については、「有った」が16.0%、「特になかった」が80.2%で、特になかった方が多くなっている。

図表Ⅱ-7 転居の理由になった行政サービス・制度の有無





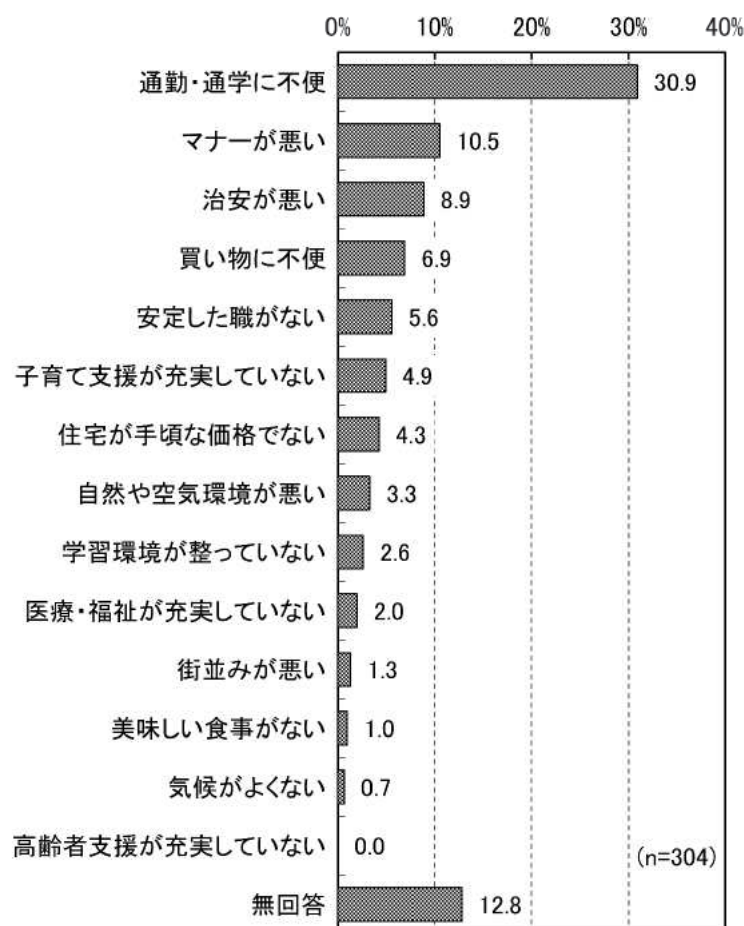
### (7) 転出を決めた理由

姫路市からの転出を決めた理由については、「通勤・通学に不便」が30.9%で最も多く、次いで「マナーが悪い」が10.5%、「治安が悪い」が8.9%となっている。

男女年齢別にみると、20代男女において、「通勤通学に不便」が全体よりも5ポイント以上高くなっているが、転勤等に伴う移動により、通勤通学圏が変わったことによるものが含まれると推察される。

姫路市への満足度別にみると、普通、やや不満、不満と答えた層において「マナーが悪い」が全体よりも10ポイント以上高くなっており、マナーの悪さが姫路市への不満に繋がり、転出の理由のひとつになっていることが推察される。

図表Ⅱ-8 姫路市からの転出を決めた理由（複数回答）



図表Ⅱ-9 姫路市からの転出を決めた理由（クロス集計）

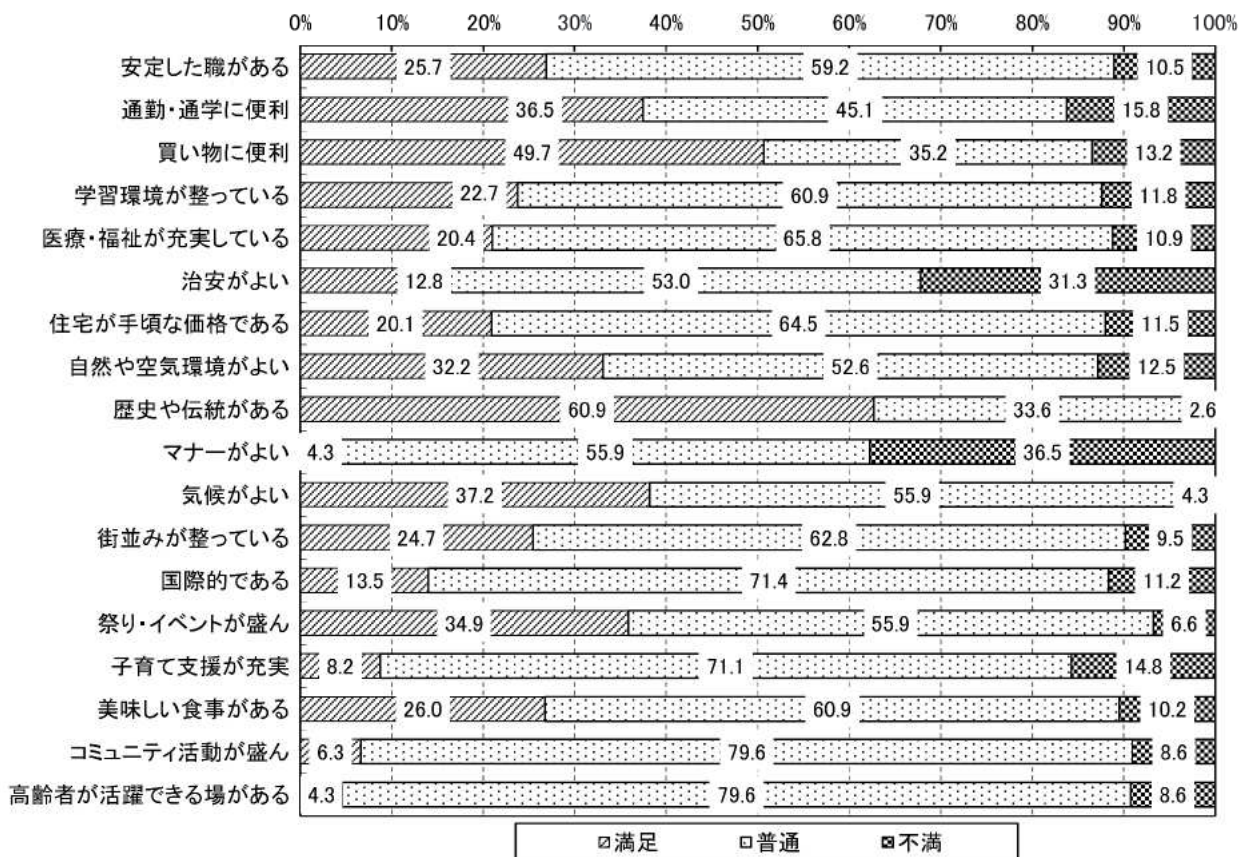
		調査数	安定した職がない	通勤・通学に不便	買い物に不便	学習環境が整っていない	医療・福祉が充実していない	治安が悪い	住宅が手頃な価格でない	自然や空気環境が悪い	マナーが悪い	気候がよくない	街並みが悪い	子育て支援が充実していない	高齢者支援が充実していない	美味しい食事が無い	無回答
全体		304	17	94	21	8	6	26	13	10	31	2	4	15	0	3	40
		100.0	5.6	30.9	6.9	2.6	2.0	8.6	4.3	3.3	10.2	0.7	1.3	4.9	0.0	1.0	13.2
男性	20～29歳	41	5	18	1	2	0	6	2	2	5	0	1	0	0	0	2
		100.0	12.2	43.9	2.4	4.9	0.0	14.6	4.9	4.9	12.2	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	4.9
女性	20～29歳	73	1	27	6	0	2	3	2	2	4	0	0	4	0	0	10
		100.0	1.4	37.0	8.2	0.0	2.7	4.1	2.7	2.7	5.5	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0	13.7
職業	正社員	151	9	57	9	5	1	14	7	3	13	0	3	4	0	1	16
		100.0	6.0	37.7	6.0	3.3	0.7	9.3	4.6	2.0	8.6	0.0	2.0	2.6	0.0	0.7	10.6
	非正社員	56	5	18	5	2	2	7	2	6	10	0	1	5	0	2	7
	100.0	8.9	32.1	8.9	3.6	3.6	12.5	3.6	10.7	17.9	0.0	1.8	8.9	0.0	3.6	12.5	
	その他	80	3	14	6	1	2	5	3	0	7	1	0	6	0	0	14
		100.0	3.8	17.5	7.5	1.3	2.5	6.3	3.8	0.0	8.8	1.3	0.0	7.5	0.0	0.0	17.5
満足度	満足+やや満足	195	6	61	7	3	2	12	6	3	9	1	1	4	0	0	27
		100.0	3.1	31.3	3.6	1.5	1.0	6.2	3.1	1.5	4.6	0.5	0.5	2.1	0.0	0.0	13.8
	普通+やや不満+不満	108	11	33	14	5	4	14	7	7	22	1	3	11	0	3	13
		100.0	10.2	30.6	13.0	4.6	3.7	13.0	6.5	6.5	20.4	0.9	2.8	10.2	0.0	2.8	12.0

## (8) 姫路市に居住していた時の満足度

姫路市から転出した人が姫路市に居住していたときに満足していた点は、「歴史や伝統がある」が60.9%と最も多く、ついで「買い物に便利」が49.7%、「気候がよい」が37.2%、「通勤・通学に便利」が36.5%、「祭り・イベントが盛ん」が34.9%となっている。

一方、不満と答えた人が満足と答えた人を上回っている項目については、「マナーがよい」が36.5%と最も多く、次いで「治安がよい」の31.3%となっている。

図表Ⅱ-10 姫路市に居住していた時の満足度

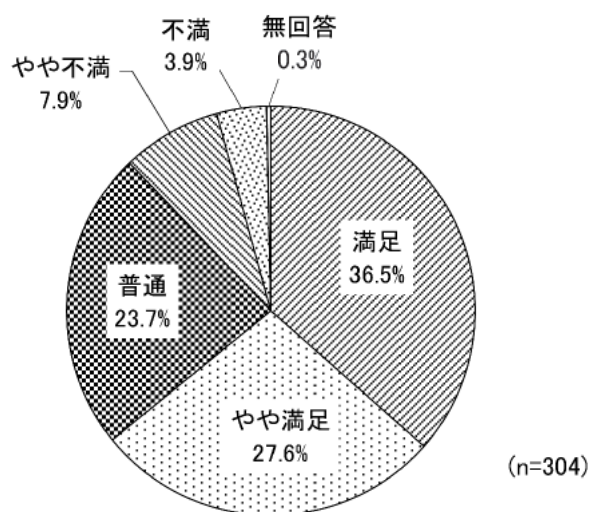


(9) 姫路市に居住していた時、満足していたか

「満足」が36.5%で最も多く、次いで「やや満足」が27.6%、「普通」が23.7%となっている。

男女年齢別にみると、20代男性の「満足」の割合が全体よりも25ポイント近く高くなっている。職業別にみると正社員の「満足」の割合が全体よりも5ポイント以上高くなっている。

図表Ⅱ-11 姫路市に居住していた時、満足していたか



図表Ⅱ-12 姫路市に居住していた時、満足していたか（クロス集計）

		調査数	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
全体		304	111	84	72	24	12	1
		100.0	36.5	27.6	23.7	7.9	3.9	0.3
男性	20～29歳	41	25	4	8	3	1	0
		100.0	61.0	9.8	19.5	7.3	2.4	0.0
女性	30～39歳	57	18	12	19	4	4	0
		100.0	31.6	21.1	33.3	7.0	7.0	0.0
女性	20～29歳	73	28	25	14	4	1	1
		100.0	38.4	34.2	19.2	5.5	1.4	1.4
女性	30～39歳	114	35	38	27	10	4	0
		100.0	30.7	33.3	23.7	8.8	3.5	0.0
職業	正社員	151	65	38	32	11	5	0
		100.0	43.0	25.2	21.2	7.3	3.3	0.0
	非正社員	56	14	18	13	6	5	0
	100.0	25.0	32.1	23.2	10.7	8.9	0.0	
	その他	80	27	26	22	3	1	1
		100.0	33.8	32.5	27.5	3.8	1.3	1.3

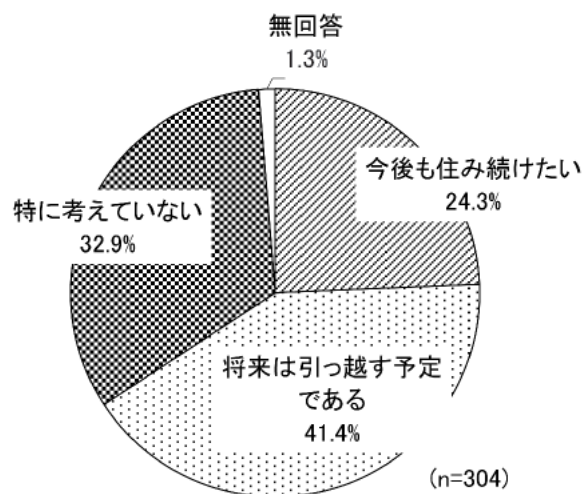


## (10) 現居住地での居住意向

現居住地での居住意向については、「将来は引っ越す予定である」が41.4%で最も多く、次いで「特に考えていない」が32.9%、「今後も住み続けたい」が24.3%となっている。

男女年齢別にみると、30代男性は「将来は引っ越す予定である」という人の割合が全体よりも10ポイント以上高くなっており、転勤等が再びある職業に就いていることが推察される。

図表 II - 13 現居住地での居住意向



図表 II - 14 現居住地での居住意向

		調査数	住みたい	定将来は引っ越す予定	特に考えていない	無回答
全体		304	74	126	100	4
		100.0	24.3	41.4	32.9	1.3
男性	20～29歳	41	10	17	14	0
		100.0	24.4	41.5	34.1	0.0
女性	30～39歳	57	14	31	12	0
		100.0	24.6	54.4	21.1	0.0
女性	20～29歳	73	9	29	33	2
		100.0	12.3	39.7	45.2	2.7
職業	30～39歳	114	37	42	34	1
		100.0	32.5	36.8	29.8	0.9
職業	正社員	151	31	68	50	2
		100.0	20.5	45.0	33.1	1.3
	非正社員	56	21	18	16	1
	100.0	37.5	32.1	28.6	1.8	
その他		80	19	34	26	1
		100.0	23.8	42.5	32.5	1.3
満足度	満足+やや満足	195	37	82	75	1
		100.0	19.0	42.1	38.5	0.5
普通+やや不満+不満		108	37	44	25	2
		100.0	34.3	40.7	23.1	1.9

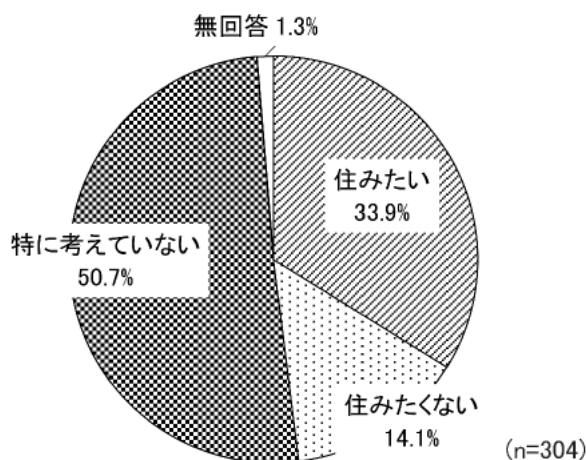
**(11) 将来、姫路市での居留意向**

将来、姫路市での居留意向については「特に考えていない」が50.7%で最も多く、次いで「住みたい」が33.9%、「住みたくない」が14.1%となっている。

男女年齢別にみると、30代男性の「特に考えていない」の割合が全体よりも10ポイント近く高くなっている。

満足度別にみると満足、やや満足と答えた人が「(将来姫路に)住みたい」と答える割合が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

**図表Ⅱ-15 将来、姫路市での居留意向**



**図表Ⅱ-16 将来、姫路市での居留意向（クロス集計）**

		調査数	住みたい	住みたくない	特に考えていない	無回答
全体		304	103	43	154	4
		100.0	33.9	14.1	50.7	1.3
男性	20～29歳	41	15	6	20	0
		100.0	36.6	14.6	48.8	0.0
女性	30～39歳	57	13	9	34	1
		100.0	22.8	15.8	59.6	1.8
女性	20～29歳	73	28	10	33	2
		100.0	38.4	13.7	45.2	2.7
女性	30～39歳	114	43	17	53	1
		100.0	37.7	14.9	46.5	0.9
職業	正社員	151	57	13	79	2
		100.0	37.7	8.6	52.3	1.3
	非正社員	56	13	18	25	0
	100.0	23.2	32.1	44.6	0.0	
	その他	80	30	10	38	2
	100.0	37.5	12.5	47.5	2.5	
満足度	満足+やや満足	195	90	10	93	2
		100.0	46.2	5.1	47.7	1.0
	普通+やや不満+不満	108	13	33	61	1
	100.0	12.0	30.6	56.5	0.9	



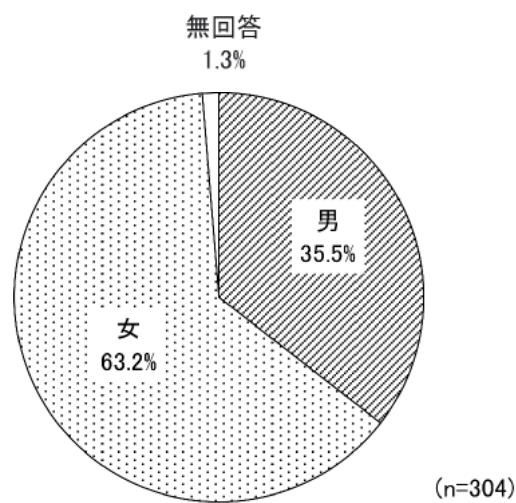
## 7. 回答者の属性

### (1) 世帯構成について

#### ① 性別

性別は「男性」が35.5%、「女性」が63.2%で、女性の方が多くなっている。

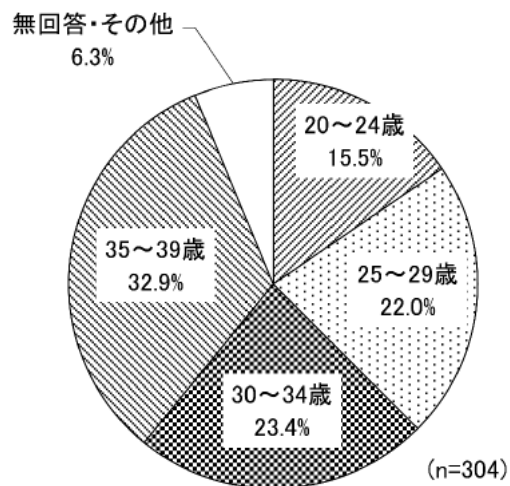
図表Ⅱ-17 性別



#### ② 年齢

年齢構成は「35～39歳」が32.9%で最も多く、次いで「30～34歳」が23.4%、「25～29歳」が22.0%となっている。

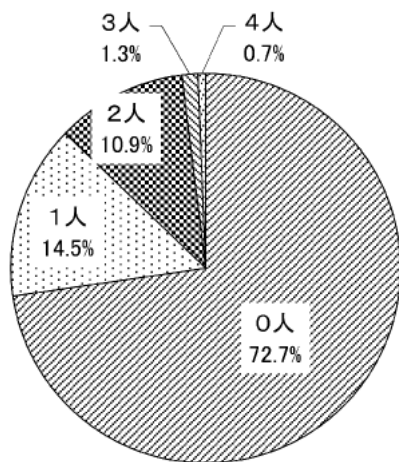
図表Ⅱ-18 年齢



### ③ 子どもの人数

「0人」が72.7%で最も多く、次いで「1人」が14.5%、「2人」が10.9%となっている。

図表Ⅱ-19 子どもの人数

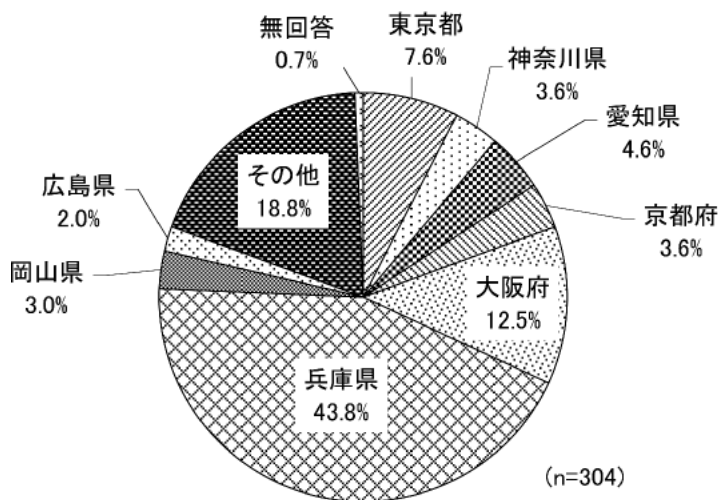


(n=304)

### (2) 現住所地

現住所地は、「兵庫県」が43.8%で最も多く、次いで「大阪府」が12.5%、「東京都」が7.6%となっている。

図表Ⅱ-20 現住所地



(n=304)

### (3) 姫路市での居住年数

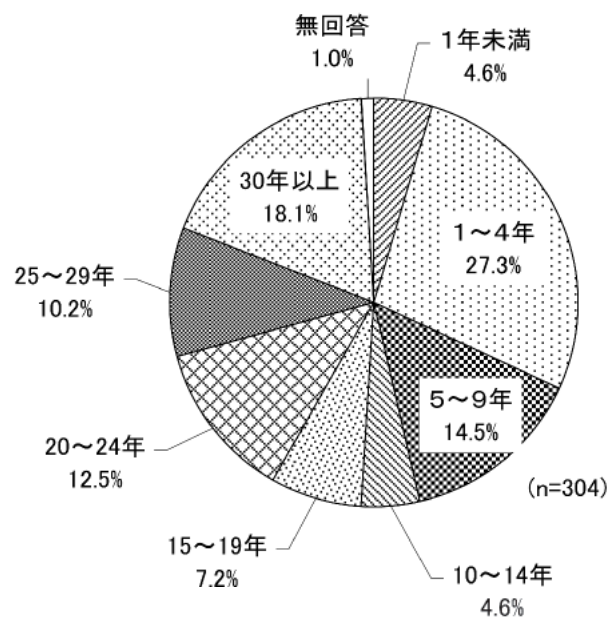
「1～4年」が27.3%で最も多く、次いで「30年以上」が18.1%、「5～9年」が14.5%となっている。

男女年齢別にみると、30代男性は「5～9年」の割合が全体よりも10ポイント以上多く、女性の20代、30代は20年以上住んでいた人の割合が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

このことから、30代男性は転勤等の理由で相対的に短い期間しか姫路におらず、女性は姫路に長く留まっている傾向が見て取れる。

姫路市居住時の満足度別にみると、比較的短い期間、特に「1～4年」においては普通、やや不満、不満と答えた人の割合が全体よりも5ポイント以上高くなっている一方で、15年以上居住している人たちの満足、やや満足と答えた人の割合は、普通、やや不満、不満と答えた人たちの割合を上回る。

図表Ⅱ-21 姫路市での居住年数

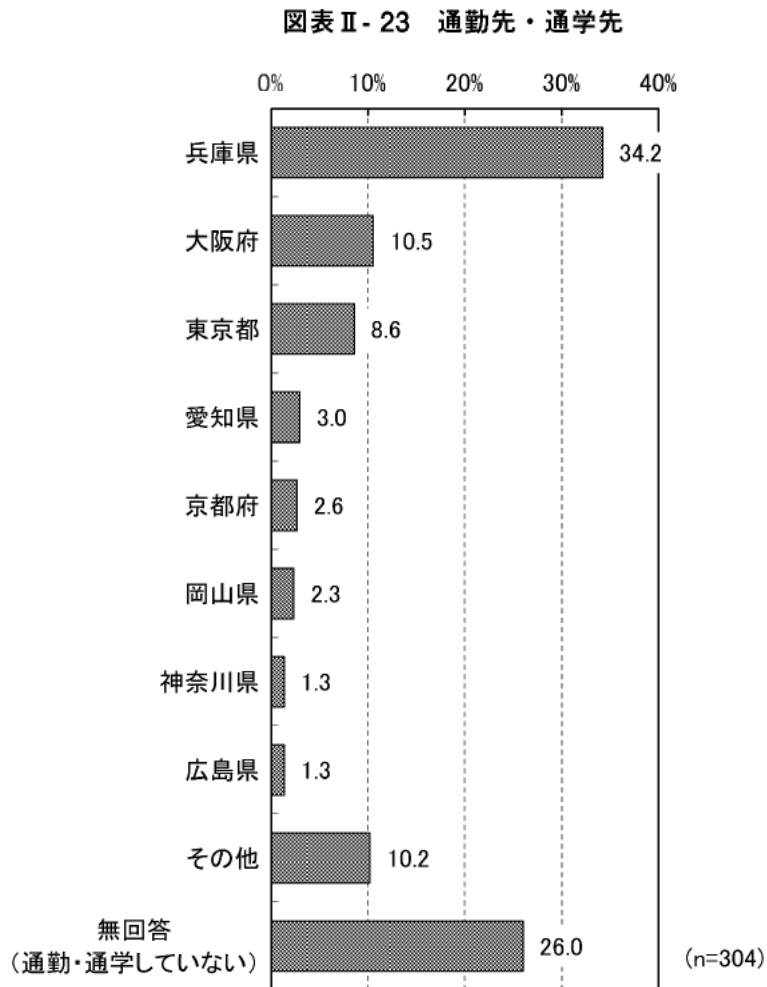


図表Ⅱ-22 姫路市での居住年数（クロス集計）

		調査数	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30年以上	無回答
全体		304 100.0	14 4.6	83 27.3	44 14.5	14 4.6	22 7.2	38 12.5	31 10.2	55 18.1	3 1.0
男性	20～29歳	41 100.0	2 4.9	10 24.4	4 9.8	2 4.9	7 17.1	11 26.8	5 12.2	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	57 100.0	4 7.0	19 33.3	18 31.6	4 7.0	0 0.0	1 1.8	1 1.8	10 17.5	0 0.0
女性	20～29歳	73 100.0	2 2.7	14 19.2	8 11.0	2 2.7	10 13.7	21 28.8	16 21.9	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	114 100.0	5 4.4	35 30.7	9 7.9	6 5.3	4 3.5	3 2.6	8 7.0	43 37.7	1 0.9
職業	正社員	151 100.0	6 4.0	41 27.2	22 14.6	8 5.3	11 7.3	20 13.2	19 12.6	23 15.2	1 0.7
	非正社員	56 100.0	1 1.8	16 28.6	9 16.1	3 5.4	4 7.1	6 10.7	5 8.9	11 19.6	1 1.8
	その他	80 100.0	6 7.5	22 27.5	11 13.8	2 2.5	6 7.5	6 7.5	7 8.8	20 25.0	0 0.0
満足度	満足+やや満足	195 100.0	5 2.6	45 23.1	27 13.8	9 4.6	18 9.2	30 15.4	23 11.8	36 18.5	2 1.0
	普通+やや不満+不満	108 100.0	8 7.4	38 35.2	17 15.7	5 4.6	4 3.7	8 7.4	8 7.4	19 17.6	1 0.9

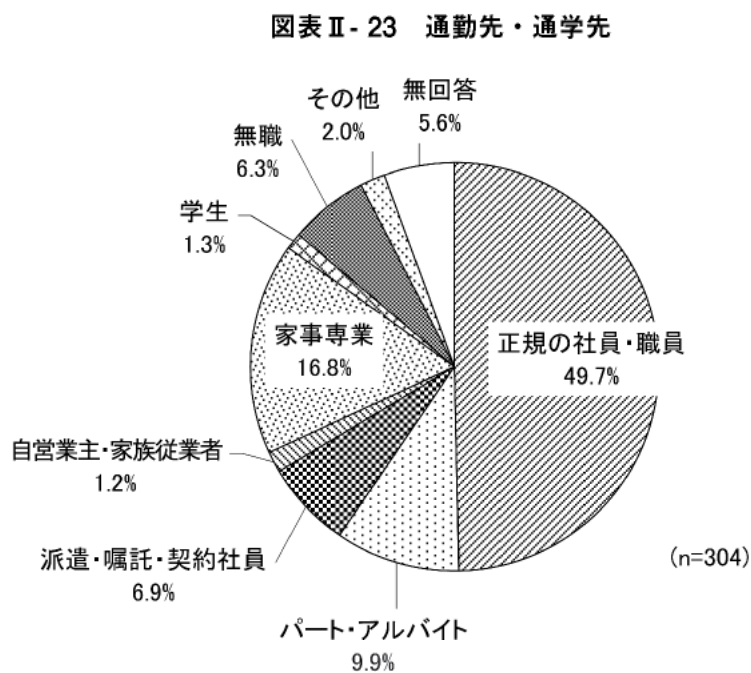
#### (4) 通勤先・通学先

通勤先・通学先は「兵庫県」が34.2%で最も多く、次いで「無回答（通勤・通学していない）」が26.0%、「大阪府」が10.5%となっている。



### (5) 職業

職業は「正規の社員・職員」が49.7%で最も多く、次いで「家事専業」が16.8%、「パート・アルバイト」が9.9%となっている。





### Ⅲ 結婚・出産・子育てに関するアンケート調査

#### 1. 調査の目的

姫路市民の結婚・出産・子育てについての考えを把握し、今後の方策を検討する際の資料とするため、アンケート調査を実施した。

#### 2. 調査対象

調査対象は、姫路市に居住する20歳～39歳の男女2,000人とした。

#### 3. 調査方法

郵送による。

#### 4. 調査時期

平成27年6月26日（金）～7月10日（金）

#### 5. 回収率

発送数	回収数	回収率
2,000	484	24.2%

## 6. 結婚の状況や考え方について

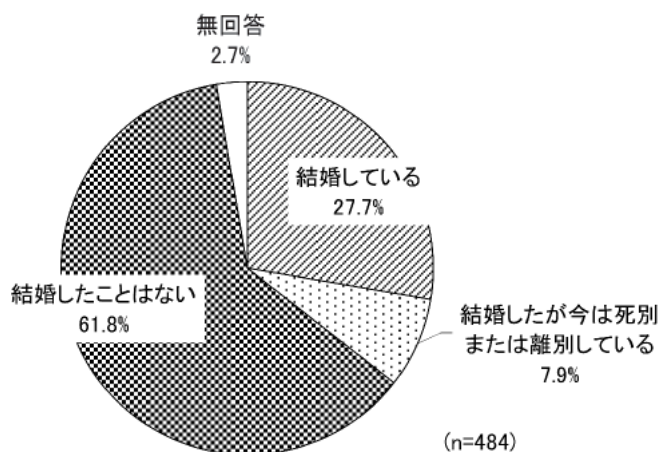
### (1) 結婚（事実婚を含む）しているか

#### ① 結婚（事実婚を含む）の有無

「結婚したことはない」が61.8%で最も多く、次いで「結婚している」が27.7%、「結婚したが今は死別または離別している」が7.9%となっている。

男女年齢別にみると、20代男女の「結婚したことはない」は30代男女よりも25ポイント以上高くなっている。

図表Ⅲ-1 結婚（事実婚を含む）の有無

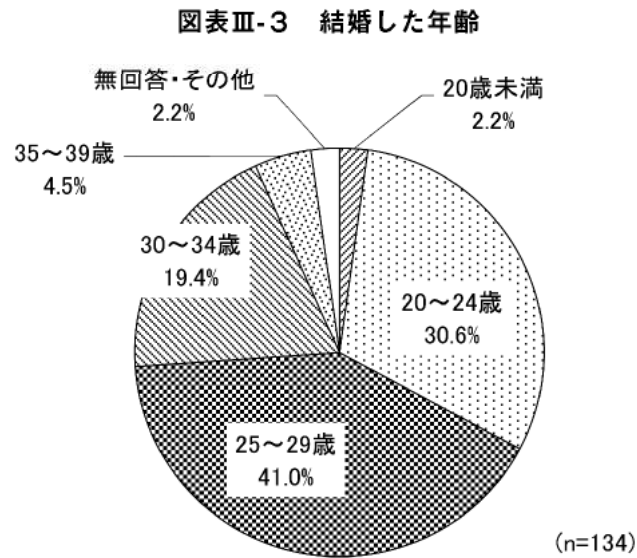


図表Ⅲ-2 結婚（事実婚を含む）の有無（クロス集計）

		調査数	結婚している	結婚したが今は死別または離別している	結婚したことはない	無回答
全体		484	134	38	299	13
		100.0	27.7	7.9	61.8	2.7
男性	20～29歳	85	3	1	81	0
		100.0	3.5	1.2	95.3	0.0
女性	20～29歳	119	8	6	102	3
		100.0	6.7	5.0	85.7	2.5
職業	学生	43	0	0	43	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	正社員	227	46	15	161	5
	100.0	20.3	6.6	70.9	2.2	
	それ以外の非正社員	28	2	4	21	1
		100.0	7.1	14.3	75.0	3.6

## ② 結婚した年齢（「結婚している」と回答した方のみ）

「25～29歳」が41.0%で最も多く、次いで「20～24歳」が30.6%、「30～34歳」が19.4%となっている。



## (2) 将来の結婚意向・希望結婚年齢

### ① 将来の結婚意向（「結婚したことはない」と回答した方のみ）

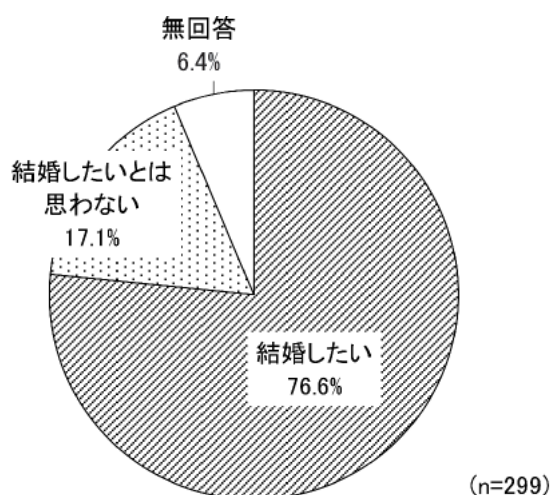
「結婚したい」が76.6%、「結婚したいとは思わない」が17.1%で、将来結婚したい方が多くなっている。

男女年齢別にみると30代男性の「結婚したいとは思わない」が全体よりも10ポイント以上高くなっている。一方、女性は「結婚したい」が全体よりも5ポイント以上高い。

年収別にみると、「100万円未満」では「結婚したいとは思わない」が5ポイント以上高い。

これらのことから、男女間で結婚意向に不一致がみられることが婚姻率の低さに繋がっていることが伺える。また、収入が不安定なことも一因になっているものと推察される。

図表Ⅲ-4 将来の結婚意向

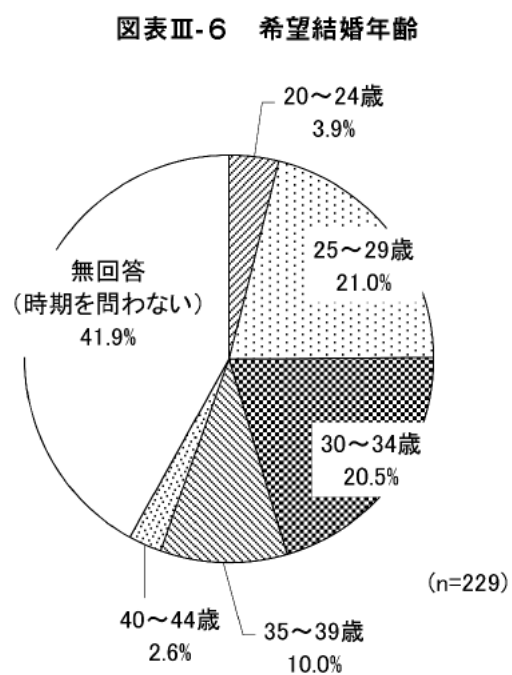


図表Ⅲ-5 将来の結婚意向（クロス集計）

		調査数	結婚したい	結婚したくない	無回答
全体		299	229	51	19
		100.0	76.6	17.1	6.4
男性	20～29歳	81	53	19	9
		100.0	65.4	23.5	11.1
女性	30～39歳	58	39	17	2
		100.0	67.2	29.3	3.4
職業	20～29歳	102	88	8	6
		100.0	86.3	7.8	5.9
学生	30～39歳	54	46	6	2
		100.0	85.2	11.1	3.7
職業	学生	43	37	4	2
		100.0	86.0	9.3	4.7
	正社員	161	125	26	10
	100.0	77.6	16.1	6.2	
	それ以外の非正社員	21	17	2	2
		100.0	81.0	9.5	9.5
年収	100万円未満	86	63	19	4
		100.0	73.3	22.1	4.7
	100万円～300万円未満	124	98	20	6
	100.0	79.0	16.1	4.8	
	300万円以上	85	66	11	8
		100.0	77.6	12.9	9.4

## ② 希望結婚年齢

「無回答（時期を問わない）」が41.9%で最も多く、次いで「25～29歳」が21.0%、「30～34歳」が20.5%となっている。





### (3) 将来結婚する上で、現在不安に感じていること

#### (「結婚したい」と回答した方のみ)

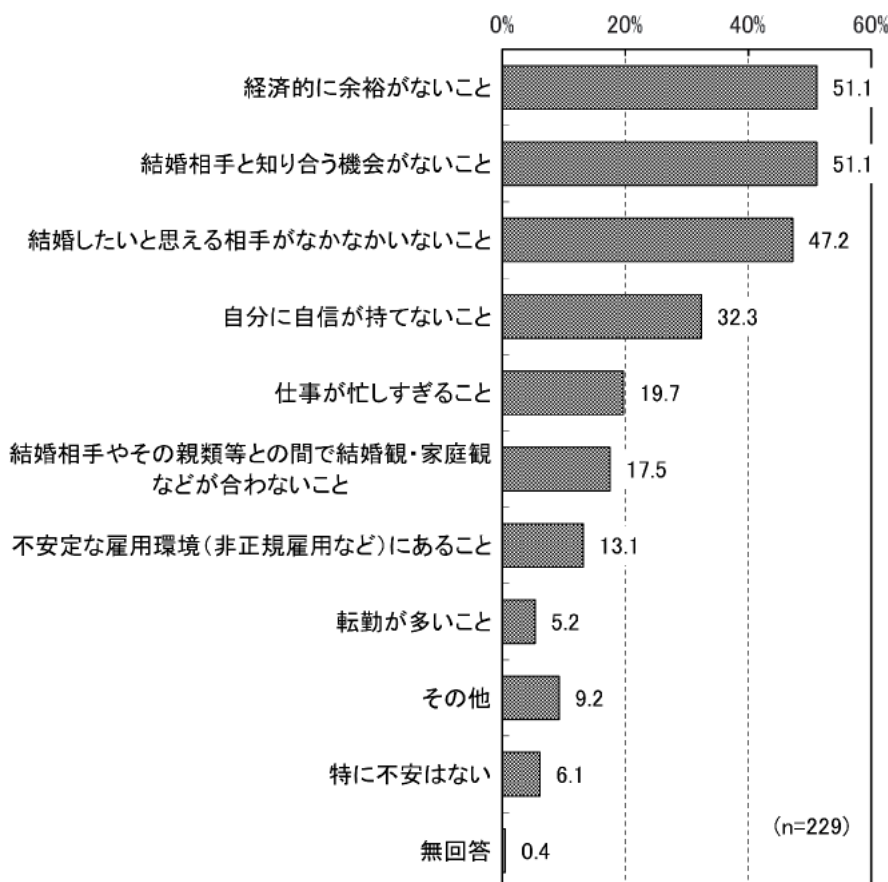
将来結婚する上で、現在不安に感じていることについては、「経済的に余裕がないこと」、「結婚相手と知り合う機会がないこと」が51.1%で最も多く、次いで「結婚したいと思える相手がなかなかいないこと」が47.2%となっている。

男女年齢別にみると、20代男性の「経済的に余裕がないこと」、30代男女の「結婚相手と知り合う機会がないこと」、30代女性の「結婚したいと思える相手がなかなかいないこと」は全体より10ポイント以上高い。

年収別にみると100万円～300万円未満の「経済的に余裕がないこと」、300万円以上の「仕事が忙しすぎること」がいずれも全体よりも10ポイント以上高い。

これらのことから、結婚には経済的な余裕が必要だと感じている一方で、年収・年齢が上がると結婚相手と知り合う機会が減少し、時間的余裕も無くなることが推察される。

図表Ⅲ-7 将来結婚する上で、現在不安に感じていること（複数回答）



図表Ⅲ-8 将来結婚する上で、現在不安に感じていること（クロス集計）

	調査数	不安定な雇用環境にあること	仕事が多すぎる	転勤が多いこと	経済的に余裕がないこと	合間で結婚観・家庭観などが	結婚相手やその親類等との	結婚相手と知り合う機会がないこと	結婚したいと思える相手がなかなかないこと	自分に自信が持てないこと	その他	特に不安はない	無回答
全体	229 100.0	30 13.1	45 19.7	12 5.2	117 51.1	40 17.5	117 51.1	108 47.2	74 32.3	21 9.2	14 6.1	1 0.4	
男性	20～29歳	53 100.0	6 11.3	12 22.6	2 3.8	37 69.8	6 11.3	26 49.1	21 39.6	15 28.3	8 15.1	2 3.8	0 0.0
	30～39歳	39 100.0	5 12.8	5 12.8	4 10.3	21 53.8	4 10.3	24 61.5	18 46.2	14 35.9	3 7.7	0 0.0	0 0.0
女性	20～29歳	88 100.0	10 11.4	17 19.3	6 6.8	42 47.7	19 21.6	35 39.8	38 43.2	30 34.1	8 9.1	9 10.2	0 0.0
	30～39歳	46 100.0	8 17.4	11 23.9	0 0.0	15 32.6	11 23.9	30 65.2	29 63.0	15 32.6	2 4.3	3 6.5	1 2.2
職業	学生	37 100.0	4 10.8	4 10.8	2 5.4	13 35.1	6 16.2	16 43.2	18 48.6	10 27.0	3 8.1	6 16.2	0 0.0
	正社員	125 100.0	4 3.2	36 28.8	9 7.2	60 48.0	23 18.4	65 52.0	63 50.4	39 31.2	14 11.2	6 4.8	0 0.0
	それ以外の非正社員	17 100.0	8 47.1	2 11.8	0 0.0	8 47.1	2 11.8	10 58.8	8 47.1	5 29.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年収	100万円未満	63 100.0	10 15.9	9 14.3	2 3.2	30 47.6	12 19.0	29 46.0	28 44.4	24 38.1	7 11.1	6 9.5	0 0.0
	100万円～300万円未満	98 100.0	19 19.4	16 16.3	3 3.1	65 66.3	14 14.3	49 50.0	44 44.9	30 30.6	8 8.2	4 4.1	1 1.0
	300万円以上	66 100.0	1 1.5	20 30.3	7 10.6	22 33.3	13 19.7	39 59.1	35 53.0	20 30.3	6 9.1	4 6.1	0 0.0

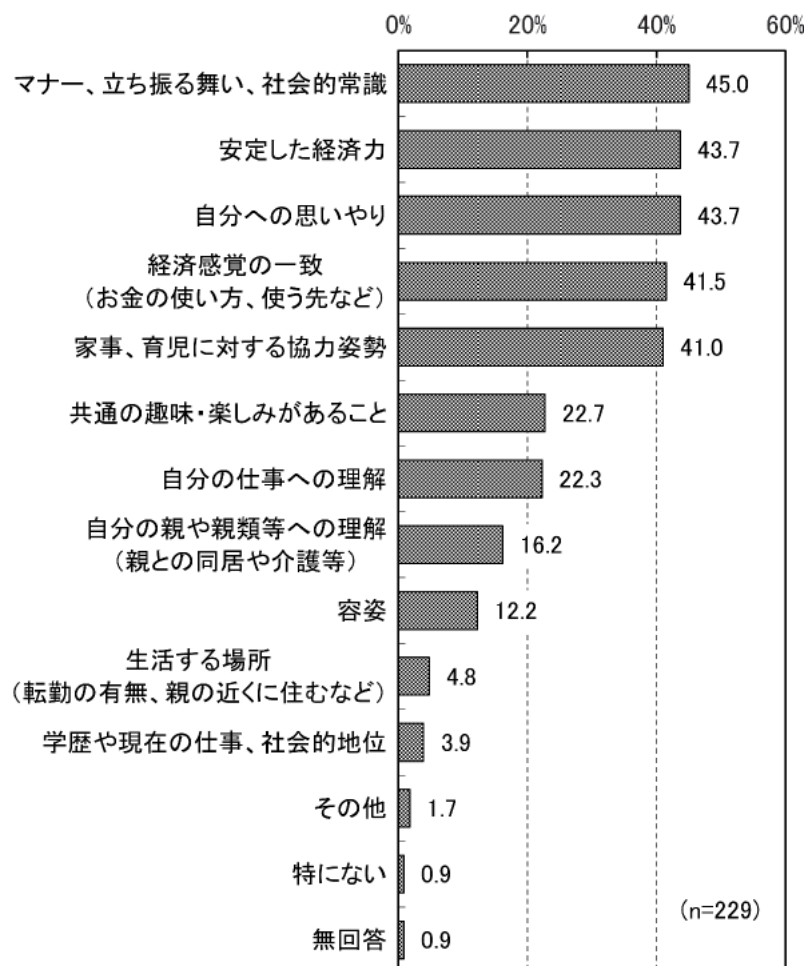
## (4) 結婚相手に求めるもの

## （「結婚したい」と回答した方のみ）

結婚相手に求めるものは、「マナー、立ち振る舞い、社会的常識」が45.0%で最も多く、次いで「安定した経済力」「自分への思いやり」が43.7%となっている。

男女年齢別にみると、男性は「容姿」「自分の仕事への理解」が全体より5ポイント高いのに対して、女性は「安定した経済力」が全体より10ポイント以上高くなっている。

図表Ⅲ-9 将来結婚する上で、結婚相手に求めるもの（複数回答）



図表Ⅲ-10 将来結婚する上で、結婚相手に求めるもの（クロス集計）

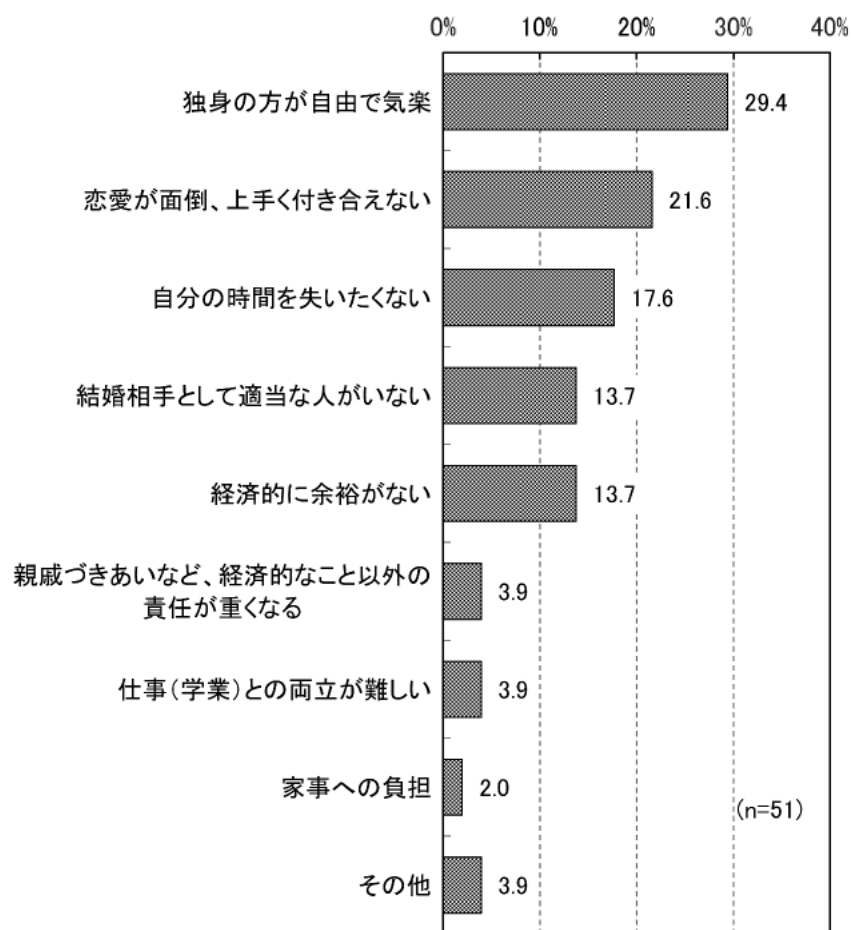
	調査数	安定した経済力	学歴や現在の仕事、社会的地位	容姿	自分の仕事への理解	家事、育児に対する協力姿勢	経済感覚の一致	共通の趣味・楽しみがあること	自分への思いやり	理解	生活する場所	マナー、立ち振る舞い、社会的常識	その他	特にない	無回答	
全体	229	100	9	28	50	94	95	52	100	37	11	103	4	2	2	
	100.0	43.7	3.9	12.2	21.8	41.0	41.5	22.7	43.7	16.2	4.8	45.0	1.7	0.9	0.9	
男性	20～29歳	53	3	0	12	23	20	19	11	18	6	1	33	1	2	2
	100.0	5.7	0.0	22.6	43.4	37.7	35.8	20.8	34.0	11.3	1.9	62.3	1.9	3.8	3.8	
30～39歳	39	6	0	8	11	10	24	10	16	9	1	14	1	0	0	
100.0	15.4	0.0	20.5	28.2	25.6	61.5	25.6	41.0	23.1	2.6	35.9	2.6	0.0	0.0		
女性	20～29歳	88	62	6	5	11	44	27	19	41	15	6	37	1	0	0
	100.0	70.5	6.8	5.7	12.5	50.0	30.7	21.6	46.6	17.0	6.8	42.0	1.1	0.0	0.0	
30～39歳	46	27	3	2	5	18	23	10	23	7	3	18	1	0	0	
100.0	58.7	6.5	4.3	10.9	39.1	50.0	21.7	50.0	15.2	6.5	39.1	2.2	0.0	0.0		
職業	学生	37	15	2	5	11	18	10	6	11	3	1	20	0	2	0
	100.0	40.5	5.4	13.5	29.7	48.6	27.0	16.2	29.7	8.1	2.7	54.1	0.0	5.4	0.0	
	正社員	125	52	6	19	31	48	56	32	57	20	7	56	1	0	1
100.0	41.6	4.8	15.2	24.8	38.4	44.8	25.6	45.6	16.0	5.6	44.8	0.8	0.0	0.8		
それ以外の非正社員	17	12	0	0	2	10	6	3	6	3	0	8	0	0	0	
100.0	70.6	0.0	0.0	11.8	58.8	35.3	17.6	35.3	17.6	0.0	47.1	0.0	0.0	0.0		
年収	100万円未満	63	31	3	9	15	30	18	8	23	13	2	24	1	1	1
	100.0	49.2	4.8	14.3	23.8	47.6	28.6	12.7	36.5	20.6	3.2	38.1	1.6	1.6	1.6	
	100万円～300万円	98	49	3	8	15	44	45	29	44	11	4	47	3	1	1
100.0	50.0	3.1	8.2	15.3	44.9	45.9	29.6	44.9	11.2	4.1	48.0	3.1	1.0	1.0		
300万円以上	66	19	2	10	20	19	31	14	32	12	5	30	0	0	0	
100.0	28.8	3.0	15.2	30.3	28.8	47.0	21.2	48.5	18.2	7.6	45.5	0.0	0.0	0.0		

## (5) 結婚したいとは思わない理由

(「結婚したいとは思わない」と回答した方のみ)

「独身の方が自由で気楽」が29.4%で最も多く、次いで「恋愛が面倒、上手く付き合えない」が21.6%、「自分の時間を失いたくない」が17.6%となっている。

図表Ⅲ-11 結婚したいとは思わない理由（複数回答）





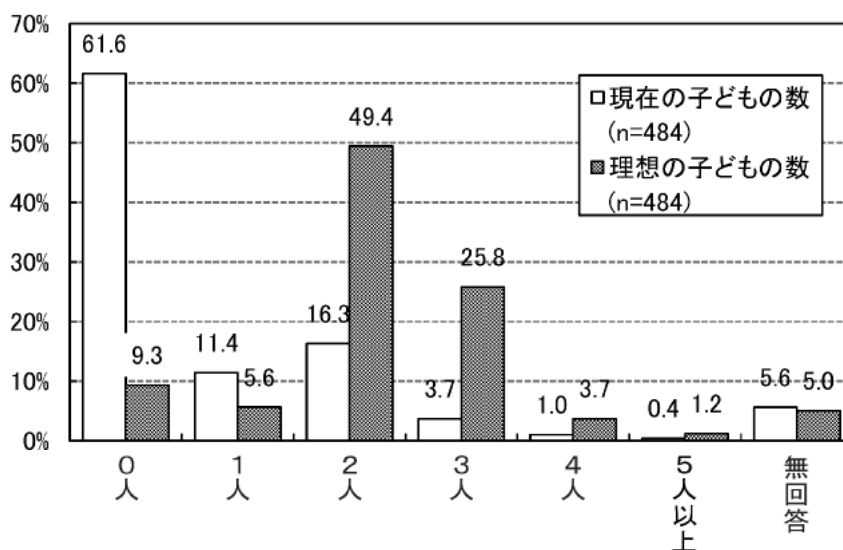
## 7. 出産・子育てについて

### (1) 子どもの人数

現在の子どもの数は「0人」が61.6%で最も多く、次いで「2人」が16.3%、「1人」が11.4%となっている。

理想の子どもの数は「2人」が49.4%で最も多く、次いで「3人」が25.8%、「0人」が9.3%となっている。

図表Ⅲ-12 子どもの人数



図表Ⅲ-13 理想の子どもの人数（クロス集計）

		調査数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体		484	45	27	239	125	18	6	24
		100.0	9.3	5.6	49.4	25.8	3.7	1.2	5.0
男性	20~29歳	85	17	5	40	16	1	1	5
		100.0	20.0	5.9	47.1	18.8	1.2	1.2	5.9
女性	30~39歳	86	11	5	44	17	3	2	4
		100.0	12.8	5.8	51.2	19.8	3.5	2.3	4.7
女性	20~29歳	119	8	8	67	24	4	1	7
		100.0	6.7	6.7	56.3	20.2	3.4	0.8	5.9
女性	30~39歳	182	8	9	82	65	9	2	7
		100.0	4.4	4.9	45.1	35.7	4.9	1.1	3.8
職業	学生	43	4	5	27	4	1	1	1
		100.0	9.3	11.6	62.8	9.3	2.3	2.3	2.3
	正社員	227	23	11	114	63	5	2	9
	100.0	10.1	4.8	50.2	27.8	2.2	0.9	4.0	
	それ以外の非正社員	28	2	4	16	3	2	0	1
	100.0	7.1	14.3	57.1	10.7	7.1	0.0	3.6	



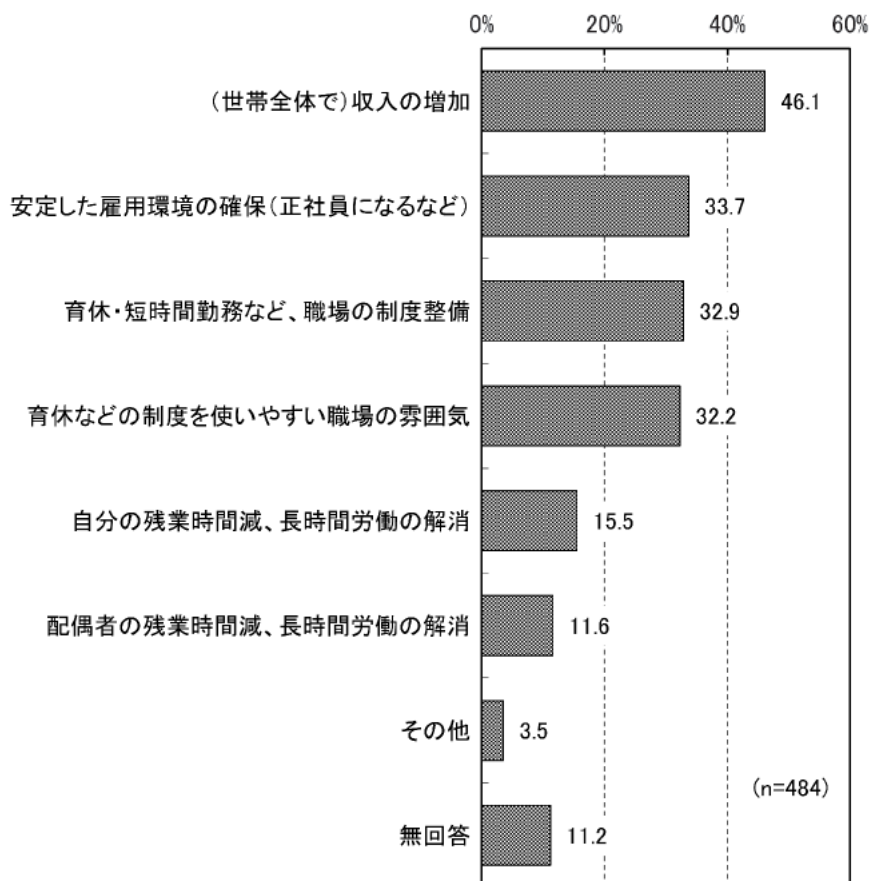
## (2) 理想の数の子どもを持つために、必要なことは何か

## ① 仕事に関すること

仕事に関することでは「(世帯全体で)収入の増加」が46.1%で最も多く、次いで「安定した雇用環境の確保(正社員になるなど)」が33.7%、「育休・短時間勤務など、職場の制度整備」が32.9%となっている。

男女年齢別にみると、男性は「収入の増加」、女性は「育休・短時間勤務など、職場の制度整備」が全体より5ポイント以上高くなっている。

図表Ⅲ-14 仕事に関すること(複数回答)



図表Ⅲ-15 仕事に関すること（クロス集計）

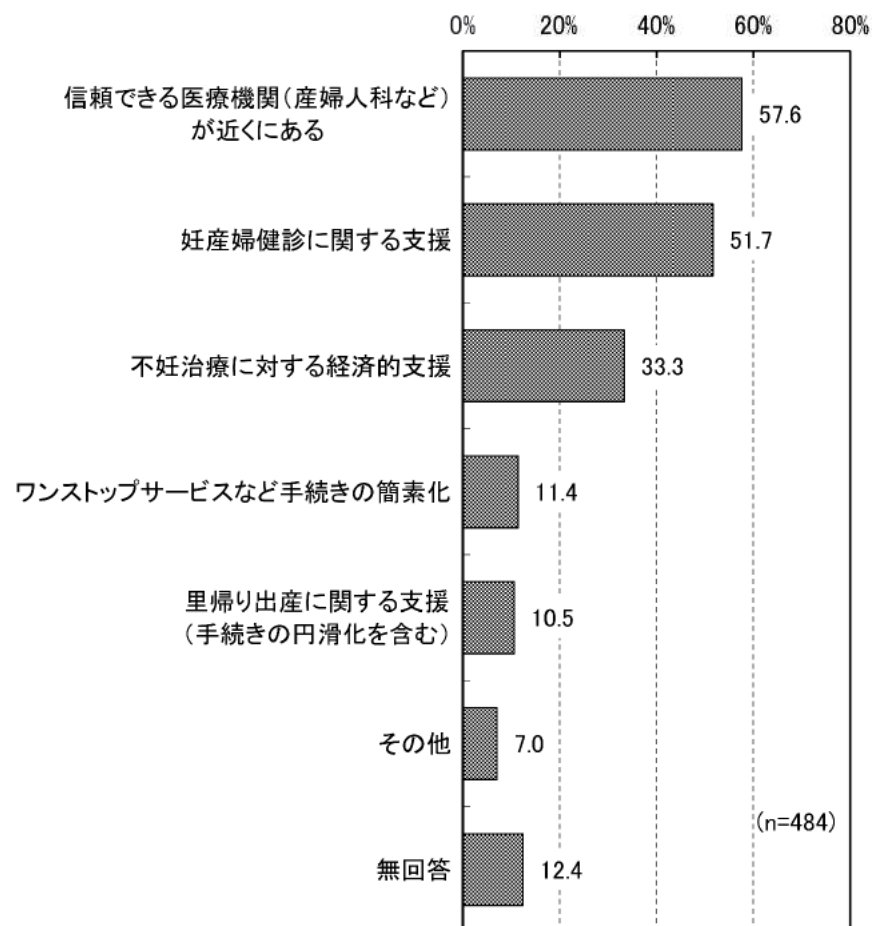
		調査数	安定した雇用環境の確保	自分の残業時間減、長時間労働の解消	配偶者の残業時間減、長時間労働の解消	職場の制度整備	育休・短時間勤務など、育休などの制度を使いやすい職場の雰囲気	収入の増加	その他	無回答
全体		484 100.0	163 33.7	75 15.5	56 11.6	159 32.9	156 32.2	223 46.1	17 3.5	54 11.2
男性	20～29歳	85 100.0	34 40.0	13 15.3	11 12.9	13 15.3	21 24.7	48 56.5	1 1.2	15 17.6
	30～39歳	86 100.0	32 37.2	9 10.5	4 4.7	18 20.9	21 24.4	44 51.2	4 4.7	17 19.8
女性	20～29歳	119 100.0	38 31.9	23 19.3	15 12.6	53 44.5	48 40.3	40 33.6	4 3.4	9 7.6
	30～39歳	182 100.0	55 30.2	26 14.3	26 14.3	73 40.1	62 34.1	84 46.2	7 3.8	13 7.1
職業	学生	43 100.0	23 53.5	5 11.6	3 7.0	14 32.6	19 44.2	14 32.6	0 0.0	4 9.3
	正社員	227 100.0	62 27.3	49 21.6	29 12.8	77 33.9	76 33.5	104 45.8	10 4.4	24 10.6
	それ以外の非正社員	28 100.0	12 42.9	2 7.1	2 7.1	11 39.3	10 35.7	12 42.9	1 3.6	1 3.6

## ② 妊娠・出産する環境に関すること

妊娠・出産する環境に関することでは「信頼できる医療機関（産婦人科など）が近くにある」が57.6%で最も多く、次いで「妊産婦健診に関する支援」が51.7%、「不妊治療に対する経済的支援」が33.3%となっている。

男女年齢別にみると、20代女性は「妊産婦健診に関する支援」が全体より10ポイント以上高く、30代女性は「不妊治療に対する経済的支援」が全体よりも5ポイント以上高い。

図表Ⅲ-16 妊娠・出産する環境に関すること（複数回答）



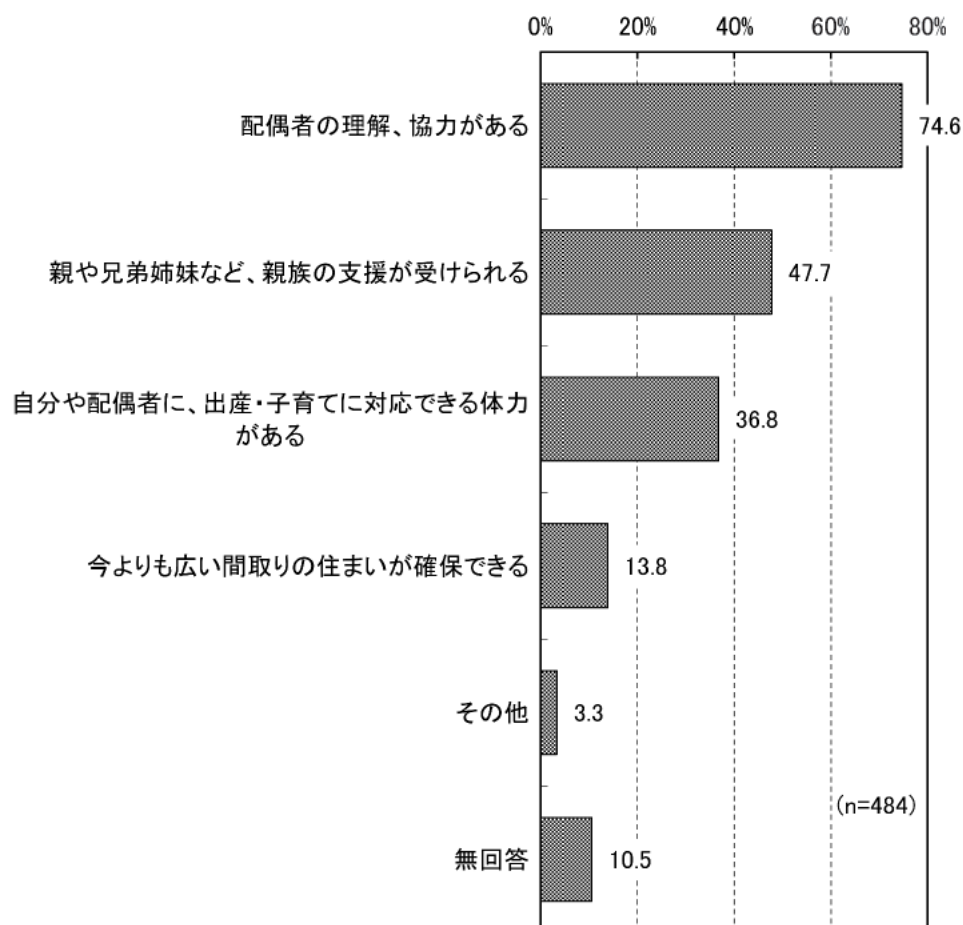
図表Ⅲ-17 妊娠・出産する環境に関すること（クロス集計）

		調査数	不妊治療に対する経済的支援	妊産婦健診に関する支援	里帰り出産に関する支援	信頼できる医療機関が近くにある	ワンストップサービスなど手続きの簡素化	その他	無回答
全体		484 100.0	161 33.3	250 51.7	51 10.5	279 57.6	55 11.4	34 7.0	60 12.4
男性	20～29歳	85 100.0	21 24.7	41 48.2	6 7.1	54 63.5	7 8.2	5 5.9	18 21.2
	30～39歳	86 100.0	21 24.4	31 36.0	10 11.6	45 52.3	18 20.9	6 7.0	18 20.9
女性	20～29歳	119 100.0	36 30.3	75 63.0	14 11.8	70 58.8	12 10.1	3 2.5	10 8.4
	30～39歳	182 100.0	75 41.2	98 53.8	20 11.0	102 56.0	18 9.9	19 10.4	14 7.7
職業	学生	43 100.0	12 27.9	23 53.5	6 14.0	27 62.8	7 16.3	0 0.0	4 9.3
	正社員	227 100.0	82 36.1	112 49.3	26 11.5	125 55.1	29 12.8	14 6.2	28 12.3
	それ以外の非正社員	28 100.0	9 32.1	14 50.0	4 14.3	19 67.9	3 10.7	4 14.3	1 3.6

## ③ 家族・家庭や自分に関すること

家族・家庭や自分に関することでは「配偶者の理解、協力がある」が74.6%で最も多く、次いで「親や兄弟姉妹など、親族の支援が受けられる」が47.7%、「自分や配偶者に、出産・子育てに対応できる体力がある」が36.8%となっている。

図表Ⅲ-18 家族・家庭や自分に関すること（複数回答）



図表Ⅲ-19 家族・家庭や自分に関すること（クロス集計）

		調査数	配偶者の理解、協力がある	親や兄弟姉妹など、親族の支援が受けられる	自分や配偶者に、出産・子育てに対応できる体力がある	今よりも広い間取りの住まいが確保できる	その他	無回答
全 体		484 100.0	361 74.6	231 47.7	178 36.8	67 13.8	16 3.3	51 10.5
男 性	20～29歳	85 100.0	59 <b>69.4</b>	35 <b>41.2</b>	24 <b>28.2</b>	19 22.4	1 1.2	15 17.6
	30～39歳	86 100.0	49 <b>57.0</b>	38 44.2	31 36.0	12 14.0	6 7.0	17 19.8
女 性	20～29歳	119 100.0	100 <b>84.0</b>	60 50.4	43 36.1	11 9.2	2 1.7	9 7.6
	30～39歳	182 100.0	142 78.0	95 52.2	73 40.1	23 12.6	6 3.3	10 <b>5.5</b>
職 業	学生	43 100.0	39 <b>90.7</b>	18 <b>41.9</b>	15 34.9	4 9.3	1 2.3	3 7.0
	正社員	227 100.0	168 74.0	123 <b>54.2</b>	69 <b>30.4</b>	27 11.9	10 4.4	26 11.5
	それ以外の非正社員	28 100.0	23 <b>82.1</b>	15 <b>53.6</b>	10 35.7	3 10.7	2 7.1	1 <b>3.6</b>



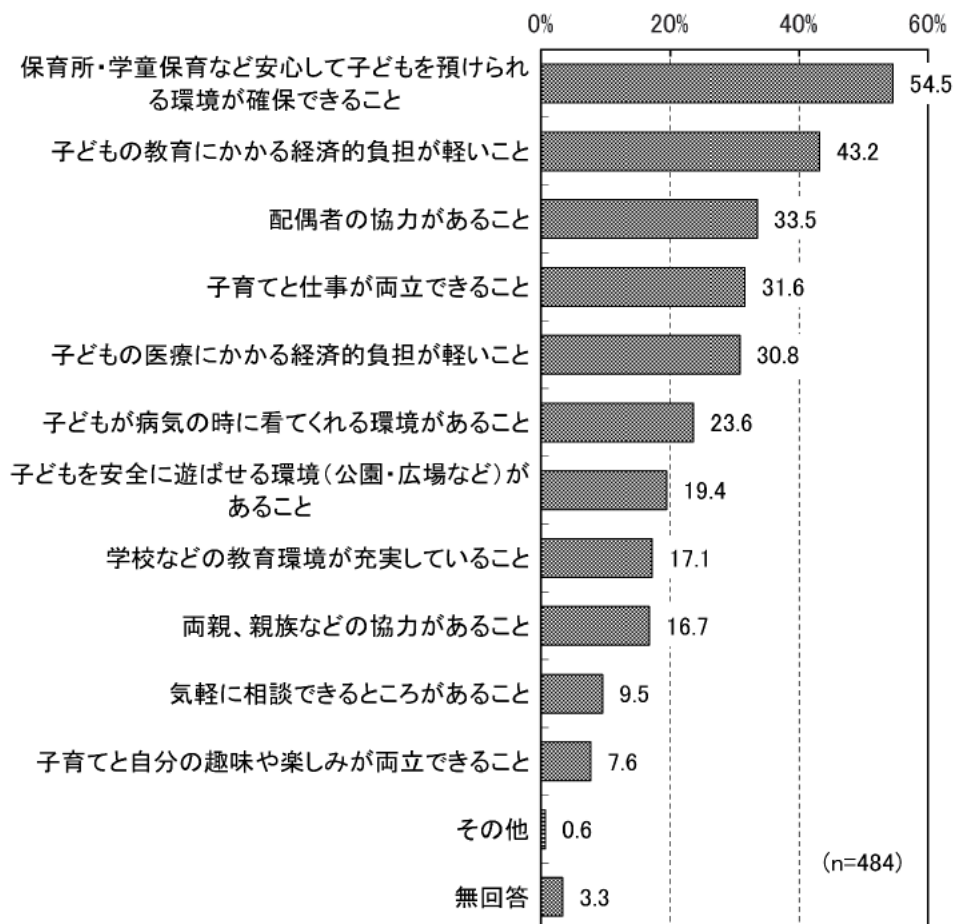
### (3) 安心して子育てをするために、特に重要だと思うこと

安心して子育てをするために、特に重要だと思うことについては、「保育所・学童保育など安心して子どもを預けられる環境が確保できること」が54.5%で最も多く、次いで「子どもの教育にかかる経済的負担が軽いこと」が43.2%、「配偶者の協力があること」が33.5%となっている。

男女年齢別にみると女性の「配偶者の協力があること」が全体より5ポイント以上高い一方で、20代男性の「子育てと自分の趣味や楽しみが両立できること」が全体より10ポイント以上高い。

このことから、男女で子育てに対して重要だと思うことが一致していないことが伺える。

図表Ⅲ-20 安心して子育てをするために、特に重要だと思うこと（複数回答）



図表Ⅲ- 21 安心して子育てをするために、特に重要だと思うこと（クロス集計）

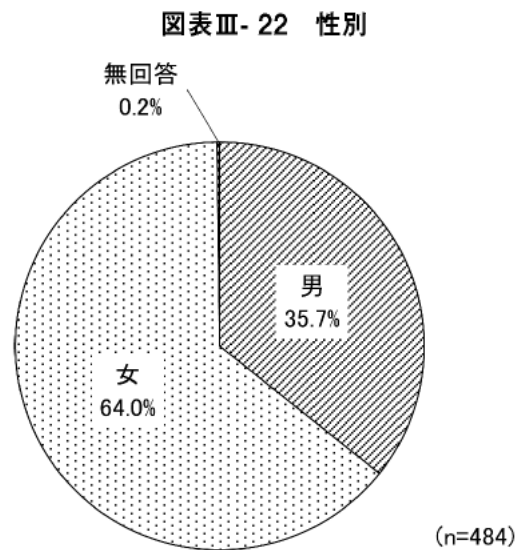
	調査数	預けられる環境が確保できること	保育所・学童保育など安心して子どもを預けられる環境が確保できること	学校などの教育環境が充実していること	子どもが病気の時に見てくれる環境があること	子どもを安全に遊ばせる環境があること	子どもの医療にかかる経済的負担が軽いこと	子どもの教育にかかる経済的負担が軽いこと	子育てと仕事が両立できること	子育てと自分の趣味や楽しみが両立できること	配偶者の協力があること	両親、親族などの協力があること	気軽に相談できるところがあること	その他	無回答
全体	484 100.0	264 54.5	83 17.1	114 23.6	94 19.4	149 30.8	209 43.2	153 31.6	37 7.6	162 33.5	81 16.7	46 9.5	3 0.6	16 3.3	
男性	20～29歳	85 100.0	40 47.1	20 23.5	19 22.4	16 18.8	30 35.3	43 50.6	15 17.6	15 17.6	20 23.5	13 15.3	9 10.6	3 3.5	4 4.7
	30～49歳	86 100.0	47 54.7	15 17.4	26 30.2	16 18.6	28 32.6	38 44.2	24 27.9	10 11.6	14 16.3	15 17.4	7 8.1	0 0.0	4 4.7
女性	20～29歳	119 100.0	76 63.9	18 15.1	30 25.2	25 21.0	33 27.7	39 32.8	38 31.9	5 4.2	49 41.2	18 15.1	8 6.7	0 0.0	5 4.2
	30～49歳	182 100.0	91 50.0	28 15.4	35 19.2	37 20.3	54 29.7	82 45.1	70 38.5	7 3.8	75 41.2	34 18.7	21 11.5	0 0.0	3 1.6
職業	学生	43 100.0	22 51.2	12 27.9	11 25.6	6 14.0	11 25.6	13 30.2	15 34.9	4 9.3	20 46.5	9 20.9	1 2.3	1 2.3	1 2.3
	正社員	227 100.0	139 61.2	37 16.3	67 29.5	42 18.5	64 28.2	93 41.0	77 33.9	19 8.4	63 27.8	35 15.4	19 8.4	1 0.4	8 3.5
	それ以外の非正社員	28 100.0	16 57.1	5 17.9	2 7.1	2 28.6	8 35.7	10 39.3	9 32.1	2 7.1	13 46.4	5 17.9	2 7.1	0 0.0	0 0.0

## 8. 回答者の属性

### (1) 年齢・性別について

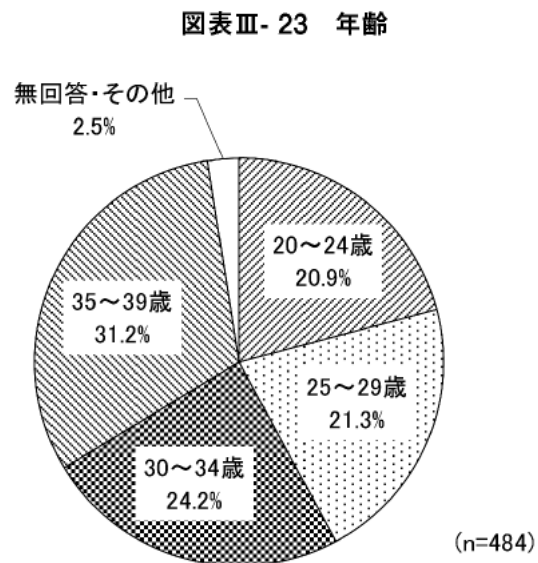
#### ① 性別

性別は「男性」が35.7%、「女性」が64.0%で、女性の方が多くなっている。



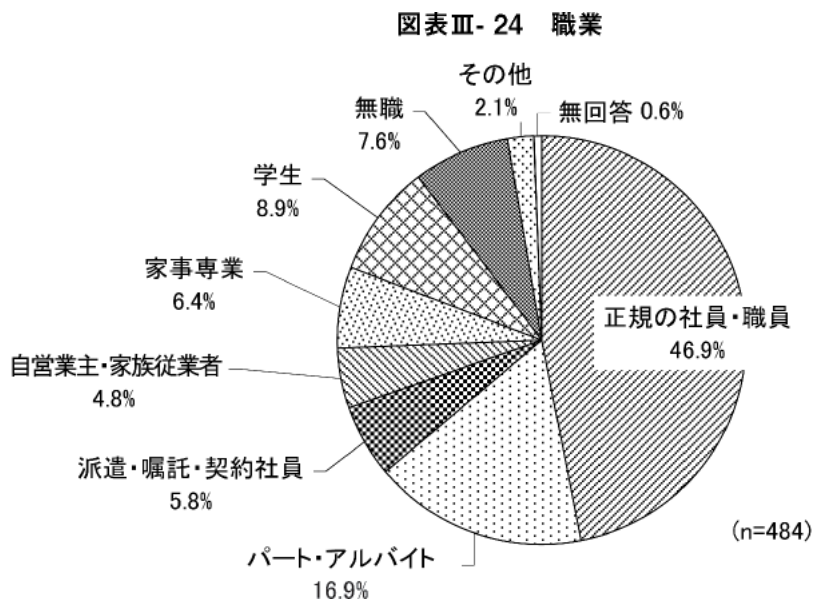
#### ② 年齢

年齢構成は「35～39歳」が31.2%で最も多く、次いで「30～34歳」が24.2%、「25～29歳」が21.3%となっている。



## (2) 職業

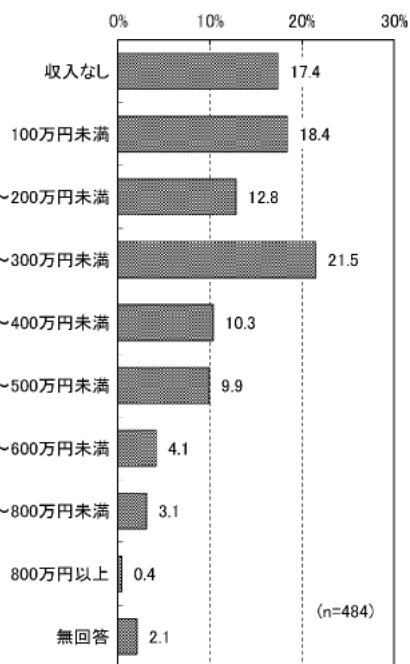
職業は「正規の社員・職員」が46.9%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が16.9%、「学生」が8.9%となっている。



## (3) 昨年の年収

昨年の年収（税込）は「200万円～300万円未満」が21.5%で最も多く、次いで「100万円未満」が18.4%、「収入なし」が17.4%となっている。

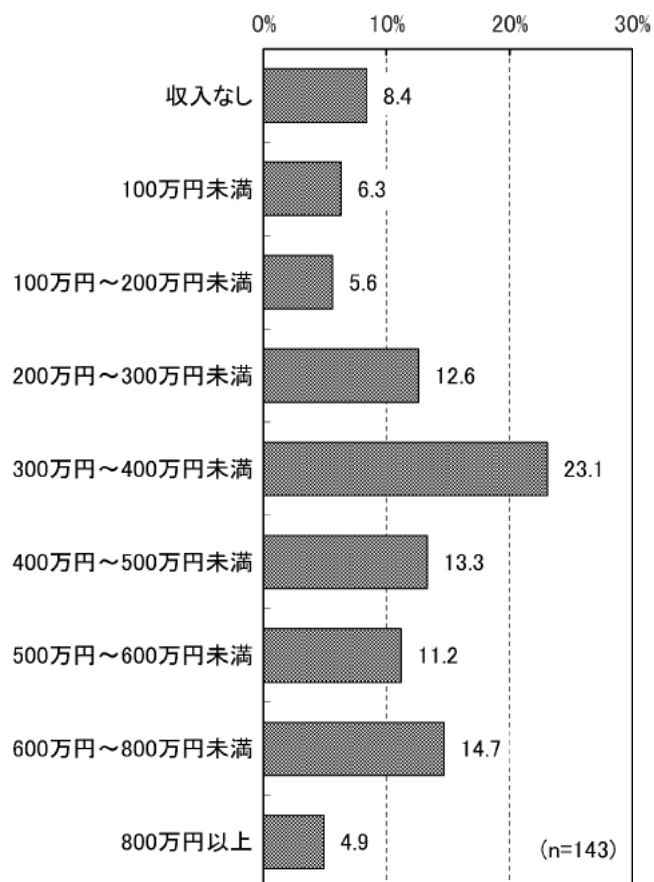
図表Ⅲ- 25 昨年の年収（回答者）



#### (4) 配偶者の昨年の年収

配偶者（配偶者がいる世帯のみ）の昨年の年収（税込）は「300～400万円未満」が23.1%で最も多く、次いで「600万円～800万円未満」が14.7%、「400万円～500万円未満」が13.3%となっている。

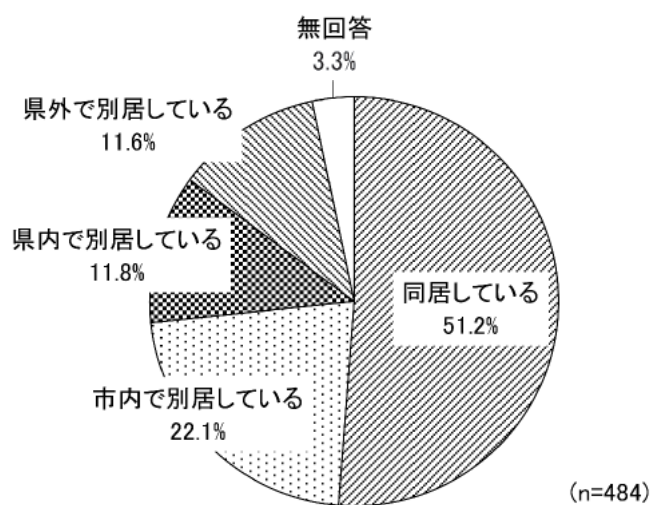
図表Ⅲ-1 ひめじ創生戦略と総合計画等との関係



### (5) 両親との同居

両親との同居については「同居している」が51.2%で最も多く、次いで「市内で別居している」が22.1%、「県内で別居している」が11.8%となっている。

図表Ⅲ- 27 両親との同居





**ひめじ創生戦略**  
～ふるさと・ひめじにプラスワン～  
(人口ビジョン)・(総合戦略)

平成28年(2016年)3月

■発行/姫路市 市長公室 地方創生推進室  
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地  
TEL(079)221-2832

[http://www.city.himeji.lg.jp/s10/2212381/\\_33984.html](http://www.city.himeji.lg.jp/s10/2212381/_33984.html)